

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記) (用紙美濃字體楷書又ハ行書)

通信書記補受験願

私儀通信書記補志願ニ付御試験被成下度別紙履歷書及證明書相添此段相願候也  
但撰擇科目何々

年月日

應府縣華士族平民

氏

名印

試験委員長宛

履歷書

應府縣華士族平民

氏

名

本籍

一 應府縣何市何郡何町何村何番地戸主又ハ何某何男  
兄弟伯叔父等

現住所

一 何市何町何番地(何某方)

住所ノ移轉

一 何年何月何地ニ生レ何年何月迄居住

一 何年何月何地ニ移轉シ何年何月迄居住

右ハ居住ヲ移轉スル毎ニ記スヘシ

學事

一 何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何月ニ至ル所修ノ科目大略何々

一 何年何月ヨリ何地官公私立何學校ニ入り何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス其證書ノ寫別紙ノ如シ

一 何年何月何月間ニシテ其科目ハ何々

一 何年何月何地何學校又ハ内地ニ於テ何々ノ試験ヲ受ケ及第ス其證書若ハ免許狀ノ寫別紙ノ如シ

受驗ノ科目ハ何々

職業

一 何年何月何日官公私立何學校何科教員トナリ教授ニ從事シ何年何月辭職其間何々ヲ兼勤シ何々ノ事務ニ從事ス其辭令左ノ如シ

此所ニ辭令ノ全文ヲ各通トモ掲クヘシ又私立學校等ニテ辭令ナキモノハ其俸給ヲ本文ニ記スヘシ

一 何年何月何官廳ニ於テ何々拜命何年何月迄何々ノ事務ニ從事シ何年何月辭職其辭令左ノ如シ

官記辭令各其全文ヲ掲クヘシ

一 何年何月ヨリ何地何會社ニ備ハレ給料何圓何々ノ業務ニ從事シ何年何月解備其間給料ノ増減

一 何年何月ヨリ何年何月迄何業ニ從事ス

賞罰

一 何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ノ爲メ賞ヲ受ク其辭令左ノ如シ

一 何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ノ爲メ罰ヲ受ケ  
 辭令アルモノハ各其全文ヲ掲ケ辭令ナキモノハ本文中ニ其ノ事由ヲ記シ又裁判所ノ宣告書ハ其要ヲ  
 記スヘシ總テ罰ハ其受罰ノ日數科料罰金ノ總等ヲ記スヘシ  
 一 何年何月何地ニ於テ身代限ノ處分ヲ受ケ何年何月負債ノ辨償ヲ爲シタルコト又ハ破産者ハ家資分散ノ  
 宣告ヲ受ケ何年何月復權シタルコト  
 一 破産者クハ家資分散ノ宣告又ハ身分又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタルコトナシ  
 裁判所ノ申渡ヲ記スヘシ  
 右之通相違無之候也

右

氏

名印

●郵便電信局雇員規程

(明治四十一年三月二十八日 訓令 第二十九號)

(郵便電信局)

關東都督府郵便電信局雇員規程左ノ通定ム  
 關東都督府郵便電信局雇員規程

第一章 總則

- 第一條 雇ハ其ノ職務ニ依リ左ノ名稱ヲ用フ
- 一 通信事務員 (以下單ニ事務員ト稱ス)
  - 二 通信工手 (以下單ニ工手ト稱ス)
  - 三 電話交換手取締 (以下單ニ取締ト稱ス)

四 電話交換手 (以下單ニ交換手ト稱ス)  
 第二條 左ニ掲クル雇ハ各其ノ職名ニ臨時ノ二字ヲ冠ス

- 一 實務練習中ノ者
  - 二 定員外ニ採用スル者
  - 三 期間ヲ限リ採用スル者
- 第三條 雇ハ左ノ區別ニ依リ各其ノ事務ニ從事ス

事務員

通信ニ關スル現業、庶務會計及其ノ他ノ事務並通譯ニ關スル事務

工手

電信電話線路ノ建設、修繕、試験及電信電話機械ノ裝置、修理、試験ニ關スル事務

取締

交換手見習ノ指導、電話交換ノ事務及風紀衛生其ノ他諸般ノ取締

交換手

電話ノ交換ニ關スル實務

第四條 工手ハ關東都督府郵便電信局ニ之ヲ置キ必要ノ地ニ駐在セシメ取締ハ女子交換手十六名以上ノ局ニ  
 限リ之ヲ置ク但シ女子交換手十五名以下ノ局ト雖必要アルトキハ交換手兼務ノ取締ヲ置クコトヲ得  
 第五條 各郵便局所雇ノ定員ハ關東都督府郵便電信局長之ヲ定ム

第二章 採用

第六條 雇ハ左記各號ニ適合シタル者ヨリ之ヲ採用ス

- 一 一年齡滿十四年以上ノ男子又ハ滿十三年以上ニシテ家事ノ繁累ナキ女子但シ電話交換ニ從事セシムル者

第三類 官規 第二章 任免及試験

ハ滿十三年以上滿二十五年以下ノ男子又ハ女子トシ取締ニ從事セシムル者ハ滿二十三年以上滿四十年以下ノ女子トス

- 二 身體強壯ニシテ四肢五管ノ發育完全ナル者
- 三 身元確實ニシテ品行方正ナル者
- 四 雇採用試験ニ合格シ實務ノ傳習ヲ終リタル者

第七條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ雇採用試験ヲ經ス左記區別ニ依リ雇ニ採用スルコトヲ得

事務員 電氣通信ニ從事セシムル者及工事ヲ除ク

- 一 高等小學校ノ卒業證書ヲ有スル者又ハ之ト同等以上ノ學力アリト認め得ヘキ者
- 二 陸海軍現役滿期ノ下士及同相等官以上ノ者
- 三 判任文官ノ職ニ在リタル者
- 四 現ニ官廳ノ雇タル者又ハ滿一年以上雇タリシ者
- 五 特殊ノ學術技能ヲ有スル者

電氣通信ニ從事セシムル事務員

- 一 遞信省、韓國統監府及臺灣總督府部内ニ於テ電氣通信技術ニ從事シタル者
- 二 電氣通信技術傳習生養成規則ニ依リ附與セラレタル終業證書又ハ通信傳習生養成規則ニ依リ附與セラレタル卒業證書ヲ有スル者若ハ之ト同等以上ノ技能ヲ有スト認め得ヘキ者

工手

- 一 滿六箇月以上臨時工手ヲ勤續シタル者
- 二 中學校三年級以上ノ修業證書ヲ有シ又ハ之ト同等以上ノ學力アリト認め得ヘキ者
- 三 滿一箇年以上電氣若ハ土木ニ關スル學術技藝ヲ修メタル者又ハ同業務ニ從事シタル經歷ヲ有スル者

- 四 滿四箇年以上通信工夫又ハ通信職工ヲ勤續シ技倆優秀ナル者
- 五 遞信省部内ニ於テ通信工手ノ職務ニ從事シタル經歷ヲ有スル者

取締、交換手

- 一 尋常小學全科ヲ卒業シ又ハ之ト同等以上ノ學力アル者ニシテ實務ノ傳習ヲ終リタル者
- 二 電話交換手伍長、取締又ハ交換手ノ職ニ在リタル者

第八條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ雇ニ採用スルコトヲ得ス

- 一 重輕罪ヲ犯シタル者
- 二 禁治產者又ハ準禁治產者
- 三 破產若ハ家資分産ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者
- 四 懲戒ニ依リ免官又ハ免職トナリ滿二箇年ヲ經過セサル者

第九條 雇ヲ採用セムトスルトキハ本人自筆ノ履歷書<sup>第二號</sup>及身元引受證書<sup>第三號</sup>ヲ徵スヘシ

第十條 官廳又ハ會社等ニ奉職セシ經歷アル者ヲ採用セムトスルトキハ本人ノ性行動情、在職中不都合ノ有無退職ノ理由、退職當時ノ給料等ヲ調査シ其ノ差支ナキヲ認メタル上採用スヘシ

第十一條 身元引受人ハ滿洲内ニ居住シ獨立ノ家計ヲ營ム年齡滿二十一年以上ノ男子ニシテ第八條各號ニ抵觸セス身元確實ナル者ニ限ル

第十二條 交換手ハ採用ノ前交換手見習ヲ命シ電話交換ノ實務ヲ練習セシムヘシ但シ前ニ交換手ヲ奉職セシ經歷アル者ヲ採用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三章 試験

第十三條 雇採用試験ハ必要ニ應シ關東都府府郵便電信局長之ヲ行フ

第十四條 試験ヲ受ケムトスル者ニハ志願書<sup>第一號</sup>及履歷書<sup>第二號</sup>ニ身元引受證書<sup>第三號</sup>ヲ添ヘ試験期日前ニ差

出ツシム

第十五條 試験ヲ分チテ體格検査及學力試験トシ體格検査ニ合格シタルモノニアラサレハ學力試験ヲ行ハス

第十六條 學力試験ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

- 一 讀書 通信ニ關スル法規
  - 二 作文 普通往復文
  - 三 筆跡 楷書、行書
  - 四 算術 珠算加減乘除、比例交換手ニハ比例ヲ課セス工手ニハ代數一次方程式ヲ併課ス
- 左記各科ハ所要ニ依リ之ヲ課ス
- 一 電氣通信技術
  - 二 外國語、讀方、譯解、會話
  - 三 電氣、土木又ハ建築ニ關スル學術
  - 四 地理

第十七條 試験ニ關スル細則ハ關東都督府郵便電信局長之ヲ定ム

第四章 給與

第十八條 雇ノ給料ハ月給又ハ日給トス

第十九條 雇ノ給料ハ左ノ如シ

事務員 月額金五十圓以下

工手

取締 日額金一圓以下

交換手

第二十條 初メテ採用スル雇ノ給料ハ左ノ如シ但シ相當ノ經歷ヲ有スルモノハ前給料額迄ヲ給與スルコト

ヲ得

事務員

月額金十七圓以下

工手

取締 日額金三十五圓以下

交換手 日額金三十圓以下

第二十一條 交換手見習ニハ給料ヲ給セス手當トシテ一日金三十圓以下ヲ給ス

第二十二條 本規程ニ於テ月額ト稱スルハ日給額ニ三十ヲ乘シタル給額ヲ謂フ

第二十三條 臨時事務員ニハ給料ヲ給セサルコトヲ得

第二十四條 特種ノ事情ノ爲メ第二十條及第二十一條ノ制限ニ依リ難キモノハ特ニ増給スルコトヲ得

第二十五條 雇ノ給料ハ別ニ定ムル所ニ依リ支給ス

第二十六條 雇解職ノ場合ハ在職中勤勞成績顯著ナル者ニ限り慰勞手當金ヲ一時給與スルコトアルヘシ

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ雇タル者竝取締及交換手ハ本令ニ依リ採用シタルモノト看做ス

第一號書式

志願書

私儀通信事務員、電話交換手志願ニ付御試験被下度別紙履歷書及身元引受證書ヲ添此段相願候也

年 月 日

應府縣華士族平民

關東都督府郵便電信局長宛

氏

名印

第二號書式

履 歷 書

應府縣華士族平民

氏

名

年月日生

本籍

一應府縣何市何郡區何町村何番地月主又ハ何某兄弟伯叔父等

現住所

一應府縣何市何郡區何町村何番地(何某方寄留)

住所ノ移轉

一何年何月何地ニ生レ何年何月マテ居住

一何年何月何地ニ移轉シ何年何月迄居住

右ハ居住ヲ移轉スル毎ニ之ヲ記入スヘシ

學事

一何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何月ニ至ル所修ノ科目大略何々

一何年何月ヨリ何地官公私立何學校ニ入り何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス其證書ノ寫別紙ノ如シ

一修業何年何月間ニシテ其科目ハ何々

一何年何月何地何學校若ハ何地ニ於テ何々ノ試験ヲ受ケ及第ス其證書若ハ免許狀ノ寫別紙ノ如シ

受験ノ科目ハ何々

職業

一何年何月何地官公私立何學校何科教員トナリ教授ニ從事シ何年何月解職其ノ間何々ヲ兼務シ何々ノ事務ニ從事ス其ノ辭令左ノ如シ

此ノ所ニ辭令ノ全文ヲ各通トモ掲クヘシ又私立學校等ニテ辭令ナキモノハ其ノ俸給等ヲ本文ニ記スヘシ

一何年何月何官廳ニ於テ何々拜命何年何月迄何々ノ事務ニ從事シ何年何月辭職其ノ辭令左ノ如シ

官記辭令各其ノ全文ヲ掲クヘシ

一何年何月ヨリ何會社ニ傭ハレ給料何圓何々ノ業務ニ從事シ何年何月ニ至テ解雇其ノ間給料ノ増減

一何年何月ヨリ何年何月迄何業ニ從事ス

一何年何月ヨリ何々ノ著譯ニ從事シ何年何月ニ至ル其ノ著譯スル所ノ書名左ノ如シ

賞罰

一何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ノ爲賞ヲ受ク其ノ辭令左ノ如シ

辭令全文ヲ掲クヘシ辭令ナキモノハ本文中ニ受賞ノ事由ヲ記スヘシ

一何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ノ爲罰ヲ受ク辭令アルモノハ各其ノ全文ヲ掲ケ辭令ナキモノハ本文中ニ

其ノ事由ヲ記シ又裁判所ノ宣告書ハ其ノ要ヲ記スヘシ總テ罰ハ其ノ受罰ノ日數科料罰金ノ類等ヲ記スヘシ

破産宣告ノ有無

一何年何月何地ニ於テ身代限ノ處分ヲ受ケ何年何月負債ノ辨濟ヲ爲シタルコト又ハ破産若ハ家資分散ノ

宣告ヲ受ケ何年月復權シタルコト  
裁判所ノ申渡ヲ書スヘシ  
一 破産ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ  
右ノ通相違無之候也  
年月日

第三號書式

應府縣何市何郡何町村何番地  
戸主又ハ何某何男兄弟伯叔父等  
族籍

右 氏 名印

右者御局雇拜命致候上ハ奉職中御規則ニ從ヒ誠實ニ其ノ責任ヲ盡サセ可申ハ勿論同人ニ關スル事件ハ一切私ニ於テ引受ケ聊モ御局ニ對シ御迷惑相掛中間敷仍テ證書差上候也  
年月日

肩書前同斷

引受人 氏 名  
本人 氏 名印

關東都督府郵便電信局長氏名宛

●關東州學校職員任用ニ關スル件 (明治四十二年三月十九日勅令第五十一號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東州學校職員任用ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 關東州小學校ノ訓導ハ左ノ資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

- 一 師範學校、中學校又ハ高等女學校ノ教員免許狀ヲ有スル者
- 二 小學校教員免許狀ヲ有スル者

第二條 關東州公學堂ノ教諭ハ左ノ資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

- 一 前條ノ教員免許狀ヲ有シ支那語ヲ以テ教授ヲ爲シ得ヘキ者
- 二 前號ノ外支那語ニ通シ二年以上關東州ニ於テ教育ニ從事シタル者

附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東州公學堂ニ於テ教育ニ從事スル者ハ本令施行ノ際ニ限リ第二條ノ規定ニ拘ラス教諭ニ任用スルコトヲ得

●關東州小學校准訓導及公學堂助教採用規則 (明治四十二年四月一日勅令第二十號)

關東州小學校准訓導及關東州公學堂助教採用規則左ノ通相定ム

第一條 關東州小學校准訓導ハ小學校正教員又ハ准教員ノ免許狀ヲ有スル者ヨリ之ヲ採用ス

第二條 關東州公學堂助教ハ小學校正教員又ハ准教員ノ免許狀ヲ有シ若ハ二年以上關東州ニ於テ教育ニ從事シ支那語ヲ以テ教授ヲ爲シ得ヘキ者ヨリ之ヲ採用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

現ニ關東州公學堂ニ於テ教育ニ從事スル者ハ當分ノ内第二條ノ規定ニ拘ハラス助教ニ採用スルコトヲ得

●關東都督府中學校長特別任用令 (明治四十二年三月二十六日勅令第三十八號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東都督府中學校長特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

關東都督府中學校長特別任用令

關東都督府中學校長ハ一年以上文部省直轄校長、公立師範學校長、公立中學校長又ハ奏任教官若ハ奏任待遇ノ教職ニ在リタル者ヨリ文官高等試驗委員ノ銜ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●旅順工科學堂學長特別任用令 (明治四十二年五月十日勅令第百三十五號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ旅順工科學堂學長特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

旅順工科學堂學長特別任用令

旅順工科學堂學長ハ一年以上奏任教官ノ職ニ在リタル者ニ限り文官高等試驗委員ノ銜ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三章 賞罰

●關東都督府警察賞與ニ關スル件 (明治四十年四月九日勅令第百十三號)

朕關東都督府警察賞與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

關東都督ハ警察上特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シ賞與ヲ行フコトヲ得

本令ノ施行ニ必要ナル事項ハ關東都督之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●警察賞與施行規則 (明治四十年五月二十三日府令第三十三號)

關東都督府警察賞與施行規則左ノ通相定ム

關東都督府警察賞與施行規則

第一條 警察賞與ハ左ノ事項ニ關シ特ニ功勞アリト認ムルモノニ對シ之ヲ行フ但シ警察官吏ニ對シテハ其ノ功勞顯著ナルトキニ限ル (四一、府四一號改正)

一 刑事被告事件ノ搜索又ハ犯人ノ逮捕

二 水火風震災惡疫流行其ノ他事變ノ際ニ於ケル防禦救濟

三 他人ノ生命又ハ財產危難ノ救護

四 匪賊ノ討伐搜索又ハ警戒

第二條 警察賞與ハ別テ左ノ二種トス  
一 賞與金百圓以内又ハ之ニ相當スル物品ノ賞與  
二 賞狀

- 第三條 犯罪人ヲ逮捕シ又ハ逮捕ヲ容易ナラシメタル者ニ對スル賞與ハ其ノ事件ノ判決確定シタル後之ヲ行フ但シ犯罪ノ事實明確ナル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 賞與ヲ受クヘキ者行賞前禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ警察職員ニシテ懲戒處分ニ依リ其ノ職ヲ免セラレタルトキハ賞與ヲ行ハス
- 第五條 賞與ヲ受クヘキ者行賞前死亡シタルトキハ左ノ順位ニ從ヒ死亡ノトキ死者ト同一ノ家ニ在ル最近親族ニ之ヲ給ス  
配偶者 直系卑屬 直系尊屬 兄弟姉妹  
前項同順位内ニ在リテハ男ハ女ニ長ハ幼ニ先ツ但シ家督相續人ハ最先トス  
死者ニシテ第一項ノ親族ナキトキハ弔祭ヲ行フ者ニ之ヲ給スルコトアルヘシ

● 巡查精勤證書授與規程

(明治三十九年七月二十日) (警務部) (訓令 第二十七號)

關東州民政署巡查精勤證書授與規程左ノ通相定ム

- 第一條 關東州民政署巡查精勤證書授與規程  
シ其ノ名譽ヲ表彰ス
- 第二條 官吏服務紀律ニ違背シ若ハ巡查懲罰例ニ依リ罰俸月俸百分ノ二十以上ヲ科セラレタル者及罰俸月俸百分ノ二十以内ト雖一箇年以内ニ二回以上科罰セラレタル者ハ精勤證書ヲ授與スルコトヲ得ス但シ爾後更ニ滿二箇年以上ヲ經過シ前條ニ適合スルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 精勤證書ハ警務部長又ハ支署長ノ具狀ニ依リ民政長官審査ノ上之ヲ授與ス
- 第四條 精勤證書ヲ授與セラレタル者ハ左ノ特典ヲ有ス

- 一 巡查在職中普通同級巡查ノ上班タル待遇ヲ受クルコト
- 二 巡查退職後九箇年以内ニ於テ再就職セントスルトキハ學術試驗ヲ要セス優先ニ採用セララルコト
- 第五條 精勤證書ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ疏明シ再渡ヲ請フコトヲ得
- 第六條 精勤證書ヲ授與セラレタル後懲戒ニ依リ免職セラレタル者又ハ其ノ行狀修ラス若ハ第二條ニ該當シ情狀重キ者ハ其ノ證書ヲ褫奪スヘシ
- 第七條 精勤證書ハ別記様式ニ依ル

附則

本規程ハ之ヲ巡捕ニ準用ス  
(別記様式)

第何號

精勤證書

關東州民政署巡查位勳功等

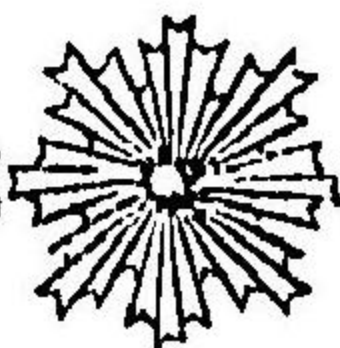
何 某

右行狀方正ニシテ勤務勉勵事務ニ熟達ス因テ此  
證ヲ授與スルモノ也

明治何年何月何日

關東州民政署民政長官位勳

何 某 印





●看守及女監取締精勤證書授與規程 (明治三十九年九月二日) (監獄署)

關東都督府看守及女監取締精勤證書授與規程左ノ通相定ム

關東都督府看守及女監取締精勤證書授與規程

第一條 精勤證書ハ看守及女監取締ニシテ在職二年以上ニ及ヒ品行方正、勤務勉勵、事務熟達ノ者ニ授與シ其ノ名譽ヲ表彰スルモノトス

第二條 精勤證書ハ典獄ノ其狀ニ依リ關東都督府之ヲ授與ス

第三條 第一條ニ適合スル者ト雖左ノ事項ニ該當スル者ニハ精勤證書ヲ授與スルコトヲ得ス

一 看守及女監取締懲戒規程ニ依リ月俸百分ノ二十以上ニ相當スル減俸ニ處セラレタル者又ハ一年內ニ三回以上月俸百分ノ二十以下ニ相當スル減俸ニ處セラレタル者

二 奉職後刑法其ノ他法令ニ依リ處分ヲ受ケタル者

第四條 前條ニ依リ處分ヲ受ケタル後二年以上ヲ經過シ第一條ニ該當スルトキハ之ニ精勤證書ヲ授與スルコトヲ得

第五條 精勤證書ヲ有スル看守又ハ女監取締ハ其ノ在職中普通同級看守又ハ同級女監取締ノ上班トシ退職後再ヒ就職ヲ求ムルトキハ學術試驗ヲ行ハスシテ之ヲ採用スルコトヲ得

第六條 精勤證書ヲ所持スル者ニシテ看守及女監取締懲戒規程ニ依リ免職セラレタルトキ又ハ退職後禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ精勤證書ヲ無効トス

第七條 精勤證書ヲ有スル者ニシテ其ノ品行修マラス又ハ第三條ニ該當シ情狀重キ者ハ其ノ證書ヲ褫奪スルコトアルヘシ

第八條 精勤證書ヲ亡失シタル者ニハ更ニ之ヲ授與スヘシ

第九條 精勤證書ハ別記雛形ニ依リ調製スヘシ

附則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別記雛形)

第 號

精 勤 證 書

右品行方正ニシテ勤務勉勵事務ニ熟達ス因テ此ノ證ヲ授與スルモノ也 關東都督府看守(女監取締) 氏 名

年 月 日



關東都督位勳爵 氏 名 印

●文官懲戒令 (明治三十二年三月二十八日) (勅令 第六十三號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官懲戒令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官懲戒令

第一章 總則

第一條 親任式ヲ以テ敍任スル官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外官吏ハ本令ニ依ルニ非サレハ懲戒ヲ受クルコトナシ

第二條 官吏ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ  
一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

第二類 官規 第三章 賞罰

二 職務ノ内外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第三條 懲戒ハ左ノ如シ

一 免官

二 減俸

三 譴責

第四條 免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ官職ヲ失ヒタル日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス

免官ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キ者ハ位記ヲ返上セシム

第五條 減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額若ハ月俸ノ三分一以下ヲ減ス

第六條 勅任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ内閣總理大臣之ヲ奏請シ奏任官ノ免官ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ内閣總理大臣ヲ經テ本屬長官之ヲ奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

奏任官ノ減俸及判任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ニ依リ本屬長官之ヲ行フ

譴責ハ本屬長官之ヲ行フ

第七條 懲戒ニ付セラルヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ對シ懲戒委員會ヲ開クコトヲ得ス

懲戒委員會ノ議決前懲戒ニ付スヘキ者ニ對シ刑事訴訟ノ始マリタルトキハ事件ノ判決ヲ終ハルマテ懲戒委員會ノ開會ヲ停止ス

第二章 懲戒委員會

第一款 總則

第八條 懲戒委員會ヲ分テ文官高等懲戒委員會及文官普通懲戒委員會トス

第九條 文官高等懲戒委員會ハ高等官ノ懲戒ヲ議決シ文官普通懲戒委員會ハ判任官ノ懲戒ヲ議決ス

第二款 文官高等懲戒委員會

第十條 文官高等懲戒委員會ハ委員長一人委員六人ヲ以テ組織ス

第十一條 委員長ハ樞密顧問官ノ中ヨリ委員ハ行政裁判所長官、勅任行政裁判所評定官、勅任判事及其他ノ勅任文官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

委員會ニ豫備委員六人ヲ置キ前項ノ例ニ依リ之ヲ命ス

第十二條 委員會ハ委員長及委員ヲ併セ五人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

委員會ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

第十三條 委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

委員中事故アルトキ又ハ副員アルトキハ委員長ハ豫備委員ノ中ヨリ代理ヲ命ス

第十四條 委員及豫備委員ノ任期ハ三年トス

委員及豫備委員中副員アリテ補闕ノ爲任命セラレタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス

第十五條 委員長及委員ハ左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ免ス

一 其ノ官職ヲ失ヒタルトキ

二 委員會所在地以外ニ任所ヲ轉シタルトキ

第十六條 委員會ニ幹事一人ヲ置ク

第十七條 幹事ハ高等官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第十八條 幹事會ハ委員長ノ命ヲ承ケ委員會ノ議事ヲ準備シ庶務ヲ統理ス

第十九條 委員會ニ書記三人ヲ置ク

第二十條 書記ハ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十一條 書記ハ幹事ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三款 文官普通懲戒委員會

第二十二條 文官普通懲戒委員會ハ左ノ各官廳ニ之ヲ置ク

- 一 内閣
- 一 樞密院
- 一 各省
- 一 統監府
- 一 臺灣總督府
- 一 關東都督府 (四〇、勅一〇七號追加)
- 一 會計検査院
- 一 行政裁判所
- 一 警視廳
- 一 北海道廳
- 一 樺太廳 (同上)
- 一 府縣
- 一 貴族院事務局
- 一 衆議院事務局

前項ノ外各省大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ所轄官廳ニ文官普通懲戒委員會ヲ置クコトヲ得

第二十三條 委員長ハ各官廳ノ長官ヲ以テ之ニ充ツ但シ内閣ニ在リテハ法制局長官、樞密院ニ在リテハ書記官長、各省ニ在リテハ次官、統監府ニ在リテハ總務長官、臺灣總督府關東都督府ニアリテハ民政長官ヲ以テ之ニ充ツ (四〇、勅一〇七號改正)

委員ハ二人乃至六人トシ當該官廳高等官ノ中ヨリ本屬長官之ヲ命ス但内閣ニ在テハ賞勳局、法制局及内閣

所屬高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

特別ノ事情アルトキハ上級官廳ノ高等官ヲ以テ下級官廳ノ委員ニ充ツルコトヲ得

第二十四條 委員會ハ委員長及委員二人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十五條 委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

第二十六條 委員會ニ書記二人ヲ置ク

第二十七條 書記ハ委員長所屬官廳ノ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十八條 書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三章 懲戒手續

第二十九條 本屬長官ハ所部ノ官吏ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證據ヲ具ヘ書面ヲ以テ懲戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

第三十條 前條ノ要求アリタルトキハ委員長ハ期日ヲ定メテ委員會ヲ招集スヘシ

委員會ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ本人ノ出席ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人所屬官廳ヨリ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ

第三十一條 委員會ニ於テ議決ヲ爲シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ本屬長官ニ覆申スヘシ

第三十二條 委員長及委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス

第三十三條 委員會ノ審査手續ハ委員會之ヲ定ム

附則

第三十四條 高等官試補ハ高等官ニ準シ判任官見習ハ判任官ニ準シ本令ヲ適用ス

第三十五條 本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

官吏懲戒例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

臺灣總督府、統監府及理事廳並關東都督府ノ巡查及判任待遇監獄職員

等ノ懲戒ニ關スル件 (明治四十年九月四日) (勅令第二四九十三號)

朕臺灣總督府、統監府及理事廳並關東都督府ノ巡查及判任待遇監獄職員等ノ懲戒ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府巡查補及判任待遇監獄職員ノ懲戒ニ關スル規程ハ臺灣總督、統監府及理事廳巡查並理事廳判任待遇監獄職員ノ懲戒ニ關スル規程ハ統監、關東都督府巡查及判任待遇監獄職員ノ懲戒ニ關スル規程ハ關東都督府之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

巡查懲戒規程 (明治四十年九月二十七日) (民政部、民政部、警務署)

關東都督府巡查懲戒規程左ノ通相定ム

關東都督府巡查懲戒規程

- 第一條 巡查ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ
  - 一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
  - 二 職務ノ内外ヲ問ハズ官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ
- 第二條 懲戒ハ左ノ如シ
  - 一 免職

二 減俸

三 譴責

第三條 免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ爾後滿二箇年間官職ニ就クコトヲ得ス

第四條 減俸一箇月以上六箇月以下月俸ノ三分ノ一ヲ減ス

第五條 懲戒ハ懲戒委員會ノ決議ニ依リ之ヲ行フ但シ譴責ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 懲戒委員會ハ委員長一人委員若干人書記一人ヲ以テ組織ス

第七條 委員長ハ民政部警務課長ヲ以テ之ニ充テ委員及書記ハ都督之ヲ命ス

委員長事故アルトキハ上席委員其ノ職務ヲ代理ス

第八條 書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第九條 委員會ハ委員二人以上出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス

委員會ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

委員長及委員ハ自己ノ親族ニ關スル事件ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ第一項ノ定員ニ滿タサルトキハ臨時委員ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 都督ハ巡查ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ書類ヲ以テ其ノ事件ヲ委員長ニ交付ス

委員長前項ノ交付ヲ受ケタルトキハ臨時委員會ヲ開キ其ノ決議ヲ復申スヘシ

委員長ハ必要ト認ムルトキハ本人ヲ召喚シ取調ヲ爲スコトヲ得

巡查懲戒規程中巡捕ニ準用ノ件 (明治四十年十月三日) (民政部)

明治四十年九月訓令第八十七號關東都督府巡查懲戒規程第一條乃至第四條ノ規定ハ之ヲ巡捕ニ準用ス

●判任官待遇監獄職員懲戒規程

(明治四十年十月十日 訓令第九十二號)

(民政部)

關東都督府判任官待遇監獄職員懲戒規程左ノ通相定ム

關東都督府判任官待遇監獄職員懲戒規程

第一條 判任待遇監獄職員ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一 職務上ノ義務ニ違背シタルトキ

二 職務ニ怠慢ノ所爲アリタルトキ

三 職務ノ内外ヲ問ハス監獄官吏タルノ威信ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第二條 懲戒ハ左ノ如シ

一 免職

二 減俸 一箇月以上六箇月以下月俸百分ノ三十以下ヲ減ス

三 譴責

第三條 懲戒ハ懲戒委員會ノ決議ニ依リ之ヲ行フ但シ譴責ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 懲戒委員會ハ委員長一人委員若干人書記一人ヲ以テ組織ス

第五條 委員長ハ典獄ヲ以テ之ニ充ツ委員及書記ハ監獄中ヨリ都督之ヲ命ス

第六條 懲戒委員會ハ委員長及委員二名以上出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

委員事故アリテ前項ノ定數ニ滿タサルトキハ臨時委員ヲ命スルコトアルヘシ

委員長事故アルトキハ上席委員之ヲ代理ス

第七條 懲戒委員會ノ議事ハ多數決トシ可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

第八條 委員長及委員ハ自己ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス

第九條 書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十條 都督ハ判任待遇監獄職員ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ書類ヲ以テ其ノ事件ヲ懲戒委員長ニ交付ス

委員長前項ノ交付ヲ受ケタルトキハ隨時委員會ヲ開キ其ノ決議ヲ復申スヘシ

委員長ハ必要ト認ムルトキハ本人ヲ召喚シテ取調ヲ爲スコトヲ得

第十一條 懲戒ハ辭令書ヲ作リ之ヲ本人ニ交付ス

●看守及女監取締懲戒規程

(明治三十九年九月一日 訓令第十四號) (監獄署)

關東都督府看守及女監取締懲戒規程左ノ通相定ム

關東都督府看守及女監取締懲戒規程

第一條 關東都督府看守及女監取締ハ左ノ場合ニ於テ本規程ニ定ムル所ノ懲戒ヲ受ク

一 職務上ノ義務ニ違背シタルトキ

二 職務上怠慢ノ所爲アリタルトキ

三 職務上ノ内外ヲ問ハス監獄官吏タル威信ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第二條 懲戒ヲ分テ左ノ三種トス

一 免職

二 減俸 一箇月以上五箇月以内月俸百分ノ二十以下ヲ減ス

三 譴責

第三條 懲戒ハ懲戒委員會ノ決議ニ依リ典獄之ヲ行フ

譴責ハ典獄之ヲ行フ

第四條 懲戒委員會ハ委員長一名委員三名書記一名ヲ以テ組織ス

第五條 委員長ハ典獄トス

委員ハ獄務係長、警守係長、經理係長ヲ以テ之ニ充ツ書記ハ委員長之ヲ命ス

委員長事故アルトキハ上席委員之ヲ代理ス

第六條 委員會ハ委員長及委員二名以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

委員會ノ議事ハ多數決トシ可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

委員長又ハ委員ハ自己ノ親族ニ關スル事件ノ議事ニ參加スルコトヲ得ス

第七條 書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 典獄ハ看守及女監取締ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト認メタルトキハ證憑ヲ具ヘ書面ヲ以テ懲戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

前項ノ要求アリタルトキハ委員長ハ隨時委員會ヲ開キ其ノ議決ノ理由ヲ典獄ニ報告スヘシ

委員會ハ必要ト認ムルトキハ本人ヲ召喚シ取調ヲ爲スコトヲ得

第九條 懲戒ハ辭令書ヲ作り之ヲ本人ニ交付ス

附則

本規程ハ之ヲ授業手及押丁ニ準用ス

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四章 恩給扶助及賜金

●統監府及關東都督府等在勤官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル件

(明治四十年五月十四日 法律第四十八號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル統監府及關東都督府等在勤官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十三年法律第七十五號第一條ノ規定ハ別ニ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外統監府及關東都督府並其ノ所屬官署ニ在勤スル者ニ關シテハ明治三十九年九月以降ノ在職月數ニモ之ヲ適用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ノ規定ハ統監府及其ノ所屬官署ニ在勤スル者ニ關シテハ明治三十九年二月以降、關東都督府及其ノ所屬官署ニ在勤スル者ニ關シテハ明治三十九年九月以降ノ在職月數ニモ之ヲ適用ス

(參照)

● 葬費又ハ俸太ニ在勤スル官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル件 (明治三十三年三月三十一日 法律第七十五號)

第一條 葬費又ハ俸太ニ在勤スル官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル件 (明治三十三年三月三十一日 法律第七十五號)

ニ於テ其ノ在職一箇月ニ對シ半箇月ヲ加算ス但シ從軍年ノ加算アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ニ依リ加算シタル年數ハ軍人恩給法ニ於テ文官服務中ハ日數中ニ算入ス

第一項ノ加算ハ葬費又ハ俸太ニ對シタル日ニ始マル

● 統監府、關東都督府及樺太廳在勤巡查看守及女監取締ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル件 (明治四十年五月十四日 法律第四十九號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル統監府、關東都督府及樺太廳等在勤巡查、看守及女監取締ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十五年法律第二十九號第一條ノ規定ハ別ニ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外統監府及關東都督府並其

第二類 官規 第四章 恩給扶助及賜金

ノ所屬官署ニ在勤スル巡查看守及女監取締ニ之ヲ準用ス樺太ニ在勤スル者ニ付亦同シ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ノ規定ハ統監府及其ノ所屬官署ニ在勤スル者ニ關シテハ明治三十九年二月以降、關東都督府及其ノ所屬官署ニ在勤スル者ニ關シテハ明治三十九年九月以降ノ在職月數ニモ之ヲ適用ス

(參照)

●臺灣ニ在勤スル巡查看守陸軍監獄看守陸軍警守女監取締及遺族扶助料ニ關スル件 (明治三十五年三月二十五日) (法律第二十九號)

第一條 臺灣ニ在勤スル巡查看守陸軍監獄看守陸軍警守及女監取締ニシテ二箇年以上引續キ在職シタル者ニハ巡查看守退隱料及遺族扶助料

法ノ勤続年數計算ニ於テ其ノ在職一箇月ニ對シ半箇月ヲ加算ス但シ從軍年ノ加算アル場合ハ此ノ限ニ非ラス

前項ノ加算ハ臺灣ニ到着シタル日ニ始マル

●巡查看守退隱料遺族扶助料法施行令 (明治三十四年七月二十六日) (勅令第四百四十八號)

朕巡查看守退隱料及遺族扶助料法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

巡查看守退隱料及遺族扶助料法施行令

第一條 巡查看守退隱料及遺族扶助料法第四條第二項ノ退隱料年額及同條第三項ノ增加金額ノ等差ハ左ノ如シ

第一 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ヲ亡シタルトキ	退隱料年額	增加年額
第二 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若ハ殘病ニ罹リタルトキ	六箇月分	四箇月分
第三 一肢ヲ亡シ若ハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ	五箇月半分	三箇月半分
第四 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ	四箇月半分	二箇月半分

第五 一眼ヲ盲シ若ハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ

第六 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ

四箇月分	二箇月分
三箇月分	一箇月分

第二條 巡查看守退隱料及遺族扶助料法第二十三條ノ行政官廳ハ國庫ヨリ給與金ヲ支給スヘキ者ニ在リテハ

內閣恩給局長其ノ他ニ在リテハ地方長官(東京府ニアリテハ警視總監)トス

臺灣ニ於テハ前項ノ行政官廳ハ國庫ヨリ給與金ヲ支給スヘキ者ニ在リテハ廳長トス

第一項ノ行政官廳ハ統監府所屬ノ者ニ在リテハ統監、關東都督府所屬ノ者ニ在リテハ關東都督、樺太廳所屬ノ者ニ在リテハ樺太廳長官トス (四〇、勅一九〇號改正)

附則

本令ハ明治三十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

●巡查看守退隱料及遺族扶助料法 (明治三十四年七月) (法律第三十八號)

第一條 巡查看守勤続十年以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ退隱料ヲ給ス

一 年滿五十歳ヲ超ヘ退職シタルトキ

二 傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタルトキ

三 廢官廢廳ニ依リ退職シタルトキ

四 身體若ハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタルトキ

前項ノ退隱料年額ハ退職當時ニ於ケル月俸三箇月分トシ勤続十年以上三十年ニ至ル迄二年ヲ加フル毎ニ退職當時ノ月俸額十分ノ一ヲ增加ス

第三條 退隱料ヲ受ケル者又ハ受ケヘキ者再ヒ前職ニ就キ勤続一年以上ニシテ第一項各號ノ一ニ當ルトキハ前後通算シテ勤続三十年ニ至ル迄後ノ勤続一年ヲ加フル毎ニ後ノ退職當時ニ於ケル月俸額十分ノ一ヲ退隱料年額ニ增加ス

一時金ヲ受ケタル者又ハ受ケヘキ者再ヒ前職ニ就キ第一項各號ノ一ニ當ルトキハ前後通算シテ勤続十年以上ニ至ル者ニハ第一條ニ

第二類 官規 第四章 恩給扶助及賜金

依り退職料ヲ給シ十年未満ノ者ニハ第二條ニ依リ後ノ勤続年數ニ對スル一時金ヲ給ス  
 第四條 巡查又ハ看守職務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ又ハ之ニ準スヘキ者ト爲リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタルトキハ  
 退職料ヲ給ス  
 前項ノ退職料年額ハ退職當時ノ月俸三箇月分乃至六箇月分トス  
 第一條及第三條ニ依リ退職料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者本條第一項ニ當ルトキハ其ノ退職料年額ニ退職當時ノ月俸四箇月分以内ヲ増加ス  
 前二項ニ依ル退職年額及增加金額ハ傷疾疾病ノ輕重ニ依リ之ヲ定ム  
 第二十三條 本法ニ依ル給與金ノ支給ニ關スル事項ヲ裁定スヘキ行政官廳ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

官役職工人夫扶助令 (明治四十年五月九日勅令第百八十六號)

朕官役職工人夫扶助令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官役職工人夫扶助令

- 第一條 政府ニ於テ使役スル職工、人夫其ノ他ノ傭人自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ業務上傷疾ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外本令ニ依リ扶助金ヲ給ス
- 第二條 扶助金ヲ分テ左ノ五種トス
  - 一 療治料
  - 二 給助料
  - 三 不具癈疾者扶助料
  - 四 遺族扶助料
  - 五 葬祭料
- 第三條 療治料ハ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ治療ヲ要スル者、給助料ハ療養ノ爲休業中ノ者又ハ治療數月ヲ要スル見込ヲ以テ退業シタル者ニ之ヲ給ス

不具癈疾者扶助料ハ終身自用ヲ辨スルコト能ハサル者、終身業務ヲ營ムコト能ハサル者、其ノ他ノ不具癈疾者ニ之ヲ給ス

葬祭料及遺族扶助料ハ死亡ノトキ死者ト同一ノ家ニ在リタル遺族ニ之ヲ給ス

第四條 遺族中葬祭料及遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ左ノ順位ニ依ル

配偶者 子 父母 孫 祖父母 兄弟姉妹

第五條 前項同順位内ニ於テハ男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ但シ家督相續人ハ最先トス

第六條 不具癈疾者扶助料ヲ受ケ又ハ治療數月ヲ要スル見込ヲ以テ退業シタルトキハ療治料、葬祭料及遺族扶助料ヲ給セス

第六條 扶助金ノ額ハ別表ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

官役人夫死傷手常規則ハ之ヲ廢止ス

(別表)

給助料	療治料		實費
	療養ノ爲休業中ノ者	治療數月ヲ要スル見込ヲ以テ退業シタル者	
	日給	三分ノ一以下	三分ノ一以下
	日給	三十日分以上	三十日分以上
	日給	百二十日分以上	百二十日分以上
	日給	百七十日分以上	百七十日分以上



不具廢疾者扶助料		其ノ他ノ不具廢疾者		修身業務ヲ營ムコト能ハサル者	
非		祭		遺族扶助料	
日給	六十日分以下	日給	六十日分以下	日給	六十日分以上
日給	四十日分以下	日給	四十日分以下	日給	四十日分以上
日給	十圓以上十五圓以下	日給	十圓以上十五圓以下	日給	八十日分以上
日給	百五十日分以下	日給	百五十日分以下	日給	百五十日分以上

一 不具廢疾者扶助料又ハ遺族扶助料ノ金額三十圓ニ充タサルトキハ三十圓ヲ給ス  
 一 稼高ニ依リ貸錢ヲ受クル者ニ在リテハ前三十日間ノ就業平均額ニ依リ其ノ給額ヲ定ム但シ平均額ヲ算出スルコト能ハサルトキハ適宜之ヲ定ム

●滿洲在住者ノ恩賞諸祿ニ關スル請求手續 (明治四十年十一月二日 告示第八十二號)

滿洲在住者ノ恩賞諸祿ハ本年十月渡以降關東都督府民政部ニ於テ支給スヘキニ付年金、恩給若ハ扶助料ノ受領者ニシテ居住地ニ於テ支給ヲ受ケムトスル者ハ成規ノ手續ニ依リ州内ニ在テハ民政署、民政支署、州外ニ在テハ警務署、警務支署又ハ領事館、領事分館ニ於テ各權利證書ノ檢閲ヲ受ケ支拂請求書ニ檢閱濟ノ證明ヲ受ケ關東都督府民政部ニ提出スヘシ

●在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法中主務大臣及領事館ノ管掌

ニ屬スル事項ニ關スル件 (第十四類五 章二收ム)

●關東都督府郵便所長手當退官賜金及死亡賜金給與令 (第二類一 章二收ム)

第五章 服制、徽章

●關東都督府文官服制 (明治三十九年八月二十九日 勅令第二百三十二號)

朕關東都督府文官服制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 關東都督府文官服制別表ノ通定ム但シ別ニ規定アルモノハ此限ニ在ラス  
 附則  
 本令施行ノ期日ハ關東都督府之ヲ定ム  
 (別表)

上 衣			靴	帽	表
鈕	肩章	袖章	製式	地質	色
鈕五箇ヲ前部ニ附ス	襟章及三條ノ中ニ附シ 三條ノ中ニ附シ 三條ノ中ニ附シ 三條ノ中ニ附シ 三條ノ中ニ附シ 三條ノ中ニ附シ	長四寸三分、幅一寸七分、地質又ハ金線、三條ノ中ニ附シ 金線、三條ノ中ニ附シ 金線、三條ノ中ニ附シ 金線、三條ノ中ニ附シ 金線、三條ノ中ニ附シ	立襟一行鈕釦長シヤケツト形状如圖	黒又ハ茶褐色羅紗但シ夏ハ白又ハ茶褐	任
同	同	同	同	同	任
同	同	同	同	同	任

袴	地質	製式	帽		佩	劔	劔	外		套
			地質	製式				製式	地質	
黒又ハ茶褐色羅紗	黒又ハ茶褐色羅紗	普通長袴	圓形黒革製前庇及幅四分ノ黒革製頂紐ヲ附シ額紐ノ兩端ハ前ノ兩側ニ於テ出ハ幅一分ノ形状如圖	前章ハ全徑一寸五分ノ金モル製櫻葉ニテ結ヒ之ヲ抱合セ中央ニ金色櫻花ヲ附シ朝ノ周圍ニ幅四分ノ縹織金線三條ヲ纏フ	柄白銀長五寸縹織金線二尺三寸柄鑲柄ニ同一金具ニ葉附櫻花二箇宛テ附シ	黒革製幅一寸二分ノ釣革ハ幅七分ノ前章長八寸後章長二尺二分前章徑一寸三分周圍ニ葉附櫻花唐草縹織金線ヲ附シ中央ニ縹織七分ノ金色櫻花葉ヲ附シ其ノ他ノ金具ハ總テ金色	總頭茶壺形長一寸一分縹徑八分縹徑一寸一分	黒又ハ茶褐色羅紗	同	同
黒又ハ茶褐色羅紗	黒又ハ茶褐色羅紗	普通長袴	同	同	柄鑲胸輪及縹金具ニ葉附櫻花一箇宛テ附ス餘ハ同上	同	同	同	同	同
黒又ハ茶褐色羅紗	黒又ハ茶褐色羅紗	普通長袴	同	同	柄黒岐、柄鑲胸輪及縹金具ニ花葉ヲ附セス餘ハ同上	同	同	同	同	同
黒又ハ茶褐色羅紗	黒又ハ茶褐色羅紗	普通長袴	同	同	柄鑲胸輪及縹金具ニ葉附櫻花一箇宛テ附ス餘ハ同上	同	同	同	同	同
黒又ハ茶褐色羅紗	黒又ハ茶褐色羅紗	普通長袴	同	同	柄鑲胸輪及縹金具ニ葉附櫻花一箇宛テ附ス餘ハ同上	同	同	同	同	同
黒又ハ茶褐色羅紗	黒又ハ茶褐色羅紗	普通長袴	同	同	柄鑲胸輪及縹金具ニ葉附櫻花一箇宛テ附ス餘ハ同上	同	同	同	同	同
黒又ハ茶褐色羅紗	黒又ハ茶褐色羅紗	普通長袴	同	同	柄鑲胸輪及縹金具ニ葉附櫻花一箇宛テ附ス餘ハ同上	同	同	同	同	同
黒又ハ茶褐色羅紗	黒又ハ茶褐色羅紗	普通長袴	同	同	柄鑲胸輪及縹金具ニ葉附櫻花一箇宛テ附ス餘ハ同上	同	同	同	同	同
黒又ハ茶褐色羅紗	黒又ハ茶褐色羅紗	普通長袴	同	同	柄鑲胸輪及縹金具ニ葉附櫻花一箇宛テ附ス餘ハ同上	同	同	同	同	同

一 此ノ制服ハ大禮服又ハ通常服ニ代用スルコトヲ得

二 此ノ制服ニ肩章ヲ附セサルモノサ略服トス

三 略服ヲ用ルル場合ニ於テハ必要アルトキノ外劔及劔帶ヲ佩用セス又ヘルメツト形帽ヲ代用スルコトヲ得 (四〇、勅二)

四 關東都府府職員中識別ヲ爲スヲ要スルトキハ特別ノ徽章ヲ附スルコトヲ得徽章及其ノ附著方法ハ關東都府之ヲ定ム

● 文官服制施行規則 (明治三十九年九月二日 府令第十一號)

關東都府府文官服制施行規則左ノ通相定ム

關東都府府文官服制施行規則

- 第一條 明治三十九年勅令第二百三十二號關東都府府文官服制ハ明治三十九年九月十日ヨリ之ヲ施行ス
- 直屬長官ニ於テ止ラ得スト認ムル者ニハ相當ノ期間ヲ定メ制服ノ著用ヲ猶豫スルコトヲ得
- 第二條 左ニ掲クル者ハ劔及劔帶ヲ佩用スヘシ
- 一 廳外ニ於テ人民ニ直接スル職務ニ服スル者
- 二 其ノ他直屬長官ニ於テ必要トスル職務ニ服スル者

● 文官制服襟章 (明治四十年四月二十六日 府令第十一號)

關東都府府文官制服襟章左ノ通相定ム

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

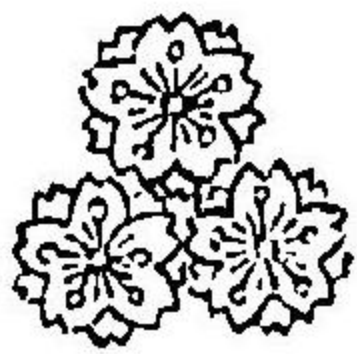
關東都府府文官制服襟章

第二類 官規 第五章 服制、徽章

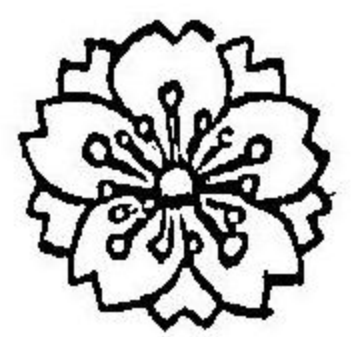
	高 等 官	判 任 官
民 政 長 官	徑二分五厘ノ金色複瓣櫻花章三箇ヲ一組トシ各一組ヲ襟ノ兩端ニ附ス形狀圖ノ如シ	
民 政 部 職 員	徑四分ノ金色複瓣櫻花章各一箇ヲ襟ノ兩端ニ附ス形狀圖ノ如シ	銀色餘ハ同上
民 政 署 職 員	徑四分ノ金色單瓣櫻花章各一箇ヲ襟ノ兩端ニ附ス形狀圖ノ如シ	銀色餘ハ同上
法 院 職 員	徑四分ノ金色桐章各一箇ヲ襟ノ兩端ニ附ス形狀圖ノ如シ	銀色餘ハ同上
郵 便 電 信 局 職 員	徑四分ノ金色星章各一箇ヲ襟ノ兩端ニ附ス形狀圖ノ如シ	銀色餘ハ同上

寸法實大

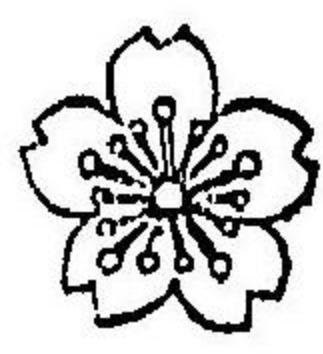
民 政 長 官



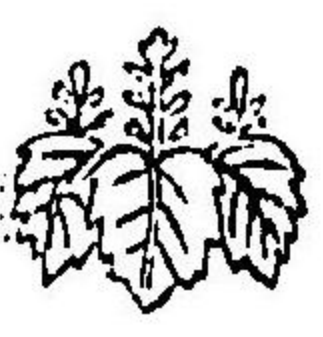
民 政 部 職 員



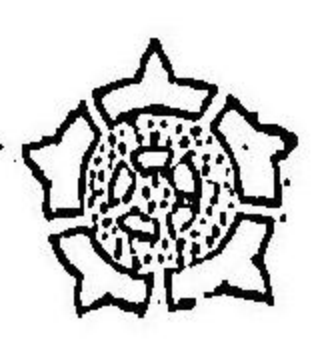
民 政 署 職 員



法 院 職 員



郵 便 電 信 局 職 員

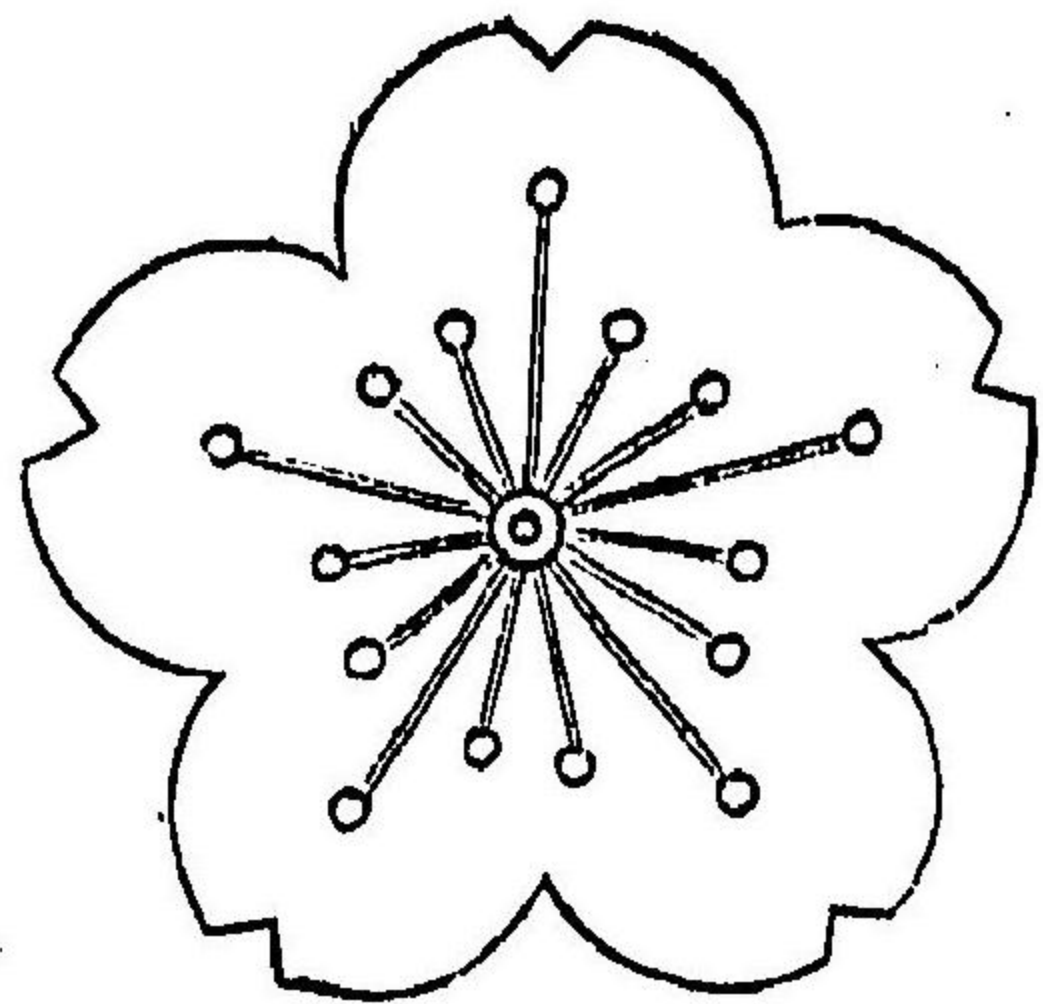


● 文官以下防寒外套腕章

(明治三十九年十二月一日) 告示第三十六號

關東都督府文官以下ノ防寒外套腕章左ノ通相定ム但シ警察官ノ腕章ハ別ニ之ヲ定ム  
關東都督府文官以下防寒外套腕章

名 稱	形 狀	附 著 位 置	品 質	
			高 等 官	判 任 官 及 雇 員 囑 託 員
腕 章	縱横一寸五分ノ櫻花章	在 腕	金モール	銀モール
				赤地羅紗



● 關東都督府警察官服制

(明治三十九年八月二十九日) 勅令第二百三十三號

關東都督府警察官制服ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
關東都督府警察官制服別表ノ通之ヲ定ム但シ本令施行前巡查ニ給與シタル制服ハ其ノ使用期間内之ヲ着用セシムルコトヲ得

附則

本令施行ノ期日ハ關東都督之ヲ定ム

(別表)

關東都督府警察官制服圖例 (四、勅一) (六號改正)				名	稱
製式	地質	徽章	製式	地質	警視總監長
立襟一行銀釦又ハ布釦	同上	冬茶絨又ハ布	前章大サ中心コリ尖頭	茶絨	警視
同上	同上	同上	上部高サ一寸七分餘	同上	部
同上	同上	同上	下部高サ一寸七分餘	同上	巡查部長
同上	同上	同上	下部高サ一寸五分	同上	巡查

通	常	袴			衣						徽章		
		側章	製式	地質	肩章	釦釦	袖章	散章					
花石桐桐	目白絨	綵緞大	綵緞大	夏茶絨	並及シ綵	並及シ綵	並及シ綵	並及シ綵	並及シ綵	並及シ綵	並及シ綵	並及シ綵	並及シ綵
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
筒ハ藍	綵緞	八分綵	八分綵	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
眞鍮	綵緞	五分綵	五分綵	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

種	外			刀		刀	
	章	式	製	正緒		帶	川
				常緒	正緒		
銀章	蛇腹線	二箇	附ス	同上	同上	同上	同上
銅章	蛇腹線	二箇	附ス	同上	同上	同上	同上
銀章	蛇腹線	二箇	附ス	同上	同上	同上	同上
銅章	蛇腹線	二箇	附ス	同上	同上	同上	同上
銀章	蛇腹線	二箇	附ス	同上	同上	同上	同上
銅章	蛇腹線	二箇	附ス	同上	同上	同上	同上
銀章	蛇腹線	二箇	附ス	同上	同上	同上	同上
銅章	蛇腹線	二箇	附ス	同上	同上	同上	同上

種	套		
	雨覆	乙	
		地質	製式
普通	普通	茶袴	同上
普通	普通	茶袴	同上
普通	普通	茶袴	同上
普通	普通	茶袴	同上
普通	普通	茶袴	同上
普通	普通	茶袴	同上
普通	普通	茶袴	同上
普通	普通	茶袴	同上
普通	普通	茶袴	同上

服制四中左ノ如ク改ム

警視帽ノ圖ノ上ニ警視總長帽ノ圖ヲ、警視袖章ノ圖ノ上ニ警視總長袖章ノ圖ヲ、警視肩章ノ圖ノ上ニ警視總長肩章ノ圖ヲ、警視刀緒ノ圖ノ前ニ警視總長刀緒ノ圖ヲ及警視外套袖章ノ圖ノ上ニ警視總長外套袖章ノ圖ヲ加フ

襟章、刀、柄、刀帶及甲種外套ノ部「警視」ノ前ニ「警視總長」ヲ加フ

(服圖略ス)

警察官服制施行期日 (明治三十九年九月二日 府令第十二號)

關東都府警察官服制ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前巡查ニ給與シタル制服ハ其ノ使用期限内之ヲ著用セシム

●警察官防寒外套制式 (明治三十九年十二月一日) (告示第三十七號)

關東都督府警察官ノ防寒外套制式左ノ通相定ム  
關東都督府警察官防寒外套制式圖例

地	質	制	式	胸	章	覆	面	頭	巾	胸	著	附	屬	靴
茶褐毛布絨	折襟胸二重ホック止 左右ノ腰部ニ物入各 一箇ヲ設ケ後面襟ナ ノ制キ胸細リニ茶褐色 ノ帶布ヲ附シ細縫ヲ 以テ前面ニ結ヒ襟ノ 内面ニ毛皮ヲ附ス形 狀ノ如シ	左腕ニ縫付ス地 質茶褐絨絨赤墨線 羅紗ヲ用フ形狀 ノ如シ	茶褐色メリヤス 製形狀圖ノ如シ	茶褐毛絨形狀圖 ノ如シ	裏毛皮、裏茶褐布 前面中央ニ物入 一箇ヲ設ケ形狀 圖ノ如シ	皮底、裏布、裏茶 褐絨内部ニ綿ヲ 入ル形狀圖ノ如								

(圖例略ス)

●警察官防水外套制式 (明治四十二年三月二十二日) (告示第二十一號)

關東都督府警察官防水外套製式左ノ通定ム

關東都督府警察官防水外套製式圖例

地 質 製 式

黑防水布裏護膜

通常外套形左胸ニ一箇右脇下ニ一箇ノ蓋付物入ヲ付シ左脇下部切明ケ五寸、袖ハ長サ兩腕指頭ニ至ル形狀圖ノ如シ  
頭巾ハ前口護膜トス形狀圖ノ如シ

(圖例略ス)

●警察官服裝規程 (明治三十九年九月一日) (訓令第十一號) (民政部)

關東都督府警察官服裝規程左ノ通相定ム

關東都督府警察官服裝規程

第一條 警察官ノ服裝ハ別テ正裝、禮裝及常裝ノ三種トス

第二條 警視及警部ノ正裝ハ帽、冬衣、袴、肩章、刀、正緒、手套及下襟ヲ著裝スルヲ謂ヒ禮裝ハ帽、冬衣、袴、肩章、刀、常緒、手套及下襟ヲ著裝スルヲ謂フ

第三條 正裝ハ大禮服ヲ著クヘキ場合禮裝ハ通常禮服ヲ著クヘキ場合常裝ハ通常勤務ノ場合ニ之ヲ著用スルモノトス

第四條 夏衣及日褌ハ凡六月一日ヨリ九月三十日マテ常裝ニ限り之ヲ著用スルモノトス但シ夏袴ハ正裝又ハ禮裝ノ場合ニモ之ヲ著用スルコトヲ得

第五條 外套ハ防水又ハ防寒ノ爲メ之ヲ著用スルモノトス但シ儀式又ハ祭典ニ列シ若ハ上官ノ室内ニ在リテハ之ヲ著用スルコトヲ得ス

第六條 刀ハ室ノ内外ヲ問ハス銀ヲ刀帶ノ鈎ニ懸ケ乘馬ノ場合ハ之ヲ懸ケサルモノトスヘシ

第七條 手套及下襟ハ總テ白色トス但シ手套ハ常裝ニ限り縞又ハ斑紋アルモノノ外之ヲ用キルコトヲ得

第八條 靴ハ乘馬ノ場合ニ在リテハ拍車ヲ附スヘシ  
長途ノ旅行其ノ他必要ノ場合ニ在リテハ草鞋、脚絆ヲ以テ靴ニ代用スルコトヲ得  
第九條 儀式上隊伍ヲ爲ストキハ齊一ノ服裝ヲ爲スヘシ巡查二人以上同一ノ場所ニ於テ勤務ニ服スルトキ亦

第十條 外套ヲ携帶スルトキハ附屬品ヲ其ノ内ニ納メ適宜之ヲ捲收シ乘馬ノ場合ニ在リテハ後鞍ニ附著シ徒歩ノ場合ニ在リテハ其ノ兩端ヲ結束シ左肩ヨリ斜ニ右腋下ニ掛クルモノトス

第十一條 巡查部長以下ノ手帳ハ衣ノ左上隠シ警笛ハ右下隠シ捕繩ハ袴ノ右隠シニ納ムヘシ但シ外套ヲ著用シタルトキハ手帳及警笛ハ其ノ右隠シニ納メ置クヘシ

第十二條 銃ヲ携帶スルトキハ彈藥盒ハ衣又ハ外套ノ上ニ帶フヘシ

附則 本令ハ明治三十九年九月一日府令第十二號第二項ニ依リ著用スル制服ニ之ニ適用セス

●巡捕服制 (明治三十九年五月十一日) (警務部) (訓令第十五號)

關東州民政署巡捕服制左ノ通相定ム

關東州民政署巡捕服制		名稱	名稱	名稱	名稱	名稱	名稱	名稱
冬衣	冬衣	冬衣	冬衣	冬衣	冬衣	冬衣	冬衣	冬衣
黑縹子	地質黃絨 幅二分二條	縹緞線幅五 巡捕長二條	縹緞線幅五 巡捕長二條	縹緞線幅五 巡捕長二條	縹緞線幅五 巡捕長二條	縹緞線幅五 巡捕長二條	縹緞線幅五 巡捕長二條	縹緞線幅五 巡捕長二條
帽	銀色日章尖頭コリ 中心ニ至ル五分	表裏黃 縹緞線幅五	表裏黃 縹緞線幅五	表裏黃 縹緞線幅五	表裏黃 縹緞線幅五	表裏黃 縹緞線幅五	表裏黃 縹緞線幅五	表裏黃 縹緞線幅五
名稱	地質	品質	品質	品質	品質	品質	品質	品質
製式	製式	製式	製式	製式	製式	製式	製式	製式
形狀	形狀	形狀	形狀	形狀	形狀	形狀	形狀	形狀

冬袴	夏衣	夏袴	外套	附記
右ニ同シ	カーキ色 縹緞線幅五	右ニ同シ	縹緞線幅五 巡捕長二條	必要ト認ムルトキハ刀又ハ劍ヲ佩用セシムルコトアルヘシ但シ其ノ製式ハ適宜トス 教習中ノ者及特種ノ勤務ニ服スル者ニハ徽章ヲ附スルコトヲ得
支那褲ノ製法 ニ依フ	白モールの線 幅四分 巡捕長二條	縹緞線幅五 巡捕長二條	縹緞線幅五 巡捕長二條	
右ニ同シ	袖口コリ四寸二分 分ノ前半身ニ白 モールの線ヲ付ス 隔チ二分トス	袖口コリ五寸 分ノ前半身ニ縹 緞線ヲ付ス 隔チ二分トス	袖口コリ五寸 分ノ前半身ニ縹 緞線ヲ付ス 隔チ二分トス	
冬衣ニ同シ	冬袴ニ同シ	冬袴ニ同シ	冬袴ニ同シ	
右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	

(服制略ス)

●警察旗及警察官吏提燈徽章 (明治三十九年十月七日) (民政部、民政署) (訓令第四十九號)

關東都府府警察旗及警察官吏提燈徽章別記圖例ノ通相定ム但シ別記圖例ハ別ニ之ヲ頒ツ (圖例略ス)

●海務局囑託員及雇員服制 (明治四十一年十一月二日) (告示第百號)

關東都督府海務局囑託員及雇員服制左ノ通相定ム

囑託員雇員服制													
名稱		種別		名稱		種別		名稱		種別			
帽		地質		製式		地質		製式		地質			
圓形ニシテ黒色ノ前底及幅四分ノ黒草帽ニ付シ額紐ノ兩端ハ朝ノ兩側ニ於テ得四分ノ金銀釦各一箇ヲ以テ留ム天非唯出ハ幅一分トス圖ノ如シ		全徑一寸五分ノ金モール製帽ニ付シ額紐ノ兩端ハ朝ノ兩側ニ於テ得四分ノ金銀釦各一箇ヲ以テ留ム天非唯出ハ幅一分トス圖ノ如シ		之ヲ地ニ合セ中央ニ海務局旗章一箇ヲ附ス但シ堅八分幅六分花徑三分トス又朝ノ周圍ニ幅一寸ノ黒毛織線一條ヲ附ス圖ノ如シ		紺又ハ黒羅紗但シ夏ハ白又ハ紺色布		立襟ボック掛長ジヤケツト幅六分ノ黒毛織線ヲ附ス物入ハ二箇又ハ三箇トス圖ノ如シ		袖口ヨリ三寸五分ノ前半面ニ幅五分ノ黒毛織線一條ヲ附ス圖ノ如シ		紺又ハ黒羅紗但シ夏ハ白又ハ紺色布	
衣		地質		製式		地質		製式		地質			
普通		普通		普通		普通		普通		普通			
袴		地質		製式		地質		製式		地質			
紺又ハ黒羅紗		紺又ハ黒羅紗		紺又ハ黒羅紗		紺又ハ黒羅紗		紺又ハ黒羅紗		紺又ハ黒羅紗			
外套		地質		製式		地質		製式		地質			
折襟胸二重圖ノ如シ		折襟胸二重圖ノ如シ		折襟胸二重圖ノ如シ		折襟胸二重圖ノ如シ		折襟胸二重圖ノ如シ		折襟胸二重圖ノ如シ			
鈕釦		金銀		金銀		金銀		金銀		金銀			
一箇ヲ附ス圖ノ如シ		一箇ヲ附ス圖ノ如シ		一箇ヲ附ス圖ノ如シ		一箇ヲ附ス圖ノ如シ		一箇ヲ附ス圖ノ如シ		一箇ヲ附ス圖ノ如シ			
雨覆		紺又ハ黒羅紗		紺又ハ黒羅紗		紺又ハ黒羅紗		紺又ハ黒羅紗		紺又ハ黒羅紗			
同上		同上		同上		同上		同上		同上			

(服圖略ス)

●海務局船員服制

(明治四十一年十一月二日 告示 第百一十一號)

關東都督府海務局船員服制左ノ通相定ム

船員服制													
名稱		種別		名稱		種別		名稱		種別			
帽		地質		製式		地質		製式		地質			
圓形ニシテ黒色ノ前底及支革ヲ附シ支革ノ兩端ハ朝ノ兩側ニ於テ各一箇ノ金銀釦ヲ以テ止ム圖ノ如シ		全形一寸五分ノ金モール製帽ニ付シ額紐ノ兩端ハ朝ノ兩側ニ於テ各一箇ノ金銀釦ヲ以テ止ム圖ノ如シ		二木ヲ下テテ結ビ之ヲ地ニ合セ中央ニ銀モール製ノ海務局旗章一箇ヲ附ス但シ堅八分幅六分花徑三分トス又朝ノ周圍ニ幅一寸ノ黒毛織線一條ヲ附ス圖ノ如シ		紺又ハ黒羅紗但シ夏ハ白又ハ紺色布		立襟一行釦長ジヤケツト圖ノ如シ		二分ノ間隙ヲ置キ前半面ニ幅四分ノ黒毛織線二條ヲ附シ其ノ間ニ船長ノ職務ヲ取扱フモノハ白絨織關士ノ職務ヲ取扱フモノハ紫絨ヲ附ス圖ノ如シ		銀色圓形五分五厘一行五箇圖ノ如シ	
衣		地質		製式		地質		製式		地質			
普通		普通		普通		普通		普通		普通			
袴		地質		製式		地質		製式		地質			
紺又ハ黒羅紗		紺又ハ黒羅紗		紺又ハ黒羅紗		紺又ハ黒羅紗		紺又ハ黒羅紗		紺又ハ黒羅紗			
外套		地質		製式		地質		製式		地質			
折襟胸二重圖ノ如シ		折襟胸二重圖ノ如シ		折襟胸二重圖ノ如シ		折襟胸二重圖ノ如シ		折襟胸二重圖ノ如シ		折襟胸二重圖ノ如シ			
鈕釦		金銀		金銀		金銀		金銀		金銀			
一箇ヲ附ス圖ノ如シ		一箇ヲ附ス圖ノ如シ		一箇ヲ附ス圖ノ如シ		一箇ヲ附ス圖ノ如シ		一箇ヲ附ス圖ノ如シ		一箇ヲ附ス圖ノ如シ			
名稱		種別		名稱		種別		名稱		種別			
船長		又ハ		機關士		舵取、油差、水夫、火夫		同上		同上			
同上		同上		同上		同上		同上		同上			

(服圖略ス)



●海務局官吏ノ腕章 (明治四十一年十二月一日 告示第九十九號)

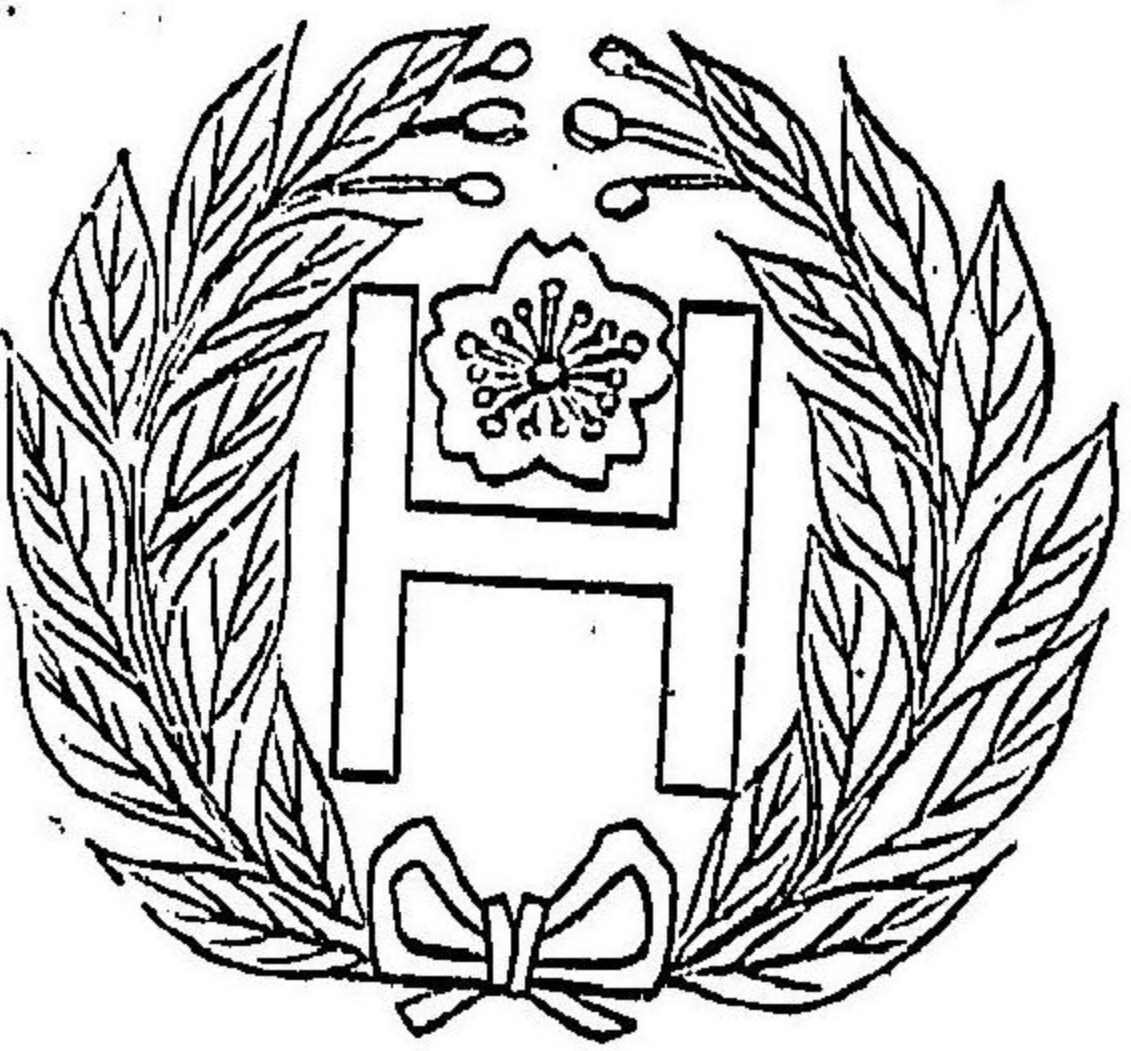
關東都督府海務局官吏ノ腕章左ノ通相定ム

關東都督府海務局官吏腕章制式圖例

地質 羅紗青地

徽章 全徑一寸金モール製櫻葉十枚ニ當三箇ヲ附シタル枝二本ヲ下部ニテ結ヒ之ヲ抱キ合セ中央ニ海務局  
旗章一箇ヲ附ス但シ豎六分幅五分櫻花徑三分トス

腕章雄形



●關東都督府典獄監吏及看守服制並提燈徽章 (明治三十九年十月二十三日 勅令第二百七十七號)

朕關東都督府典獄監吏及看守服制並提燈徽章ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
關東都督府典獄監吏及看守服制並提燈徽章別表ノ通定ム

附則

本令施行ノ期日ハ關東都督之ヲ定ム

(別表)

關東都督府典獄監吏及看守服制並提燈徽章

衣	名	帽		名
		典獄	看守	
監吏	典獄	典獄	看守	名
同	茶色夏服 茶色冬服 茶色立品	上部茶色 下部濃紺	同	地
同	金色圓形 茶色内ニ 茶色外ニ	金色徑一寸	同	日章
同	茶色平打 茶色五分 茶色五分	茶色表裏	同	眼庇
大線一條 小線一條 下線一條	大線一條 小線一條 下線一條	茶色圓形 茶色圓形 茶色圓形	同	頤紐
金線三分 銀線三分 同	金線四分 銀線四分 同	茶色平打 茶色平打 茶色平打	同	袖
金線一條 銀線一條 同	金線一條 銀線一條 同	茶色平打 茶色平打 茶色平打	同	製
同	同	茶色平打 茶色平打 茶色平打	同	式
同	同	茶色平打 茶色平打 茶色平打	同	形狀

名	袴		名	種 類	甲 種 外 套	日 覆	
	典 獄	監 吏				典 獄	監 吏
看守	同	同	看守	同	同	同	
地	茶褐色 (夏袴茶褐色品質適宜)	茶褐色 (夏袴茶褐色品質適宜)	地	同	同	同	
質	八分	五分	質	同	同	同	
側	八分	五分	側	同	同	同	
章	二條	一條	章	同	同	同	
製	長靴踵ノ上際ニ至ル物入爾腰ニ各一箇ヲ附ス	同	製	同	同	同	
式	同	同	式	同	同	同	
形 狀	同	同	形 狀	同	同	同	
圓	同	同	圓	同	同	同	

乙種外套、肩草、刀、刀帶、正緒及常緒並提燈徽章ハ明治二十九年勅令第三百六十六號ニ依ル

(別圖略ス)

●典獄監吏及看守服制並提燈徽章施行期日 (明治三十九年十一月七日) (府令第二十八號)

明治二十九年勅令第二百七十七號關東都督府典獄監吏及看守ノ服制並提燈徽章ハ明治三十九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●典獄監吏及看守服裝規程 (明治三十九年十一月三日) (民政部) (訓令第五十六號)

- 關東都督府典獄監吏及看守服裝規程
- 第二條 典獄、監吏ノ服裝ヲ分テ正裝、禮裝、常裝ノ三種トシ看守ノ服裝ハ分テ正裝、常裝ノ二種トス
- 第三條 典獄、監吏ノ禮裝トハ帽、衣、袴、刀、正緒、手套、下襟ヲ著裝スルヲ謂ヒ看守ノ正裝トハ帽、衣、袴、刀、肩章、刀、手套、及下襟ヲ著裝スルヲ謂フ但シ夏衣夏袴ハ正裝ニ用ウルコトヲ得ス
- 第四條 典獄、監吏ノ禮裝トハ帽、衣、袴、刀、正緒、手套及下襟ヲ著裝スルヲ謂フ
- 第五條 正裝ハ儀式、祭典等總テ大禮服用ノ場合ニ著用スルモノトス但シ典獄ニ在リテハ大禮服用ヲ著用スルモ妨ナシ
- 第六條 禮裝ハ通常禮服用ノ場合ニ著用スルモノトス
- 第七條 常裝ハ通常勤務ノ場合ニ著用スルモノトス
- 第八條 夏衣夏袴ハ炎暑ノ際ハ六月一日ヨリ九月末ヲ著用スルコトヲ得ルモノトス但シ夏衣ヲ著用スルトキハ夏袴ヲ著用スヘシ
- 第九條 夏袴ハ炎暑ノ際正裝ヲ除キ何レノ服裝ニモ之ヲ著用スルコトヲ得

第十條 典獄、監吏及看守ノ甲種外套ハ雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲メ用ウルモノトス但シ儀式祭典ノ場所及上官ノ室内ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 典獄、監吏及看守ノ乙種外套ハ雨雪ノ際甲種外套ノ上ニ用ウルモノトス但シ時宜ニ依リ乙種外套ノミヲ用ウルモ妨ケナシ

第十二條 雨覆ハ雨雪ノ際外套ニ附著シテ用ウルモノトス

第十三條 日覆ハ炎暑ノ際用ウルモノトス

第十四條 典獄、監吏ノ刀ハ上部ノ鍔ヲ刀帶ノ鈎金ニ掛クルモノトス

第十五條 手套ハ白又ハ茶褐色下襟ハ白色ノモノヲ用ウルモノトス

第十六條 靴ハ長、短ノ二種トシ草製トス  
長靴ハ黒又ハ茶褐色トシ雨雪泥濘ノトキ、短靴ハ黒色トシ長靴ヲ用キサル場合ニ用ウルモノトス長途ノ旅行又ハ外役囚戒護等ノ際ニ於テハ鞋脚絆ヲ以テ靴ニ代用スルコトヲ得

第十七條 外套ヲ携帯スルニハ附屬品ヲ内ニ納メ適宜捲收シ兩端ヲ結束シ左肩ヨリ斜ニ右腋下ニ掛クルモノトス

●通信官署徽章 (明治三十九年十二月七日) 告示第三十五號

關東都督府通信官署ノ徽章ハ明治二十年遞信省告示第十一號ニ「字形ヲ用ユ

●守衛服制 (明治四十年八月二日) 民政省令第六十八號

守衛服制別表ノ通相定ム但シ本令施行前給與シタル制服ハ其ノ使用期間内ニ限り之ヲ著用セシムルコトヲ得 (別表)

名稱	地質	製式	徽章	日覆	襟章	袖章	鈕釦
帽	黑羅紗	大黑帽形、黑草製前底及幅四分ノ黑草製帽ノ兩側ニ於テ銀釦各一箇ヲ附シ	前章縦横一寸五分、色ミタル周圍ニ幅四分ノ白色毛線一條ヲ綴リ	夏期茶褐色、布ヲ以テ帽ヲ覆フ	縦横五分ノ銀色ノ守衛字一箇ヲ左襟ニ附ス	幅四分ノ白色毛線一條ヲ半面ニ覆フ	徑七分ノ金色釦五箇ヲ前部ニ附ス
上衣	夏期ハ茶、冬期ハ黒、地味	立襟一行釦長シヤケツト形状圖ノ如シ					徑七分ノ金色釦五箇ヲ前部ニ附ス
袴	夏期ハ茶、冬期ハ黒、地味	普通長袴					
外套	黑羅紗	新製胸一重後部ノ裾ヲ制シキ前左右ノ腰部ニ各一箇ノ物ヲ入テ附ス形状圖ノ如シ					徑七分ノ金色釦六箇ヲ前後ニ附ス

(服圖略ス)

●傭人服制 (明治四十年四月十九日) 民政省令第三十一號

傭人服制別表ノ通相定ム但シ本令施行前傭人ニ給與シタル制服ハ其ノ使用期間内ニ限り之ヲ著用セシムルコトヲ得 (別表)

名稱	地質	製式	徽章	日覆	腕章	鈕釦
帽	黑羅紗	大黑帽形、黑草製前底及幅四分ノ黑草製帽ノ兩側ニ於テ銀釦各一箇ヲ附シ	縦横一寸五分、色ミタル周圍ニ幅四分ノ白色毛線一條ヲ綴リ	夏期茶褐色、布ヲ以テ帽ノ上部ヲ覆フ		

上衣	袴	外套
黒ヘル地又ハ茶固布但シ夏期ハ茶固布	黒ヘル地又ハ茶固布但シ夏期ハ茶固布	黒又ハ茶固布
立襟一行鈕長ツヤケツト形状ノ如シ	普通長袴	折襟胸一重後部ノ裾ヲ割キ前左右ノ腰部ニ各一箇ノ物入ヲ附ス形状ノ如シ
徑一寸五分ノ赤地羅紗製櫻花章ヲ四形黒地羅紗ニ縫合セシモノ形状ノ如シ		
徑七分ノ金色鈕五箇ヲ前部ニ附ス		
上表ノ腕章ニ同シ		
黒角鈕釦		

(服圖略ス)

●旅順及大連水道事務所備人服制

(明治四十年九月十二日) (訓令第八十五號) (民政部)

旅順及大連水道事務所備人服制別表ノ通相定ム (別表)

名	地	質	製	式	徽	章	日	履	腕	章	鈕	釦
帽	黒羅紗		大黒帽形製前庭及幅四分ノハ巾製額紐ヲ附シ其ノ兩端ハ巾ノ兩側ニ於テ得四分ノ距離ニ各一箇ヲ以テ止ム形状ノ如シ		縦横一寸水字ヲ包ミタル金色櫻花章形状ノ如シ		夏期茶褐色布ヲ以テ帽ノ上部及側部ノ裏面ヨリ下部ニ上表縫下二寸ノフ形状ノ如シ					
上衣	黒羅紗又ハ茶固布但シ夏期ハ茶固布		立襟一行鈕ツヤケツト形状ノ如シ						徑一寸五分ノ赤地羅紗製櫻花章ヲ四形黒地羅紗ニ縫合セシモノ形状ノ如シ		徑五分銀色鈕五箇ヲ前部ニ附ス	
袴	黒羅紗又ハ茶固布但シ夏期ハ茶固布		普通長袴									

一削除 (四一、訓令二六號改正) (服圖略ス)

第六章 分限、服務

●南滿洲鐵道株式會社ノ職員ト爲リタル官吏ニ關スル件

(明治三十九年八月三日) (勅令第二百九號)

朕南滿洲鐵道株式會社ノ職員ト爲リタル官吏ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
在職官吏ニシテ南滿洲鐵道株式會社又ハ鴨綠江採木公司ノ職員ト爲リタル者ニ關シテハ明治三十七年勅令第三百九十五號ヲ準用ス (四一、勅令三三號改正) (參照)

●外國政府ニ聘用セラレタル官吏ニ關スル件 (明治三十七年八月二十九日) (勅令第二百九十五號)

在職官吏ニシテ許可ヲ受ケ外國政府ニ聘用セラレタル者アルトキハ其ノ聘用中ニ限り臨時其ノ官ヲ増置セラレタルモノトス其ノ現役軍人ナルトキハ定員外トス  
前項ノ官吏ニ對シ必要アルトキハ特ニ在職者ニ關スル規定ヲ適用スルコトヲ得  
前二項ノ場合ニ於テ俸給ハ之ヲ停止シ其ノ他ノ給與ハ之ヲ支給セス

●官吏ノ待遇ヲ受クル在職者ニシテ外國政府ニ聘用セラレタル者ニ關スル件 (明治三十七年十二月十九日) (勅令第二百三十七號)

●職員服務規程

(明治四十年九月十八日) (訓令第八十六號) (官房、民政部、民政署) (郵便電信局、法院) (四〇、訓八九號事務ヲ除ク)

第二類 官規 第六章 分限、服務

關東都督府職員服務規程左ノ通相定ム

關東都督府職員服務規程

- 第一條 職員昇進シタルトキハ出勤簿ニ自ラ捺印スヘシ
- 第二條 昇進時限三十分以上ヲ過キ出勤シタル者ニ對シテハ出勤簿ニ遲參ノ印ヲ押捺スヘシ但シ公務ノ爲遲參シ直屬上官ノ承認ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 疾病其ノ他正當ノ事故ニ依リ昇進シ難キトキハ昇進時限後一時間以内ニ届出ツヘシ  
病氣引籠七日ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出ヘシ  
爾後七日毎ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第四條 執務時間中發病又ハ止ヲ得サル事故ニ依リ退廳セムトスルトキハ其ノ事由ヲ直屬上官ニ申告シ承認ヲ受クヘシ
- 退廳時限後ノ退出ト雖モ直屬上官在廳ノ間ハ其ノ旨申告スヘシ
- 第五條 執務時間中廳外ニ出ルトキハ直屬上官ノ認許ヲ受クヘシ
- 第六條 忌引若ハ遠慮ノ届書ニハ死亡者ノ氏名死亡ノ日時續柄及忌服遠慮ノ日數等ヲ記載スヘシ
- 第七條 轉地療養若ハ父母看護等ノ願書ハ其ノ事由、日數(往復トモ)行先地等ヲ詳記シ醫師ノ診斷書、電報、書狀等之カ證明トナルヘキ書類ヲ添付スヘシ
- 第八條 出張又ハ疾病等ノ爲昇進セザルトキハ自己擔任ノ事件ハ處分ノ見込ヲ附シ同僚又ハ上官ノ指示スル者ニ引繼クヘシ
- 第九條 轉任轉勤休職免官等ノ者ハ其ノ辭令ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ擔當事務ノ引繼ヲ爲スヘシ若シ期限内ニ引繼ヲ爲スコト能ハザルトキハ其ノ事由ヲ申立認許ヲ受クヘシ  
事務ノ引繼ハ目錄書ヲ作り且事ノ複雜又ハ説明ヲ要スルモノハ演舌書ヲ添ヘ受授者連署届出ヘシ引繼書類ヲ作ルノ要ナキトキハ其ノ旨届出ヘシ

- 第十條 新任、轉任、轉勤ノ者ハ其ノ辭令ヲ受ケタル翌日ヨリ七日以内ニ出發赴任スヘシ採用ノ召喚ヲ受ケタル者亦同シ但シ期限内ニ出發スル能ハザル者ハ事由ヲ具シ認許ヲ受クヘシ
- 第十一條 新任又ハ轉任者ハ三日以内ニ正式ノ履歷書ヲ官房祕書課ニ差出スヘシ
- 第十二條 賜暇ノ許可ヲ受ケ又ハ出張ノ命ヲ受ケタル者ハ出發届ヲ發程前ニ歸著届ヲ歸著ノ翌日迄ニ差出スヘシ但シ非常又ハ至急ノ場合ハ追テ本文ノ手續ヲ爲スコトヲ妨ナシ
- 第十三條 出張ヲ命セラレタル者若シ豫定日限内ニ歸廳スルヲ得ザルトキハ事由ヲ具シ認許ヲ受クヘシ
- 第十四條 退廳ノトキハ各自主管ノ諸帳簿及文書等ハ必ス相當收貯シ散逸ノ虞ナカラシムヘシ
- 第十五條 各職員ハ常ニ服裝ヲ正クシ荷モ格容アルヘカラス
- 第十六條 凡テ願届書類ハ直屬上官ニ之ヲ差出スヘシ
- 第十七條 凡テ文書ハ公務ノ外私ニ之ヲ他人ニ示シ又ハ謄寫セシムルコトヲ得ス
- 第十八條 應合又ハ其ノ近傍ノ出火若ハ非常ノ事變ニ際シテハ直チニ參廳シ上官ノ指揮ヲ承ケ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ

●官房並民政部宿直規程 (明三十九年十月二十六日) (官房)

(明令第五十二號)

(民政部)

關東都督府官房並民政部宿直規程左ノ通相定ム

關東都督府官房並民政部宿直規程

- 第一條 官房並民政部ニ宿直員二名ヲ置キ執務時間外ニ到達スル文書、物品ノ授受ヲ處理シ及廳内ノ取締ヲ爲サシム
- 第二條 宿直ハ文書課長ノ監督ニ屬シ官房員ヲ以テ之ニ充ツ但シ各課ノ必要ニ依リ設置スル宿直ハ此ノ限ニ爲サシム

第二類 官規 第六章 分限、服務

在ラス

第三條 宿直ニ於テ文書ヲ收受シタルトキハ左ノ例ニ依リ處理スヘシ

一 本府、都督府官房、民政部、民政長官宛ノ電報及要急ノ標記アル文書ハ即時之ヲ文書課長ニ送付スヘシ

二 各課、課長宛ノ電報及要急ノ標記アル文書ハ即時之ヲ當該課長ニ送付スヘシ

三 前項ニ掲クルモノノ外總テノ文書、物品ハ翌朝(休日ニ當ルトキハ其ノ翌日)遺漏ナク文書課ニ交付スヘシ

第四條 宿直ニ於テ收發シタル文書ハ一定ノ簿冊ニ其ノ要件ヲ記入スヘシ

第五條 日誌ニハ左ノ事項ヲ記載シ翌日文書課長ニ差出シ檢印ヲ受クヘシ

一 宿直員ノ官氏名並守衛ノ氏名

二 取扱タル事務ノ要領

三 其ノ他重要ナル事項

第六條 宿直員ハ退廳後廳内ヲ巡視シ各室内ノ整否ヲ點檢シ若シ不整頓ナルヲ認ムルトキハ守衛ヲ指揮シ之ヲ整理セシムヘシ

第七條 事務室ハ職員退廳後之ヲ閉鎖ス其ノ鍵ハ宿直員保管シ守衛ヲシテ開閉セシムヘシ

第八條 非常事變發生シタルトキハ直ニ文書課長、警務課長ニ電話又ハ急使ヲ以テ通報シ事急ナル場合ハ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ

職員服務規程ハ民政署勤務警察職員及監獄職員ニ適用セス

明治四十年九月訓令第八十六號關東都督府職員服務規程ノ前提中「警務署」ヲ削除ス

(明治四十年十月二日 官房、民政部、民政署、警務署、法院、郵便電信局 訓令第八十九號)

警察官吏服務規程 (第六類二 章ニ收ム)

巡查休暇規程 (同上)

警察官吏非常召集規程 (同上)

看守以下職務規程 (明治三十九年九月二日 監獄署 訓令第十六號)

關東都督府看守、女監取締、教誨師、調劑生、授業手、押丁職務規程左ノ通相定ム

第一章 看守ノ職務

第一條 看守ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護其ノ他在監人ノ取締ニ關スル一切ノ事務ニ從事スルハ勿論以下定ムル所ノ事務ニ從事スヘシ

第二條 晝夜交替シテ警守受持場ヲ巡警スヘシ

第三條 監吏ノ立會ヲ受ケ在監人ヲ點檢スヘシ

第四條 監吏ノ立會ヲ承ケ監房ヲ檢査シ及其常置器具等ヲ點檢スヘシ

第五條 日常在監人ノ行狀ヲ視察シ其ノ事項ヲ行狀報告簿ニ記載シ監吏ノ檢閱ニ供スヘシ

第六條 在監人ノ役業ヲ督勵シ其ノ科程ノ了否ヲ點檢シ之ヲ日課簿ニ記入スヘシ

第七條 怠役者アルカ又ハ素品、製品ヲ亂用粗惡ニシ或ハ器具器械ヲ毀損スルモノアルトキハ嚴ニ之ヲ誡シ

ムルハ勿論其ノ狀況ヲ監視ニ申告スヘシ

第八條 受持在監人ヲシテ常ニ靜肅ヲ保タシメ漫リニ交談、離席又ハ器坐其ノ他喧囂スル等ノ所爲アラシムヘカラス

受持ノ在監人ニシテ物品ヲ交換贈與シ又ハ服役者ニシテ器具器械ヲ交換スル等ノ所爲ナカラシムヘシ

第九條 監吏ノ立會ヲ受ケ新入監者ノ身體及其ノ携有物件ヲ搜檢スヘシ其ノ入監後監房ヲ出入スルトキ亦同シ

第十條 監門ヲ守リ出入者及出入物件ニ注目シ嚴重ニ取締ヲ爲スヘシ

第十一條 監屏ノ開閉ニ從事シ其ノ鎖否ヲ點檢スヘシ

第十二條 工場、倉庫其ノ他警守區域内ニ在ル物件排列整否ヲ注視シ嚴密ニ取締ヲ爲スヘシ

第十三條 炊事場、浴場等ヲ巡視シ嚴密ニ取締ヲ爲スヘシ

第十四條 獄則逃犯者又ハ應禁物藏匿等アルコトヲ認知シタルトキハ嚴密ニ取締シ其ノ證據ヲ明舉シテ監吏ニ申告スヘシ

第十五條 被懲罰者ノ動靜ハ特ニ之ヲ觀察シ其ノ狀況ヲ監視ニ申告スヘシ

第十六條 戒具ハ日日之ヲ點檢シ不時ノ使用ニ支障ナカラシムヘシ

第十七條 食物ノ配與、獄衣其ノ他給與品及差入品等ノ受渡ニ立會フヘシ

第十八條 在監人ノ接見及教誨ノ席ニ立會其ノ舉動ニ注視スヘシ

第十九條 病者ノ醫治ニ立會又ハ病監内ニ在ル在監人ノ舉動ヲ注視スヘシ

第二十條 在監人中急病者アルトキハ直ニ監吏ニ申告スヘシ

第二十一條 水火風震等非常ノ變災ニ際シテハ最モ取締ヲ嚴ニシ在監人ヲ避ケシムルノ準備ヲ爲シ上官ノ指揮ヲ待ツヘシ事急遽ニ出テ上官ノ指揮ヲ待ツノ迫ナキトキハ救護ノ爲一時在監人ヲ房外ニ出スコトヲ得

第二十二條 反獄、逃走等アルトキハ非常ノ合圍ヲ爲シ直ニ鎮壓捕獲ノ手配ヲ爲シ上官ニ急報スヘシ事急遽ニ出タルトキハ直ニ追跡スルコトヲ得

第二十三條 在監人ノ頭髮、身體、衣服ニ注目シ若垢染破損等ノモノアルトキハ監吏ニ申告スヘシ

第二十四條 監獄内ノ掃除ニ立會ヒ不潔ナカラシムヘシ

第二十五條 授業手、押丁ノ在監人ニ接スル狀態ヲ觀察シ若相犯ルル者アルコトヲ認ムルトキハ直ニ監吏ニ申告スヘシ

第二十六條 監内ノ異狀ヲ見聞シタルトキハ直ニ監吏ニ申告スヘシ

押丁ヨリ申告又ハ在監人ヨリ密告ヲ受ケタルトキ亦同シ

第二十七條 押送中ノ在監人ニシテ路人ト譁語シ又ハ之ヲ侮笑シ若ハ步行ヲ亂シテ行人ヲ妨クル等ノ所爲ナカラシムヘシ

第二十八條 在監人ヨリ願訴ヲ爲サントスル者アルトキハ監吏ニ申告スヘシ若封書ヲ出ストキハ監吏ニ送致スヘシ

第二十九條 在監人ニシテ信書其ノ他ノ書類ヲ讀ム能ハサル者アルトキハ他人ノ見聞セサル場所ニ於テ之ヲ讀ミ開カスヘシ

在監人ニシテ認書不能ノ者アルトキハ信書其ノ他ノ書類ヲ代書シ之ヲ本人ニ讀ミ開カスヘシ

第二章 女監取締ノ職務

第三十條 監吏ノ指揮ヲ承ケ女監ノ戒護其ノ他在監婦女ノ取締ニ關スル一切ノ事務ニ從事スヘシ

第三十一條 本規程第一條乃至第九條、第十一條乃至第二十四條、第二十六條、第二十八條、第二十九條ハ之ヲ女監取締ノ職務ニ適用ス

第三十二條 病監ニ於ケル治療中ノ未決患者ヲ看護スヘシ

第三十三條 作業器械及素品、製品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第三章 教誨師ノ職務

第三十四條 監獄署長ノ指揮ヲ承ケ在監人ニ對シ專ラ其ノ徳性涵養及教育ノ任務ニ從事スヘシ

第三十五條 囚人ノ罪質、犯數、性情、教育、職業等其ノ他身上ニ關スル諸般ノ狀況ヲ審查シ常ニ適切ノ個人教誨ヲ行フヘシ

第三十六條 日曜日及祝祭日ニ於テハ在監人ニ對シ一般教誨ヲ行フヘシ

平日ト雖成ル可ク休役時間等ヲ利用シテ教誨ヲ行フヘシ

第三十七條 特赦、免幽閉、假出獄、假出場、假免懲罰ノ言渡又ハ賞表授與式ニ立會ヒ教誨ヲ行フヘシ

囚人ノ喪ニ遭ヒタルトキ若ハ其ノ他機宜ニ應シ適當ノ教誨ヲ行フヘシ

第三十八條 分房者及在病監者ニ對シテハ一週一回以上其ノ居所ニ就キ個人教誨ヲ行フヘシ

第三十九條 常ニ監房工場ヲ巡回シテ在監人ノ動靜ヲ視察シ時時狀況ヲ監獄署長ニ具申スヘシ

懲罰ヲ受ケタル者ニ對シテハ特ニ時時其ノ動靜ヲ視察スヘシ

第四十條 在監人ノ賞罰ニ關スル監獄署長ノ諮詢ニ對シ其ノ意見ヲ具申スヘシ

第四十一條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對シテハ慎重ノ注意ヲ以テ教誨ヲ行ヒ特ニ精神ノ慰安ヲ圖ルヘシ

第四十二條 在監人ヲ他監ニ移送スル場合ニ於テハ特ニ教誨上ニ於ケル注意其ノ他身上ニ關スル意見ヲ具シテ到著監獄ニ回送スヘシ

第四十三條 新入囚、出獄囚ニ對シテハ特ニ個人教誨ヲ施シ成ル可ク保護ノ方法ヲ講スヘシ

第四十四條 在監人ニシテ書籍ヲ看讀ヲ請フ者アルトキハ適否ノ意見ヲ監獄署長ニ具申スヘシ

第四十五條 監獄署長ノ定メタル教誨原簿ニ必要ノ事項ヲ記載シ置クヘシ

第四十六條 就學者ニ對シテハ其ノ年齢、技能、性情、境遇等ヲ詳細ニ調査シ之ヲ斟酌シテ成ル可ク各個人

ニ適當ナル教育ヲ施スヘシ

第四十七條 就學ノ年月日、卒業ノ科目、學業ノ優劣等ヲ簿冊ニ記載シ監獄署長ノ檢閱ニ供スヘシ

第四十八條 授業上ニ要スル書籍、器具等ヲ管理シ散失破損セサル様注意スヘシ

第四章 調劑生ノ職務

第四十九條 監獄醫ノ指揮ヲ承ケ調劑ノ事務ニ從事スヘシ

監獄内衛生ニ關スル事項ニ付監獄醫員ノ職務ヲ補助スヘシ

第五十條 藥品及其ノ他治療ノ物品ニ慎重ノ注意ヲ以テ之ヲ取扱ヒ總テ一定ノ鍵アル戸棚ニ藏置シ劇藥毒藥等ハ別ニ之ヲ藏置スヘシ

第五十一條 醫療器械器具等ハ鄭重ニ之ヲ保管シ其ノ清潔ト秩序トヲ保テ病者ニ貸與スル藥壘ノ類ハ常ニ之ヲ洗滌若ハ消毒スヘシ

第五十二條 井水又ハ飲食物ノ分析鑑識其ノ他衛生上必要アリト認メタル事項ハ其ノ旨ヲ監獄醫ニ申告スヘシ

第五十三條 藥品其ノ他物品ノ受拂ハ之ヲ簿冊ニ明記シ毎月受拂表ヲ調製シ監獄醫ヲ經由シテ監獄署長ノ檢閱ニ供スヘシ

第五章 授業手ノ職務

第五十四條 上官ノ指揮ヲ承ケ在監人ニ作業ヲ教授スル事務ニ從事スヘシ

第五十五條 受業囚ヲ督勵シ科程ノ了否ヲ注視スヘシ

第五十六條 授業上ニ要スル器械雜具ヲ整理シ其ノ取扱及保存上ニ注意スヘシ

第五十七條 役業ノ科程及工錢料定上ニ付テハ意見ヲ作業主任ニ申述スヘシ

第五十八條 授業ノ廢設及改良方ニ付意見アルトキハ監獄署長ニ具申スヘシ



第五十九條 役業ヲ怠ルカ又ハ指導ニ從ハサル者アルトキハ速ニ監吏又ハ看守ニ申告スヘシ  
第六十條 器具ノ新調及修繕ヲ要スルトキハ其ノ購入又ハ修繕ヲ作業主任ニ申出ツヘシ  
第六十一條 受役囚ノ勉否及技藝ノ優劣進否等ヲ調査シ毎月監吏ニ申告スヘシ

第六章 押丁ノ職務

第六十二條 上官ノ指揮ヲ承ケ在監人ノ戒護ニ關スル雜務ノ補助ニ從事スヘシ  
第六十三條 看守ノ助手ト爲リ新ニ入監スル者ノ身體衣服ヲ搜檢スヘシ入監後監房ヲ出入スルトキ亦同シ  
第六十四條 看守ノ指揮ヲ承ケ監外押發ノ在監人ニ戒具ヲ施シ又ハ控繩戒護ニ從事スヘシ  
第六十五條 上官ノ指揮ヲ承ケ死刑ノ執行方ニ從事スヘシ  
第六十六條 看守ノ助手ト爲リ監房ノ檢査ヲ爲スヘシ  
第六十七條 看守ノ助手ト爲リ監門及監扉ノ開閉ヲ爲スヘシ  
第六十八條 看守ノ立會ヲ受ケ食物ノ配與、獄衣其ノ他ノ給與品及差入品ノ受渡ヲ爲スヘシ  
第六十九條 上官ノ指揮ヲ承ケ病監ニ於テ治療中ノ未決患者ノ看護ニ從事スヘシ  
第七十條 上官ノ指揮ヲ承ケ死刑者及死亡者ノ死體取片付方ニ從事スヘシ  
第七十一條 看守ノ立會ヲ受ケ作業器械及素品、製品ノ受渡ヲ爲スヘシ  
第七十二條 看守ノ指揮ヲ承ケ工場倉庫其ノ他警守區域内ニ在ル物件ノ排列整頓方ニ從事スヘシ  
第七十三條 看守ノ指揮ヲ承ケ獄具及消防具等ヲ看守シ毀損紛亂セサル様注意スヘシ  
第七十四條 在監人ノ頭髮身體衣服ニ注目シ若垢染破損等ノモノアルトキハ直ニ看守ニ申告スヘシ  
第七十五條 獄則違犯者又ハ應禁物藏匿等ノ者アルコトヲ認知シタルトキハ直ニ看守ニ申告スヘシ  
第七十六條 監内ニ異狀アルトキハ直ニ上官ニ申告スヘシ在監人ヨリ密告ヲ受ケタル時亦同シ  
第七十七條 在監人ノ行狀ノ良否ヲ認知シタルトキハ看守ニ申告スヘシ

第七十八條 炊事場、浴場等ニ於テハ火災ノ虞ナキ様注意スヘシ

看守及女監取締休暇規程 (明治三十九年九月一日 訓令第十五號) (監獄署)

關東都督府看守及女監取締休暇規程左ノ通相定ム

關東都督府看守及女監取締規程

第一條 關東都督府監守及女監取締ニシテ半箇年以上皆勤シタル者ニハ慰勞ノ爲メ時々休暇ヲ與フルコトヲ得  
第二條 休暇日數ヲ定ムル左ノ如シ  
一 箇年皆勤ノ者 四十日間  
半箇年皆勤ノ者 十四日間  
前二項ノ外三箇年皆勤シタル者ニハ二十日以内ノ特別休暇ヲ與フルコトヲ得  
第三條 皆勤日數ハ新任若ハ缺勤シタル者ニ在リテハ出勤ノ日ヨリ起算ス  
第四條 非番、父母祭日、職務上ノ負傷及病毒感染ニ起因スル缺勤並休暇日數ハ缺勤日數ニ算入セス  
忌引日數ハ勤務又ハ缺勤日數ニ算入セス  
第五條 休暇日數ハ數年ニ通算シテ併與スルコトヲ得ス  
但シ三箇年以上皆勤シタル者ニハ第二條第一項及第二項ノ休暇日數ヲ通算シテ特ニ五十日以内賜暇歸省ヲ許可スルコトヲ得  
第六條 休暇ハ監獄署ニ在リテハ典獄、支署ニ在リテハ支署長ニ於テ勤務上差支ナキ場合ニ限り之ヲ與フヘシ  
第七條 既ニ休暇ヲ許可シタル後ト雖事務ノ都合ニ依リ之ヲ取消シ勤務ニ服セシムルコトアルヘシ

第八條 休暇中所屬管轄外ニ旅行セムトスルトキハ典獄又ハ支署長ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 本規程ニ依ル休暇簿及休暇證ノ様式ハ典獄之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本規程ハ之ヲ授業手及押丁ニ準用ス

●郵便電信局通信夫服務規則 (明治三十九年九月一日) (訓令第四十二號) (郵便電信局)

郵便電信局ニ通信夫ヲ置キ其ノ服務規則左ノ通相定ム

郵便電信局通信夫服務規則

第一條 通信夫ハ郵便物遞送、集配、電報配達、郵便物ノ荷造及局内運搬、鐵道郵便車ニ乗込又ハ指定シタル鐵道停車場ニ於テ郵便物ノ看守、積卸其ノ他之カ運搬ニ關スル業務ニ從事スルモノトス  
第二條 通信夫ニハ各其ノ職務ノ區別ニ從ヒ郵便物ノ遞送ニ付テハ明治三十二年九月遞信省公達第四百七十六號遞送人服務規則ヲ郵便物集配電報配達ニ付テハ明治二十年五月遞信省公達第百號集配人服務規則ヲ郵便物ノ荷造其ノ他ニ付テハ明治三十年三月遞信省公達第二百二十六號郵便夫服務規則ヲ準用ス

●常備職工服業規程 (明治四十一年三月十九日) (民政部、民政部、警務署、法院) (郵便電信局、所屬民政各官廳)

常備職工服業規程左ノ通相定ム

常備職工服業規程

第一條 職工ノ服業ハ特ニ規定アルモノノ外此ノ規程ニ依ル

第二條 職工ノ服業時間左ノ如シ

一 自三月至十月 毎日十時間

一 自十一月至翌年二月 毎日九時間

但シ地方ノ狀況ニ依リ時間ノ變更ヲ要スル場合ハ都督ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 職工ノ休暇日左ノ如シ

一 大祭 祝日

一 毎月第一及第三日曜日

但シ一箇所ニ二人以上ノ職工アルトキハ毎休暇日ニ各其ノ半數ノ者トス

第四條 定時間外特ニ服業セシメムトスルトキハ都局長又ハ監督ノ責アル職員ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ハ一時間ニ日給額ノ九分ノ一ヲ加給スルコトヲ得但シ服業三時間以上ニ涉ルト雖日給額ノ九分ノ三ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條 休暇日ニ服業セシメタルトキハ別ニ一日分ノ日給額ヲ支給ス但シ當日定時間外服業スルモ之ニ對シテ加給ヲ爲サス

第六條 職工ノ使用スヘキ器具及器械ハ之ヲ貸與スルコトヲ得

第七條 特種ノ職務ニ從事スル職工ニシテ此ノ規程ヲ適用シ得サルモノ若ハ職工ニ準スヘキ備人ニシテ此ノ規程ヲ準用スヘキモノハ都督ノ認可ヲ受クヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州小學校並公學堂職員服務心得 (明治三十九年四月一日) (庶務部、支署、小學校、公學堂)

關東州小學校並關東州公學堂職員服務心得左ノ通相定ム

關東州小學校並關東州公學堂職員服務心得

第二類 官規 第六章 分限、服務

- 第一條 職員ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ヲ奉戴シ誠實ニ其ノ職務ニ服スヘシ
- 第二條 職員ハ始業時間前ニ出校シ終業時間後ニ退校スヘシ
- 第三條 職員出校シタルトキハ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第四條 職員疾病其ノ他ノ事故ニ依リ闕勤スルトキハ其ノ事由ヲ具シ始業時間前ニ學校ニ届出ヘシ  
前項ノ闕勤五日ヲ超ユルトキハ其ノ事故ニ關スルモノハ日數ヲ具シ疾病ニ關スルモノハ醫師ノ診断書ヲ添ヘ民政長官又ハ支署長ニ届出ヘシ  
但シ疾病十日以上ニ涉ルトキハ十日毎ニ醫師ノ診断書ヲ添ヘ届出ルヲ要ス
- 第五條 職員轉地療養又ハ私事ノ故障ニ依リ闕勤若ハ旅行セントスルトキハ其ノ日數及事由ヲ具シ民政長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ疾病ニ關スルモノハ醫師ノ診断書ヲ添ユルヲ要ス
- 第六條 職員喪ニ丁リタルトキハ死亡者トノ續柄ヲ具シ民政長官又ハ支署長ニ届出ヘシ
- 第七條 學校長若ハ學堂長轉任又ハ退職ヲ命セラレタルトキハ五日以内ニ事務ヲ引繼キ連署ヲ以テ民政長官ニ届出ヘシ
- 學校長若ハ學堂長以外ノ職員前項ノ場合ニ於テハ三日以内ニ事務ヲ引繼キ學校長ニ届出ヘシ
- 第八條 學校長若ハ學堂長不在ノトキハ上席教員其ノ職務ヲ代理スヘシ

附則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 第七章 教習

#### 警察官吏教習所規程

(明治四十一年四月十一日) (民政部、民政部、警務署)

(訓令第四十三號)

關東都府府警察官吏教習所規程左ノ通定ム

關東都府府警察官吏教習所規程

#### 第一章 構成及權限

- 第一條 警察官吏教習所ハ關東都府府民政部所在地ニ置ク
- 第二條 警察官吏教習所ハ左ノ種別ニ依リ職務上必要ナル學術及實務ヲ教習ス
  - 一 巡查教習生(初メテ採用シタル者)
  - 二 巡查訓練生(現職者)
- 第三條 警察官吏教習所ニ左ノ職員ヲ置ク
  - 所長 民政部警務課警務係主任ヲ以テ之ニ充ツ
  - 舍監 警部中ヨリ之ヲ命ス
  - 教官 警部中ヨリ之ヲ命ス
  - 教官補 巡查部長中ヨリ之ヲ命ス
  - 事務員 專務教官タル警部ハ事務員ヲ兼スルモノトス
- 前項ノ外其ノ必要ニ應ジ教習事務ヲ囑託スルコトアルヘシ
- 第四條 所長ハ上官ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス  
所長ハ上官ノ承認ヲ得テ警察官吏教習所處務規程ヲ設クルコトヲ得
- 第五條 所長ハ教習生、訓練生心得ヲ定メ之ニ十日以内ノ禁足處分ヲ付スルコトヲ得
- 第六條 舍監ハ所長ノ命ヲ承ケ教習生、訓練生ノ取締ニ任シ尙所長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
- 第七條 教官ハ所長ノ命ヲ承ケ教習生、訓練生ノ教習ヲ擔任ス

第七條 教官補ハ所長及合監ノ指揮ヲ承ケ教習生、訓練生ノ教習及取締ヲ補助ス  
 第八條 事務員ハ所長ノ命ヲ承ケ庶務及會計ニ關スル事務ヲ取扱フ

第二章 教習課程及期限

第九條 教習科目及教習時間ハ左ノ如シ但シ必要ニ應シ上官ノ承認ヲ得テ變更伸縮スルコトヲ得

教習科目

科別	教習生		訓練生	
	科目	毎週時間	科目	毎週時間
警察法	規	六	憲法	一
憲法	大意	一	國際公法	二
國際法	大意	二	行政法	三
刑法	法	三	警察法	三
刑事訴訟法	法	三	刑法	三
衛生警察法	法	三	刑事訴訟法	三
支那語	一〇	一〇	衛生警察法	三
兵式操練	練	六	支那語	一〇
警察禮式	式	一	兵式操練	六

第十條 教習生ノ教習期限ハ三箇月訓練生ノ訓練期限ハ六箇月トス但シ上官ノ承認ヲ得テ期限ヲ伸縮スルコトヲ得

科				
射	馬	擊	柔	捕
的	術	劍	術	繩
一回	二	二	二	一

術科				
射	馬	擊	柔	術
的	術	劍	術	術
一回	二	二	二	二

教習生ニシテ曾テ巡查タリシ經歷ヲ有シ又ハ相當ノ學術、技能アリト認ムル者ニ對シテハ教習期間ヲ短縮シ又ハ教習科目ノ一部若ハ全部ヲ省略スルコトヲ得

第十一條 休暇ハ特別ノ事由ナキ限りハ試験成績調査日及一般官衙ノ休暇日トス

第三章 試験及證書

第十二條 教習又ハ訓練ノ期限終了シタルトキハ試験ヲ行フ試験ハ筆記又ハ口述トス但シ術科ハ試験ヲ省略シ平素ノ成績ニ依リ考查スルコトヲ得

第十三條 試験成績ノ得點ハ一科目毎ニ一百點ヲ以テ最高點トシ各科ヲ通シテ平均六十點以上ノ者ヲ合格トス但シニ科目三十點未滿ノ者ハ不合格トス

第十四條 試験ニ合格シタル者ニハ修了證書ヲ與ヘ尙其ノ成績優等ニシテ品行方正ナル者ニハ賞狀ヲ付與スルコトアルヘシ

修了證書及賞狀ハ別記様式ニ依ル

第十五條 教習生、訓練生ノ上衣並外套ノ左臂ニハ別記徽章ヲ附著ス

附則 明治三十八年關東州民政署訓令第二十一號關東州民政署巡查教習所規程ハ之ヲ廢止ス

(別記)  
(用紙鳥ノ子)  
(九寸)

(用紙鳥ノ子)  
(九寸)

分五寸一尺一

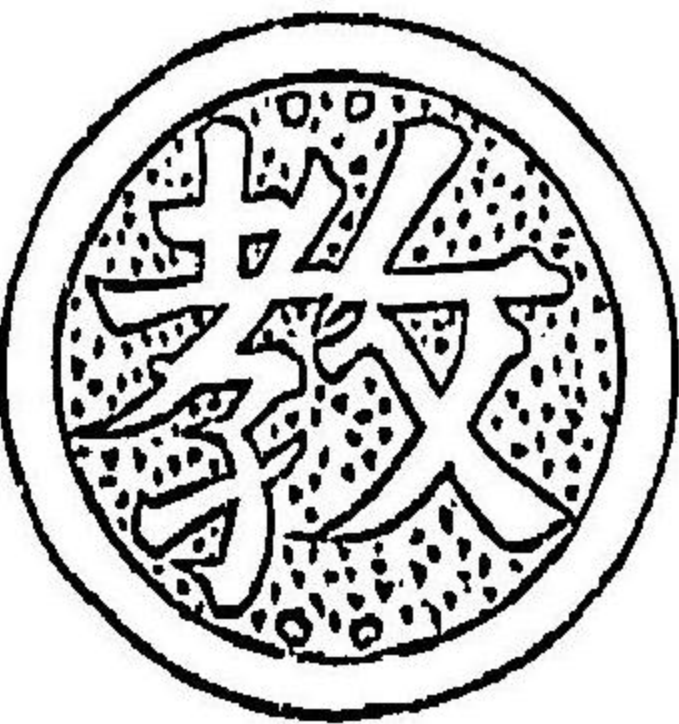
修了證書
巡查教習生(訓練生)何某
巡查教習科程修了ス因テ之ヲ證ス
年月日
關東都督府警察官吏教習所

分五寸一尺一

賞狀
巡查教習生(訓練生)何某
試験ノ成績優等ニシテ平素ノ品行方正ニ付之ヲ賞ス
年月日
關東都督府警察官吏教習所

質銅

教習生



徑一寸

質白銅

訓練生



徑一寸

●警察操典 (第六類一) (章ニ收ム)

●巡查訓授規程 (同上)

●巡查點檢規程 (同上)

●巡捕採用及教習規程 (第二類二) (章ニ收ム)

●看守教習規程 (明治三十九年九月一日) (訓令第三十七號) (民政部)

關東都督府看守教習規程左ノ通相定ム

關東都督府看守教習規程

第一條 新ニ採用シタル看守ニハ二箇月以上必要ナル學科及實務ヲ教習スヘシ但シ看守以上ノ監獄官吏タリ

第二類 官規 第七章 教習

シ經歷ヲ有スル者及學術ノ素養アル者ニ對シテハ教習ノ期間ヲ短縮シ又ハ教習ノ一部若ハ全部ヲ省略スルコトヲ得

第二條 看守ノ教習ハ監獄署ニ於テ毎日時間ヲ定メ之ヲ行フヘシ

第三條 教官ハ監吏、監獄醫、翻譯生ノ内三人以上トシ典獄之ヲ命ス必要ナル場合ニハ看守ニ教官補ヲ命スルコトヲ得

第四條 典獄ハ教習ノ場所ニ臨ミ教習ノ方法ヲ監督シ且教習中ノ看守ニ對シテ時々訓授スヘシ

第五條 看守教習科目ハ概ネ左ノ如シ

- 一 監獄則及監獄則施行細則
- 一 看守以下職務規程
- 一 刑法及刑事訴訟法ノ大要
- 一 官吏服務規律ノ大要
- 一 監獄ニ關スル諸法規ノ大要
- 一 戒護檢束ノ心得
- 一 在監人所遇ノ心得
- 一 在監人行狀勘査ノ心得
- 一 作業ニ關スル心得
- 一 姿勢、禮式、服裝其ノ他規律ニ關スル心得
- 一 監獄衛生ニ關スル事項痼患者取扱方ノ心得
- 一 記帳及諸報告ノ心得
- 一 實習體操、戒具使用法、消防演習、擊劍、柔術、記帳、報告、搜檢人相

一 支那語學ノ大要

第六條 教習ノ成績ハ便宜期間ヲ別チ時々之ヲ試驗シ仍教習修了ノ際ニ於テ卒業試驗ヲ行フヘシ

● 看守點檢規程 (明治三十九年九月一日) (民政部)

關東都督府看守點檢規程左ノ通相定ム

關東都督府看守點檢規程

第一章 總則

第一條 點檢ハ看守ノ人員、姿勢、服裝、給與品、貸與品ヲ檢査スルモノトス

第二條 點檢ヲ別テ通常點檢、臨時點檢トス

第三條 通常點檢ハ人員、姿勢、服裝、日常ノ携帶品及禮式ヲ檢査スルモノニシテ其ノ順序左ノ如シ但シ刀身及禮式ノ檢査ハ毎點檢時之ヲ爲ササルモ妨ナシ

- 一 人員
- 二 姿勢、服裝
- 三 刀身
- 四 手帖、名刺
- 五 捕繩
- 六 呼子笛
- 七 禮式
- 八 鐵器

第四條 臨時點檢ハ給與品ノ保存及代料ヲ以テ給與スル物品ノ適否ヲ檢査スルモノトス

第五條 點檢ハ上席監吏點檢官ト爲リ次席ノ監吏指揮官ト爲ル點檢官不在ノトキハ次席ノ監吏之ヲ代理シ指揮官ハ順次次席者之ヲ代理ス

第六條 點檢ノ定刻前ニハ看守ヲ所定ノ場所ニ召集セシムヘシ

第七條 點檢ハ最モ嚴格ニ之ヲ執行シ就中刀身ノ手入、姿勢、服裝ノ正否ハ周到嚴密ニ検査スルモノトス

第八條 外套ハ雨覆ヲ内ニ納メ之ヲ捲キ兩端ヲ結束左肩ヨリ右腋下ヘ懸クヘシ降雨又ハ嚴寒ノ際ハ外套ヲ著スルモ妨ナシト雖モ各員一定ナラシムルヲ要ス

第九條 手帖ハ上衣ノ左上隠シニ呼子笛ハ同右隠シニ捕繩ハ袴ノ右隠シニ名刺ハ手帖ノ名刺入ニ納ムルモノトス

外套ヲ著スルトキハ手帖、呼子笛ハ其ノ右隠シニ之ヲ納ムヘシ

第十條 點檢ノ隊形ハ通常ニ列横隊ニ作ルモノトス但シ集合所ノ地形又ハ人員ノ多寡ニ依リテハ一列横隊又ハ縱隊或ハ片手間隔ノ横隊若ハ半圓形ニ作ルコトヲ得

第十一條 集合ハ「集マレ」ノ號令又ハ呼子笛ノ一長聲ヲ以テス

第十二條 指揮官ハ號令ノ際振劔スルモノトス但シ刀身検査ノ場合ノ外ハ拔劔セサルモ妨ケナシ

第十三條 點檢官ハ左ノ方法ニ依リ豫テ看守ヲ集合順序ヲ一定シ置クヲ要ス

身長長短ノ順序ニ從ヒ約二尺(此ノ距離ハ前者ノ背ヨリ後者ノ胸マテヲ量ル)距離ヲ隔テテ二列ニ編成シ其ノ前後ニ立タル二人ヲ伍トシ各伍中長大ナル者ヲ第一列ニ置ク列員奇數ナルトキハ左翼ノ第二列ヲ缺ク之ヲ缺伍トス後列員ハ正シク前列員ニ重ナリ同方向ニ位置ス

各列員ノ間隔ハ肘肘互ニ接觸スルコトナク行進ニ當リ手ヲ前後ニ振動スルヲ妨ケサルヲ要ス此ノ間隔ハ右手ヲ側方ニ振りタルトキハ腕ノ右側ヲ右隣員ノ左背ニ觸ルルヲ度トス各伍ハ第一列正而ニ在テ右ヨリ左ニ番號ヲ附ス

列ノ兩翼前列ニ二名ノ嚮導ヲ置ク嚮導ハ看守部長ヲ以テ之ニ充テ其ノ在ラサルトキハ上席看守ヲ以テ之ニ

充ツ他ノ看守部長ハ後列ヨリ二歩ノ所ニ位置ス之ヲ押伍トス

第十四條 號令ヲ別テ豫令、動令トス豫令ハ明瞭ニ長ク動令ハ快活ニ短ク其ノ間適當ナル時間適當ナル時間トハ如何ニ動作スヘキヤノ判斷及準備ニ費ヤス時間ヲ云フヲ存スヘシ

第十五條 點檢ヲ受クヘキ人員寡少ナルトキハ第二章以下ノ規程ヲ參酌シ適宜之ヲ行フコトヲ得

第十六條 看守教習所ニ在テハ此ノ規則ニ依リ所長教官ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二章 通常點檢

第十七條 通常點檢ハ常日服務ノ看守ニ對シ交代時限二十分前之ヲ施行スルモノトス

第十八條 指揮官ハ定刻ニ至レハ左ノ號令ヲ下シ看守ヲ集合セシメ點檢ノ準備ヲ爲スヘシ

「集マレ」此ノ令ノ後集マルヘキ隊形ヲ高聲ニ告知ス

此ノ號令ニテ右翼嚮導速カニ指揮官ノ前面五六歩ノ處ニ面シテ位置シ以下列員ハ番號ノ順序ニ從ヒ靜肅ニ集合ス

第十九條 集合終レハ指揮官ハ順次左ノ號令ヲ下シ列員ヲ一線上ニ整頓セシム

一 氣ヲ付ケ

此ノ號令ニテ列員ハ不動ノ姿勢ヲ取ル其ノ法兩踵ヲ一線上ニ揃ヘテ之ヲ著ケ兩足ハ矩形ヨリモ少シク狭ク開キテ齊シク外側ニ向ケ兩膝ハ之ヲ伸ハシテ接著シ上體ハ正シク腰上ニ落チ付ケ且少シク前ニ傾ケ兩肩ハ故ラニ張ルコトナク後方ニ引キ一様ニ下ケ兩臂ハ自然ニ垂レ掌ハ僅ニ前方ニ向ケ指ヲ輕ク屈メテ之ヲ竝ヘ小指ヲ袴ノ縫目ノ後口ニ當テ頭ハ正シク眞直ニ保テ臆ヲ輕ク頸ニ近ツケ兩眼ハ遠ク前面ノ一點ヲ直視ス

此ノ號令ニテ右翼首位ノ者ヨリ單簡明瞭最モ迅速ニ一ト發唱シツツ頭ヲ左ニ回ハシ次キノ者即チ二番ニ唱ヘ送り直ニ頭ヲ正而ニ復ス斯ノ如クシテ順次末尾ニ至ル

三 嚮導三步(二步四步五步)前へ進メ  
 此ノ號令ニテ兩翼嚮導ハ示サレタル歩數ヲ前進ス指揮官ハ直ニ驅歩ヲ以テ嚮導ノ右側二步ノ處ニ立チ兩嚮導ヲ一線上ニ位置セシメ列員整頓ノ基準線ヲ作ルモノトス

四 右へ一準へ  
 此ノ號令ニテ列員ハ三步ハ三步(二步四步五步)前進シ最後ノ一步ヲ少シク縮メ整頓線ノ後方五六寸ノ處ニ止マリ右手ヲ腕骨ノ上ニ上ケ拇指ヲ後ロニシ他ノ四指ヲ接シテ之ヲ前ニシ肘ヲ側方ニ張り上體ヲ前後ニ出スコトナク頭ヲ右(左)ニ向ケ右眼(左眼)ヲ以テ隣員ヲ目視シ他眼ヲ以テ全線ヲ通視シ得ルマテ小サキ摺歩ヲ以テ前後シ靜ニ整頓ニ就ク押伍(若シニ列員ナルトキハ後列員モ)ハ正シク前列員ニ重リテ距離ヲ取り右方(左方)ニ整頓ス

五 直レ  
 兩翼嚮導ハ己レニ近キ者ヨリ逐次速ニ何番後へ何番前へと呼ヒ整頓ヲ正スヘシ

此ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復シ右手ヲ垂下ス六若ニ列横隊ナルトキハ左ノ號令ヲ下シ前後列ヲ六步ノ距離ニ展開ス

前六步前へ一進メ

此ノ號令ニテ前列員ハ左足ヨリ六步前進ス其ノ法左脚ヲ輕ク屈メテ前ニ出シ足尖ヲ少シク下ケ且僅ニ外方ニ向ケ上體ヲ少シク前ニシ右足ヨリ二尺四寸ノ處ニ脚ヲ伸ハシツツ故ラニ地面ヲ敲クコトナク平ラニ踏付ケ同時ニ胸ヲ地面ノ方ニ壓シテ伸シ全ク體ノ重ヲ踏付ケタル足ノ上ニ移シ左足ヲ踏付ルト同時ニ右踵ヲ地ヨリ離シ左脚ニ就テ示セント同法ニテ右脚ヲ前ニ出シ前進ヲ續行シ兩肩ヲ回スコトナク頭ヲ真直ニ保チ兩臂ヲ自然ニ振動ス而シテ六步目ニテ後テ爾足ヲ前ニ引付ケテ止ル(一步ノ長サハ踵ヨリ踵マテ二尺四寸ニシテ一分時間ニ百五步ヲ以テ常歩トス)

第二十條 前條ノ動作終レハ左ノ號令ヲ下シ列員ヲ休憩セシメ點檢官ノ臨場ヲ待ツモノトス  
 休メ

此ノ號令ニテ列員ハ右足ヲ其ノ儘ニシ左足ヲ足裏ノ長サ程其ノ方向ニ出シ姿勢ニ意ヲ止ムルコトナク休憩ス

若右足ヲ休メント欲セハ正シク右足ヲ舊位ニ復シ右足ヲ左足ヲ休メタル如クス如何ナル場合ト雖兩足同時ニ舊位ヲ離シ又ハ談話スルコトヲ得ス

第二十一條 點檢官臨場スルトキハ指揮官ハ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ列員ニ不動ノ姿勢ヲ取ラシメ點檢官ノ許ニ至リ相當ノ敬禮ヲ行フタル後人員ノ報告ヲ爲スヘシ

第二十二條 點檢官ハ指揮官ヨリ人員ノ報告ヲ受ケ終レハ直ニ列ノ右翼前面ヨリ左翼ヲ通過シ背後ニ回ハリ(若ニ列ナレハ後列モ前列ノ如クス)服裝、刀鞘、靴、手袋、下襟、姿勢ヲ檢査シ終リテ定位ニ就クヘシ但シ指揮官ニ隨行スルモノトス

第二十三條 銃器ノ點檢號令左ノ如シ

一 前列五(六步)步前(後列何步後)へ進メ

二 檢メ銃

此ノ號令ニテ列員一齊ニ銃ノ遊底ヲ開キ點檢ニ供シ點檢終リタル者ハ銃ノ遊底ヲ閉テ前ノ姿勢ニ復ス全員點檢終リタルトキハ左ノ號令ヲ下ス

三 後列閉メ進メ

四 組メ銃

五 解レ進メ

第二十四條 前條ノ檢査終リ刀身ノ檢査ヲ爲ス場合ハ左ノ號令ヲ下シ各人ノ距離間隔ヲ取ラシム但シ人員少



數ナルトキハ適宜號令ヲ以テ間隔ヲ取ラシムルモ妨ナシ  
奇數員(偶數員)三步前へ一進メ

此ノ號令ニテ呼ハレタル數員及兩翼嚮導ハ三步前進ス若嚮導隊員ト間隔ヲ取り得サルトキハ指揮官ハ右  
(左)嚮導一步左(右)ノ告諭ヲ爲ス

次ニ左ノ號令ヲ下シ拔劍セシム

拔ケー劍

此ノ號令ニテ列員ハ左ノ分解動作ヲ爲ス

- 一 「拔ケー」ノ豫令ニテ左手ヲ以テ鞘ノ第一環上部ヲ握リ右手ヲ以テ劍柄ヲ握リ約鯉口一寸餘ヲ緩ム
- 二 「劍」ノ動令ニテ活潑ニ劍ヲ拔キ右足尖ノ方向ニ伸ハシ拳ヲ肩ノ高サニシ拇指ヲ劍柄ニ添ヘ鏝ヲ壓スル如クシテ伸ハシ劍及ヲ右斜下方ニ向ケ劍尖ヲ眼ノ高サニシ兩眼ヲ切先ニ注ク
- 三 劍柄ヲ右手ノ拇指ト食指ト中指ノ間ニ把持シ他ノ二指ヲ劍柄ノ後ニ當テツツ之ヲ下ケ右腕骨ノ稍下方ニ接著シ肘ヲ成ルヘク後ニ引キ劍身ヲ眞直ニシ劍背ヲ背ノ縫目ニ接スルト同時ニ頭ヲ正面ニ復シ左手ヲ垂下ス

第二十五條

拔劍動作終レハ點檢官ハ第一列右翼ヨリ劍ノ把持法特ニ刀身ヲ檢查シ荷モ手入ノ粗漏アルトキハ嚴戒ヲ加フヘシ此ノ場合ニ於テ指揮官ニ隨行スルモノトス

第二十六條

刀身ノ檢查終レハ指揮官ハ左ノ號令ヲ以テ納メシムヘシ

納メー劍

此ノ號令ニテ列員ハ左ノ分解動作ヲ爲ス

- 一 「納メー」ノ豫令ニテ右手ヲ以テ第一環上部ヲ握ル
- 二 「劍」ノ動令ニテ右手ノ拇指ヲ劍柄ニ添ヘテ伸シ無名指ト小指ヲ他二指ニ併セ劍柄ヲ握リツツ之ヲ上ケ

右肘ヲ輕ク脇ニ著ク鏝ノ腮ノ前方約四寸ノ所ニ持來リ劍身ヲ眞直ニシ刀ヲ左右ニ向ク

三 劍身ヲ左方ニ倒シ右手ヲ高ク上ケ眼ヲ鯉口ニ注キ劍身ヲ確實ニ納メ速ニ兩手ヲ垂下シ頭ヲ正面ニ復ス

次ニ指揮官ハ左ノ號令ヲ下シ舊形ニ復サシムヘシ

偶數員(奇數員)三步前へ進メ

此ノ號令ニテ偶數員(奇數員)ハ左足ヨリ三步前進シ元ノ位置ニ入ル嚮導ノ間隔ヲ取リタルモノハ同時ニ舊位置ニ復ス(此ノ時手套ヲ脱シ刀緒ニ挟ムモノトス)

第二十七條 人員、姿勢、服裝、刀身ノ檢查ヲ終ラハ指揮官ハ左ノ順序ニ依リ號令ヲ下スヘシ

點檢官ハ指揮官ヲ隨ヘ一品毎ニ第一列右翼ヨリ異狀ノ有無ヲ檢查スヘシ

一 手帖前へ

此ノ號令ニテ列員ハ左ノ動作ヲ爲ス

- 一 「手帖」ノ豫令ニテ右手ヲ以テ隱シヨリ手帖ヲ半ハ提出ス(以下之ニ做フ)
- 一 「前へ」ノ動令ニテ手帖ヲ全ク出シテ右肩ノ前ニ持チ來リ肘ヲ體ニ接シテ前臂ヲ水平ニシ左手ヲ以テ印章名刺ノアル處ヲ開キ右掌ノ上ニ置キ拇指ヲ以テ之ヲ支ヘ左手ヲ垂下ス(以下之ニ做フ)

二 收メー

此ノ號令ニテ速ニ左手ヲ添ヘテ手帖ヲ閉テ右手ヲ以テ隱シニ之ヲ納ム

二 捕繩前へ

此ノ號令ニテ右手ヲ以テ捕繩ヲ出シ解キ口ヲ前方上部ニ向ケ掌ヲ上ニシ之ヲ持ツ

四 解繩

此ノ號令ニテ左手ヲ添ヘテ一齊迅速ニ解繩シ了テ左手ヲ垂下ス但シ此ノ號令ハ時宜ニ依リ省略スルコトヲ得

五 納メ

此ノ號令ニテ解繩シアルトキハ左手ヲ添ヘ假ニ繰リ纏メテ之ヲ納メ解繩シアラサルトキハ右手ノミヲ以テ速ニ之ヲ納ム

六 呼子笛

此ノ號令ニテ右手ヲ以テ呼子笛ヲ出シ横穴ヲ下方ニ向テ之ヲ持ツ

七 發聲

此ノ號令ニテ右肉肘ヲ軸トシ頭ヲ伏仰スルコトナク笛ヲ口ニ持テ來リ強ク一聲吹笛シ右手ヲ舊位ニ復ス此ノ如クニシテ右翼ヨリ順次吹笛ス但シ發聲ハ時宜ニ依リ省畧スルコトヲ得

八 收メ

此ノ號令ニテ之ヲ納ム

第二十八條 前條ノ檢査了リ禮式點檢ヲ行フトキハ左ノ順序ニ依ル

- 一 室外ノ最敬禮
- 二 室外ノ敬禮
- 三 室外同僚間ノ禮
- 四 兩手物品携帶ノ敬禮
- 五 室内ノ最敬禮
- 六 室内ノ敬禮
- 七 辭令書物品等授受ノ禮

第二十九條 前條ノ第一乃至第四ノ禮式點檢ヲ行フトキハ左ノ號令ヲ下スヘシ

- 一 前列何歩前ヘ進メ

此ノ號令ニテ場所ノ許ス程度ニ於テ成ルヘク廣ク開展セシム

二 前列同ハレ

此ノ號令ニテ左ノ分解動作ヲ爲ス

- 一 右足ヲ其ノ方向ニ於テ後ロニ引キ右足尖ヲ左踵ニ接ス
  - 二 兩脚ニ力ヲ加ヘテ伸ハシ兩踵ヲ心トシ兩足尖ヲ輕ク上ケ腰ト踵ニテ迅速ニ共ニ後ロニ向キ回ハル
  - 三 右足ヲ左足ニ引著ケテ左方ニ整頓ス
- 右第二ノ號令ニ換フルニ左ノ號令ヲ下スコトヲ得  
回ハレ

其ノ法「止」ハ右足ノ地ニ著クトキ下スモノニシテ右足ヲ一步前ニ踏ミ出シ其ノ足尖ニテ後ロニ回ハリ右足ヲ左足ニ引著ケ止ル

第三十條 前條ノ如ク前後相當ノ距離ヲ隔テテ相對向スレハ點檢官及指揮官ハ列ノ右(左)側方適宜ノ位置ニ就キ第二十八條ノ順序ヲ追フテ禮式ノ種類ヲ指示シ前列(後列)ヲ受禮者トシ後列(前列)ヲ行禮者トス但シ人員多數ナルトキハ一列員ニハ最敬禮他ノ一列員ニハ同僚間ノ敬禮ヲ行ハシメ順次行ヒ終レハ次ニ一列員ニハ物品携帶(手帖ヲ物品ト見做シ携帶セシム)ノ禮ヲ行ハシムル等便宜ニ從フコトヲ得  
指揮官禮式ノ種類ヲ指示シ了レハ左ノ號令ヲ下スヘシ  
始メ

此ノ號令ニテ前列(後列)ノ一番及後列(前列)ノ終番員ハ左足ヨリ互ニ前進シテ前後列員逢ヒ互ニ五歩ノ所ニ至リ其ノ指示セラレタル禮式ヲ行ヒ了テ前進シ列ノ後ロニ至リ正而ニ位置ス  
又此ノ號令ニテ他ノ列員ハ休メノ姿勢ヲ取ル然レトモ前進スルニ當テハ必ス氣ヲ付ケノ姿勢ヲ取り左足ヨリ前進スヘシ

右禮式了レハ他ノ列員ハ指揮官ノ指示ヲ待タズ逐次前進シテ末尾ニ至ルヘシ若末尾奇數ナルトキハ指揮官ヲ受禮者ト看做スヘシ

第三十一條 禮式點檢ニ於テ規定ノ禮式ニ違ヒ又ハ動作不十分ナルトキハ點檢官又ハ指揮官ハ式ニ適合スル迄反覆之ヲ行ハシム

第三十二條 第二十八條第五乃至第七ノ禮式點檢ヲ行フトキハ列ノ右翼ヨリ順次指揮官ノ三步前マテ進ミ禮式ヲ爲サシメ指揮官ハ一々之ニ答禮スヘシ辭令書物品等ノ授受ノ禮ハ便宜手帖ヲ辭令書又ハ物品ト看做シ指揮官ハ奇數員ヲ以テ捧呈者トシ偶數員ヲ以テ拜受者トシ順次末尾ニ至ラシムヘシ

第三十三條 全員ノ點檢了レハ指揮官ハ二列ニ在リタルモノハ元ノ二列橫隊ニ復サシムル爲メ左ノ號令ヲ下スヘシ

一 前列回ハレ一右

二 後列前ヘ一進メ

此ノ號令ニテ後列ハ前列ノ直後ニ向テ前進ス

次ニ左ノ號令ヲ下シテ停止セシメ二列橫隊ニ作ル

三分隊止レ

第三十四條 指揮官ハ列ヲ解散セシムル爲メ「解レ」進メ」ノ號令ヲ下シ列員ハ點檢官指揮官ニ對シ一齊ニ舉手注目ヲ爲シ其ノ答禮ヲ待テ解散スヘシ

第三十五條 臨時點檢ハ消防具ヲ除ク外毎月一回之ヲ行フモノトス但シ時宜ニ依リ二箇月ニ一回ト爲スコトヲ得

第三十六條

物品點檢ハ帽、被服、外套、肌著、長短靴、肩章、提燈、消防具等ノ使用、保存ノ當否及代料渡品ノ適否破綻ノ手入レ釦其ノ他徽章ノ正否手帖ノ記載事項等嚴密詳細ニ検査スルモノトス其ノ不都合ト認ムルモノハ期間ヲ定メ修繕セシムルヲ要ス

第三十七條

物品配置ノ場所ハ豫メ一定シ置キ一見検査ニ差支ナキ様配列シ受檢者ハ其ノ前ニ整列スヘシ

第三十八條

物品配列了レハ點檢官ハ指揮官ヲ隨ヘ列ノ右翼(左翼)ヨリ検査ヲ爲シ終テ指揮官ハ物品ヲ收メシメ「解レ」進メ」ノ號令ヲ下シ第三十四條ノ如ク敬禮ヲ行ヒ解散スヘシ但シ人員少數ナルトキハ此ノ號令ヲ略スルコトヲ得

第三十九條

消防具ノ點檢ハ四箇月毎ニ一回演習ノ際之ヲ行フモノトス

第四十條

機械器具ニシテ使用シタルモノハ洗濯ノ後修繕シタルモノハ竣工ノ後之ヲ點檢スヘシ

第四十一條

唧筒其ノ他ノ機械ニシテ組立テアルモノハ毎年二回以上之ヲ分解シ内部ノ検査ヲ爲スヘシ

前項ノ検査ハ可成丈演習ノ際ニ於テ之ヲ行フヘシ(敬禮ノ點檢ヲ行フトキハ押伍列ヲ後列ノ兩翼ニ付スルモノトス)

### 第八章 儀禮

#### ●文官禮式

(明治四十年一月二十九日) (官規、民政部、民政部、警務署、  
令 第 二 九 號) (法院、郵便電信局、測候所)

關東都督府文官禮式左ノ通相定ム

#### ●關東都督府文官禮式

第一條 此ノ禮式ニ於テ文官ト稱スルハ關東都督府高等文官、判任文官ヲ謂ヒ上官ト稱スルハ勅任官、奏任官、判任官及判任以下ニ區別シタル階級ノ上ナルモノヲ謂フ

第二條 文官ニシテ制服ヲ着用シタル者ハ此ノ禮式ニ依リ上官ニ對シテハ敬禮ヲ行ヒ上官ハ之ニ答禮シ同班者ハ互ニ敬禮ヲ交換スヘシ

- 第三條 敬禮ヲ分テ室内敬禮及室外敬禮ノ二トス
- 第四條 室内ノ敬禮ハ敬スヘキ人ニ對シテ正面シ姿勢ヲ正シ左右ノ手ヲ垂下シ其ノ眼ニ注目シテ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ク若帽ヲ持ツトキハ右手ニテ其ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ内部ヲ内股ニ對セシム刀ヲ佩フルトキハ柄ヲ後ニシテ兩環ノ間ヲ握ル
- 第五條 上官ノ居室ニ入ルトキハ其ノ席ヲ離ルコト五六歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行フヘシ若上官數名アルトキハ先其ノ最高級ノ人ニ敬禮シ次テ他ノ一同ニ敬禮スルモノトス其ノ居室ヲ去ルトキ亦同シ
- 第六條 上官ヨリ官記位記辭令書ノ類ヲ受クルトキハ第四條ノ法ニ依リ敬禮ヲ行フノ後適宜前進シ帽ヲ左脇ニ挾ミ右手ヲ以テ拜受シ左手ヲ副テ披見シ直ニ之ヲ收メ舊位ニ復シ再度敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ
- 第七條 室外ノ敬禮ハ敬スヘキ人ニ對シテ正面シ姿勢ヲ正シ左手ヲ垂下シ右手ヲ舉ケ諸指ヲ接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊クシ其ノ眼ニ注目ス刀ヲ佩フルトキハ柄ヲ後ニシ兩環ノ間ヲ握ル
- 第八條 途上ニ於テ上官ニ行遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ頭ヲ少シク受禮者ノ方ニ向ケ第七條ノ法ニ依リ敬禮ヲ行フヘシ
- 第九條 文官以外ノ者ヨリ敬禮ヲ受ケタルトキハ之ニ答禮スヘシ
- 第十條 此ノ禮式ハ特ニ規定アルモノニハ之ヲ適用セス
- 第十一條 本令ハ明治四十年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

警察禮式

(明治三十九年九月一日) (民政部) (訓令第十號)

關東都督府警察禮式左ノ通相定ム

關東都督府警察禮式

第一章 通則

- 第一條 警察官吏制規ノ服裝ヲ爲シタルトキハ別ニ規定アル場合ノ外此ノ禮式ニ依リ敬禮ヲ行フヘシ
- 第二條 此ノ禮式ニ於テ上官ト稱スルハ勅任官、奏任官、判任官及判任待遇ノ區別ニ依リ其ノ階級ノ上ナル者ヲ謂フ
- 職務上監督ヲ受クル者ノ其ノ監督官ニ對スルハ之ヲ上官ト看做ス
- 第三條 警察官吏ハ職務執行ノ爲止ムヲ得サル場合ノ外上官ニ對シテ敬禮ヲ行ヒ上官ハ之ニ答禮シ同班ハ互ニ敬禮ヲ交換スルモノトス但シ答禮ハ單ニ注目ヲ以テ敬意ヲ表スルモ妨ケナシ
- 第四條 皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃、親王、親王妃內親王、王、王妃、女王ニ對シテハ天皇ニ準スル敬禮ヲ行フヘシ外國ノ君主、皇族ニ對シテハ天皇若ハ皇族ニ準スルノ敬禮ヲ行フモノトス但シ公式ノ場合ニ限ル
- 第五條 敬禮ハ制規ノ服裝ヲ爲シタル人ニ對シテ行フヲ例トス但シ單獨ノ敬禮ハ上官タルコトヲ認知シタルトキハ服裝ノ如何ニ拘ラス之ヲ行フヘシ
- 第六條 上官ト同行スルトキハ通常其ノ左側又ハ後方ニ就クヲ禮トス但シ誘導者ハ此ノ限ニ在ラス
- 狹隘ノ道路、橋梁、廊下、階段等ニ於テ上官ニ出會シタルトキハ停止シテ其ノ通過ヲ待チ又ハ其ノ席ヲ讓ル等總テ上官ノ行動ヲシテ便利ナラシムルヲ禮トス
- 第七條 警察官吏ノ葬送ニ遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ柩ニ對シテ敬禮ヲ行フヘシ
- 第八條 敬禮ヲ受ケタルトキハ其ノ何人タルヲ問ハス適宜之ニ答禮ヲ行フヘシ
- 第二章 室内ノ敬禮
- 第九條 室内トハ居室、事務室、應接所ヲ謂ヒ廊下、階段及庖厨等ノ如キハ之ヲ室外ト看做ス

祭典又ハ會葬ノ場合ハ總テ室内ノ敬禮ヲ行フモノトス

第十條 室内ニ入ルトキハ戶外ニ於テ脱帽スヘシ但シ執銃シタルトキハ此限ニ在ラス

第十一條 室内ノ敬禮ハ敬スヘキ人ニ面シテ姿勢ヲ正シ其ノ眼ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ若帽ヲ携ヘタルトキハ右手ニテ其ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ内部ヲ右股ニ對セシメ刀ヲ佩ヒタルトキハ柄ヲ後ニシテ之ヲ握ル

執銃シタルトキハ敬スヘキ人ニ面シ立銃シテ姿勢ヲ正シ其ノ眼ニ注目スルモノトス

第十二條 天皇<sup>皇太后、皇太后、皇太后、皇太后</sup>后<sup>皇太后、皇太后、皇太后、皇太后</sup>ハ之ニ準ス以下同シニ拜謁スルトキハ御室ノ入口ニテ一タヒ敬禮シ次テ玉座ト入口トノ中間ニ於テ二タヒ敬禮シ更ニ玉座ヲ距ルコト約六歩ノ所ニ進ミ三タヒ敬禮スヘシ退出ノ際ニ於ケル亦同シ

第十三條 上官ノ居室ニ入ルトキハ其ノ席ヲ距ルコト約五六歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行フヘシ若上官二人以上アルトキハ先ツ其ノ高級ノ人ニ敬禮シ次ニ他ノ一同ニ敬禮スルモノトス居室ヲ去ルトキ亦同シ

第十四條 上官ヨリ官記、位記、勅記、辭令書等ノ類ヲ受クルトキハ前條ニ依リ敬禮ヲ行ヒタル後適宜ニ前進シ帽ヲ左脇ニ狹ミ右手ヲ以テ拜受シ左手ヲ副テ披見シ直ニ之ヲ收メ舊位ニ復シ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ

第十五條 上官ヨリ書類其ノ他ノ物件ヲ受ケ若ハ之ヲ呈スルトキハ前條ニ準シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ又ハ之ヲ呈シ若執銃シ在ルトキハ左手ヲ以テ呈スル所ノ物其ノ場ニ於テ披見ヲ要スルトキハ執銃ハ體ニ托シ右臂ヲ以テ之ヲ支ヘ右手ヲ副テ披見スルモノトス

返簡若ハ領證ヲ受クヘキトキハ舊位ニ復シテ之ヲ待ツヘシ

第十六條 上官ヨリ命令、諭告等ヲ承ケ又ハ上官ニ陳述ヲ爲ストキハ敬禮ヲ行フノ後適宜前進シテ之ヲ受ケ又ハ陳述シ其ノ場ヲ退去スルニ臨ミ舊位ニ復シ再ヒ敬禮ヲ行フヘシ

第十七條 上官居室ニ來ルトキハ椅子ヲ離レテ立テ敬禮ヲ行フヘシ而シテ其ノ關係アル者ノ外ハ一旦敬禮ヲ行フノ後著席シ各其ノ事ニ服シ上官居室ヲ去ルトキ復敬禮ヲ行フヘシ但シ所屬民政署長及警視以上ニ對シ

テハ先ニ之ヲ覺知シタル者ノ氣ヲ付ケレノ號令ヲ爲シ本文ノ敬禮ヲ行フモノトス

第十八條 同級又ハ下級ノ者居室ニ來リテ敬禮ヲ行フトキハ同級ナレハ一旦椅子ヲ離レテ敬禮シ下級ナレハ其ノ儘答禮スルモノトス

第十九條 室内ニ於テ公事ヲ談スルトキハ下級ノ者ハ椅子ヲ離レテ立テ姿勢ヲ正スヘシ但シ上官ノ許可アルトキハ著席スルモ妨ケナシ

第二十條 下級ノ者ノ居室ニ入ルトキハ脱帽セサルモ妨ケナシ此ノ場合ニ於テ答禮ハ舉手注目ヲ爲シ又脱帽シタルトキハ唯之ニ注目シ答禮ノ意ヲ表スルモノトス

第二十一條 宴會、集會等總テ公會ニ列スルトキハ上官ヨリ先ニ椅子ニ倚ルコトナク先ニ食卓ニ就クコトナク先ニ食卓ヲ離ルルコトナク先ニ喫煙スルコトナキヲ禮トス但シ上官ノ許可アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 室外ノ敬禮

第二十二條 室外ノ敬禮ハ舉手注目トシ敬スヘキ人ニ面シテ姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ケ諸指ヲ接シテ伸シ食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊シクシ其ノ眼ニ注目スヘシ其ノ執銃シ在ルトキハ天皇ニハ捧銃ノ禮ヲ行ヒ其ノ他ハ執銃ノ儘姿勢ヲ正シ步調ヲ取り頭ヲ敬スヘキ人ニ向テ其ノ眼ニ注目スルモノトス其ノ停止間ニ在リテハ第十一條第二項ノ例ニ依ル

物品ヲ携帶シ右手ヲ舉ケルコト能ハサルトキハ敬スヘキ人ノ眼ニ注目シ敬意ヲ表スヘシ

第二十三條 行幸ニ遇フトキハ前驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ停止正面シ車駕約六歩前ニ近クトキ敬禮ヲ行ヒ約六歩過クルマテ其ノ姿勢ヲ保ツヘシ

第二十四條 上官ニ遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ頭ヲ少シク其ノ方ニ向ケ敬禮ヲ行フヘシ但シ巡查ノ所

屬民政署長及警視以上ニ對シテハ其ノ三四歩前ニ於テ停止シ本文ノ敬禮ヲ行フヘシ

上官ノ後方ヨリ來リテ先ニ行カントスルトキハ其ノ旨ヲ告ケテ通過スヘシ

第二十五條 停止ノ際上官其ノ傍ヲ通過スルトキハ其ノ方ニ面シ敬禮ヲ行ヒ又停止シタル上官ノ許ニ至ルト

キハ上官ヲ距ルコト約五六歩ノ所ニ停止シ敬禮ヲ行フヘシ

第二十六條 乘馬ニテ馳歩又ハ速歩行進中上官ニ遇フトキハ常歩ニ移シ敬禮ヲ行フヘシ若後方ヨリ來リテ先

ニ行カントスルトキハ其ノ旨ヲ告ケ馳歩又ハ速歩ニ復スルコトヲ得但シ急ヲ要スル公務ヲ帶ヒタルトキハ

其ノ事由ヲ告ケ常歩ニ移ササルモ妨ケナシ

第二十七條 乗車ニテ上官ニ遇フトキハ乗車ノ儘姿勢ヲ正シ敬禮ヲ行フヘシ其ノ後方ヨリ來リテ先ニ行カン

トスルトキハ前條ノ規定ニ準ス但シ自轉車ニ乘リタルトキハ敬禮ハ舉手注目ヲ單ニ注目ニ換フルコトヲ得

第二十八條 上官ノ率ユル部隊ニ遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ上官ニ對シ敬禮ヲ行ヒ且其ノ部隊ニ注目

スヘシ但シ警衛服務中又ハ會葬ノ部隊ニ對シテハ敬禮ヲ行フノ限ニ在ラス

部隊ヨリ敬禮ヲ受ケタルトキハ其ノ指揮ヲ掌ル者ニ答禮ヲ行フヘシ

第二十九條 第十四條乃至第十九條ノ規定ハ室外ニ於ケル場合ニモ之ヲ準用ス

第四章 部隊ノ敬禮

第三十條 部隊トハ人員ノ多寡ニ拘ハラヌ隊伍ヲ組ミ又ハ整列シタル場合ヲ總稱ス

第三十一條 天皇ニ對シテハ隊列ヲ正シ第二十二條第二十三條ニ準シ一齊ニ敬禮ヲ行フヘシ

行進中ニアリテハ直ニ停止シ道路ノ一側ニ整列シ前項ノ敬禮ヲ行ヒ鹵簿隊列ヲ過去リタル後ニ非ラサレハ

行進ヲ始ムルコトヲ得ス

第三十二條 御眞影 賀ノトキハ橫隊又ハ縱隊ニ整列シ前條ニ依リ敬禮ヲ行フヘシ

前項ノ規定ハ拜神ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 上官ニ對シテハ「氣ヲ付ケ」ノ令ニテ一同姿勢ヲ正シ受禮者ニ注目シ其ノ指揮ヲ掌ル者ノミ相當

ノ敬禮ヲ行フヘシ其ノ行進中ニ在リテハ「頭右(左)」ノ令ニテ頭首ヲ受禮者ノ方ニ向テ其ノ指揮ヲ掌ル者ノ

ミ敬禮ヲ行フモノトス但シ部隊ノ單獨者ニ對スルハ其ノ指揮ヲ掌ル者ヨリ上級ニ非ラサレハ敬禮ヲ行フノ

限ニ在ラス

第三十四條 部隊相遇フトキハ其ノ指揮ヲ掌ル者ノ階級下ナル者ヨリ先ツ敬禮ヲ行ヒ同級ナレハ先後ヲ論ス

ルコトナク互ニ敬禮ヲ行フヘシ

第三十五條 途步行進中ニ在リテハ第三十一條ノ場合ヲ除クノ外何人ニ對スルモ敬禮ヲ行ハス唯其ノ指揮ヲ

掌ル者ノミ相當ノ敬禮ヲ行フ

前項ニ依リ敬禮ヲ行ハサルトキト雖上官ニ行進ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ整肅ニ步行スルコトヲ要ス

第三十六條 儀式祭典等ノ爲其ノ場所ニ整列シタルトキハ天皇ニ對スルカ又ハ其ノ儀式祭典ノ爲ニ行フノ外

總テ敬禮ヲ行ハサルモノトス警衛服務中ニ在リテモ亦同シ

第五章 水上ノ敬禮

第三十七條 天皇ニ對シテハ端艇ニ在リテハ棹手一齊ニ棹ヲ止メテ汽船ニ在リテハ進行ヲ止メ船員甲板上適

宜ノ場所ニ整列シ帆走中ノ船ハ總帆ヲ下シ艦船ハ進行ヲ止メ總員起立シテ敬禮ヲ行フヘシ但シ一人ニシテ

二艇ノ棹ヲ操ルトキハ敬禮ヲ受クル人ニ面セサル方ノ棹ヲ收メ他方ノ棹ヲ立テ起立シテ敬禮ヲ行フヘシ

「クラツチ」ヲ具備シタル端艇ニ在リテハ棹ヲ上ケ棹手ノ外總員起立シ敬禮ヲ行フヘシ

第三十八條 端艇ニ在リテハ前條ノ敬禮ヲ行フトキハ左ノ號令ヲ用ユヘシ但シ「クラツチ」ヲ具備シタル端艇

ニ在リテハ第四十條ノ號令ヲ用ユルモノトス

一 棹立テ方用意

- 二 立テ一機ノ平面ヲ左右ニ向ケ  
兩手ヲ以テ之ヲ把持ス
- 三 下セ

一人ニテ二挺ノ機ヲ操ルトキハ左ノ號令ヲ用ユヘシ  
左(右)舷收メ

帆走中ノ船ニアリテハ左ノ號令ヲ用ユヘシ

- 一 帆下シ方用意
- 二 下セ
- 三 上ケ

第三十九條 所屬民政署長及警視以上ニ對シテハ端艇ニ在リテハ槳手槳ヲ上ケ汽船ニ在リテハ進行ヲ緩メ帆走中ノ船ハ「シード」ヲ伸シ機ノ進行ヲ止メ凡テ指揮官ノミ起立シテ敬禮ヲ行フヘシ但シ一人ニテ二挺ノ機ヲ操ルトキハ敬禮ヲ受クル人ニ面セサル方ノ槳ヲ收メ他方ノ槳ヲ上ケ敬禮ヲ行フヘシ  
前項ノ以外ノ上官ニ對シテハ進行ノ儘指揮者ノミ敬禮ヲ行フヘシ

第四十條 端艇ニ在リテハ前條第一項ノ敬禮ヲ行フトキハ左ノ號令ヲ用ユヘシ

- 一 槳上ケ方用意
  - 二 上ケ機ヲ舷ト平  
線ニ保ツ
  - 三 下セ
- 帆走中ノ船ニ在リテハ左ノ號令ヲ用ユヘシ
- 一 シード伸シ方用意
  - 二 放セ
  - 三 元ヘ

第四十一條 第三十八條及前條ノ號令ハ端艇ニ在リテハ舵ヲ掌ル者其ノ他ニ在リテハ指揮者ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第四十二條 同僚ノ乗込ミタル船相遇フトキハ指揮者ノミ互ニ敬禮ヲ行フヘシ

第四十三條 水上ノ敬禮ハ特ニ命令アル場合ノ外夜間ニ在リテハ之ヲ行ハサルモノトス

第四十四條 後方ヨリ來リテ上官ノ乘リタル船ヲ乘リ越ヘ又ハ其ノ前方ヲ横過セントスルトキハ相當ノ敬禮ヲ行ヒタル後其ノ旨ヲ告ケ進行スヘシ

第四十五條 船舶ニ乗降ノ際ハ上官ヲ先ニスヘシ但シ端艇及小蒸汽船ニ乗込ム場合ニ在リテハ下終ノ者ヨリ先ニスルモノトス

第四十六條 荷物ヲ積載シ又ハ他船ニ曳レタル船ニシテ相當ノ敬禮ヲ行フコト能ハサルトキハ指揮ヲ掌ル者ノミ敬禮ヲ行フモノトス

第四十七條 本章ニ規定セサルモノハ第二章及第三章ノ規定ヲ準用ス

第六章 稱呼

第四十八條 上官ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ敬稱ヲ用ユヘシ

- 一 勅任官ニ對シテハ閣下
- 一 奏任官以下ニ對シテハ殿

第四十九條 上官ヨリ下官ニ對シ又ハ同僚間ニ在リテハ氏官名(若ハ職名)ヲ呼フヘシ

●監獄監吏ノ禮式ハ警察禮式ニ準據ス (明治三十九年九月一日 訓令第二十六號) (民政部)

監獄官吏ノ禮式ハ明治三十九年九月訓令第十二號關東都督府警察禮式ニ準據スヘシ

第三類

公文書及統計報告



### 第三類 公文書及統計、報告

● 關東州ニ於ケル諸般ノ成規ニ關スル件 (明治三十九年七月三十一日勅令第二百三十一號)

朕關東州ニ於ケル諸般ノ成規ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
關東州ニ於ケル諸般ノ成規ハ別段ノ規定ヲ設クル迄當分ノ内從前ノ例ニ依ル但シ租稅其ノ他ノ收入及其ノ支出ニ關シテハ會計検査院ヲ經ルコトヲ要ス

附則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 韓國及關東州ニ於テ適用スル法律命令施行期日 (明治四十年二月十三日勅令第十一號)

朕韓國及關東州ニ於テ適用スル法律命令ノ施行時期ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
韓國及關東州ニ於テ適用スル法律命令ハ其ノ各官廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算シ七日ヲ經テ施行ス但シ別段ノ施行時期アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年勅令第六十一號ハ之ヲ廢止ス

● 關東都督府公布式 (明治三十九年九月一日府令第一號)

關東都督ノ發スル命令ノ公布式左ノ通相定ム

第三類 公文書及統計、報告

關東都督府公布式

- 第一條 關東都督ノ發スル命令ハ其ノ關東都督ノ命令ナルコトヲ明記シ關東都督之ニ署名シ公布ノ年月日ヲ記入シテ之ヲ公布スヘシ
- 第二條 關東都督ノ命令ハ滿洲日日新聞附錄府報ヲ以テ之ヲ布告ス (四〇、府ニ號改正)
- 第三條 關東都督ノ命令ハ特ニ施行期日ヲ掲クルモノヲ除クノ外其ノ各官廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算シ滿七日ヲ經テ之ヲ施行ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 民政署公布式 (明治三十九年九月一日) (府令 第三號)

民政署長ノ發スル命令ノ公布式左ノ通相定ム

民政署公布式

- 第一條 民政署長ノ發スル命令ハ其ノ署令ナルコトヲ明記シ民政署長之ニ署名シ公布ノ年月日ヲ記入シテ之ヲ公布スヘシ
- 第二條 署令公布ノ方法ハ民政署長ノ定ムル所ニ依ル
- 第三條 民政署令ハ特ニ施行期日ヲ掲クルモノヲ除クノ外公布ノ日ヨリ起算シ滿七日ヲ經テ之ヲ施行ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 警務署ニ準用スヘキ訓令 (明治三十九年十二月二日) (民政部) (警務署)

左記訓令ハ之ヲ警務署ニ準用ス但シ訓令中警務部長又ハ支署長トアルハ警務署長又ハ警務支署長、警務部出張所、支署出張所トアルハ警務署又ハ警務支署ト心得ヘシ

- 明治三十九年四月訓令第八號關東州民政署警察官吏服務規程
- 同年同月訓令第九號關東州民政署警察配置及勤務規程
- 同年同月訓令第十號關東州民政署警察處務細則
- 同年五月訓令第十八號戶口調査規程
- 同年七月訓令第二十號關東州民政署巡查精勤證書授與規程
- 同年同月訓令第二十二號關東州民政署警察官吏非常召集規程
- 同年八月訓令第二十三號關東州民政署警察操典
- 同年同月訓令第二十四號關東州民政署巡查點檢規程
- 同年同月訓令第二十五號關東州民政署巡查訓授規程

● 警務署ニ準用スヘキ府令及關東州民政署令 (明治四十年四月二十七日) (府令 第二十六日)

左記ノ關東都督府令及關東州民政署令ハ關東州外南滿洲鐵道附屬地ニ之ヲ準用ス但シ同府令及署令中民政署民政支署又ハ本署支署トアルハ警務署又ハ警務支署トス

附則

- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 明治三十九年關東都督府令第八號關東州在留者取締規程
- 同年同府令第二十七號營業取締規程
- 明治三十八年關東州民政署令第二號藝妓酌婦及雇婦女取締規程

- 同年同署令第三號死體檢案ニ關スル件
- 同年同署令第四號料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋、營業取締規則
- 同年同署令第十一號娼妓取締規則
- 同年同署令第十二號貸座敷取締規則
- 明治三十九年同署令第二號娼妓健康診斷施行規則
- 同年同署令第三號獸類取扱規則
- 同年同署令第四號塵芥掃除規則 (四ノ府三號追加)
- 同年同署令第五號賣肉取締規則
- 同年同署令第六號屠獸取締規則
- 同年同署令第十九號生河豚販賣貯藏禁止ノ件
- 明治三十九年關東州民政署令第二十四號理髮營業者取締規則
- 同年同署令第二十五號人力車營業取締規則
- 同年同署令第二十六號畜犬取締規則

●警務署ニ準用スヘキ訓令 (明治四十年四月二十七日) (民政署令第三十四號) (警務署)

- 左記ノ訓令ハ之ヲ警務署ニ準用ス但シ訓令中本署又ハ支署トアルハ警務署又ハ支署ト心得ヘシ
- 明治三十八年關東州民政署訓令第十號娼妓、酌婦及雇婦女取締規則施行心得
- 同年同訓令第十四號料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業取締規則施行心得
- 明治三十九年同訓令第一號娼妓取締規則施行手續
- 同年同訓令第二號貸座敷取締規則施行手續

●警務署ニ適用スヘキ訓令 (明治三十九年十二月五日) (議)

- 左記訓令ハ之ヲ警務署ニ適用スルコト
- 明治三十九年訓令第八號 現金前渡ヲ受クル官吏收入官吏等ノ任免方
- 同第九號 囑託員以下旅費規則
- 同第十一號 警察官服裝規程
- 同第十二號 警察禮式
- 同第二十三號 歳入ヲ徴收スル官吏ニ關スル件
- 同第二十四號 巡查看守及女監取締俸給支給細則
- 同第二十五號 巡查懲戒規程
- 同第二十七號 宿舍料支給規則
- 同第二十九號 巡查休暇規程
- 同第三十號 囑託員雇員ノ給與旅費規則
- 同第三十一號 歳入ヲ徴收スル官吏ニ關スル件
- 同第三十二號 圓銀等計算整理手續
- 同第三十四號 警察職員旅費規則
- 同第四十號 宿直食料支給規則
- 同第四十三號 統計事務規程
- 同第五十五號 備人給與品及貸與品規程

●令達中ノ郵便電信局長ハ通信管理局長、支局長ハ郵便局長、電信局長

ト改メラレタル件 (明治四十一年十一月一日) (通信官署)

従前ノ令達中關東都督府郵便電信局長トアルハ關東都督府通信管理局長、支局長トアルハ郵便局長、電信局長ト改メラレタルモノト心得ヘシ

●官房並民政部處務規程 (第一類三章ニ收ム)

●官房並民政部記録規則 (明治四十二年一月十四日) (官房、民政部)

明治三十九年九月訓令第三十九號關東都督府官房並民政部記録規則左ノ通改正ス

關東都督府官房並民政部記録規則

第一條 官房並民政部ニ於ケル完結文書ハ文書課ニ蒐集シ文書課長之ヲ管理ス

第二條 文書課ニ於テ引繼ヲ受ケタル文書ハ書庫ニ藏置ス

機密文書ハ普通文書ト書篋ヲ異ニシ其ノ保管ヲ嚴ニスヘシ

第三條 會計ニ關スル文書ハ完結後三會計年度間主務課ニ保管スルコトヲ得

第四條 文書ノ分類ハ別表類別表ニ依ル

第五條 文書課ニ於テ文書ノ引繼ヲ受ケタルトキハ左ノ事項ヲ檢別スヘシ

一 文書ノ整否

二 分類及保存期限

第六條 檢別ヲ了リタル文書ハ件名目錄ヲ付シ假綴トナシ既定ノ書篋ニ收藏スヘシ

第七條 交互關聯シタル文書ハ其ノ最モ關係多キ部類ニ原本ヲ收メ他ノ部類ニ原本ノ所在ヲ明記セル件名目

録ノミヲ朱記スヘシ

第八條 文書ノ保存期限ヲ分テ左ノ四種トス

第一種文書 永久保存

第二種文書 十五年保存

第三種文書 七年保存

第四種文書 一年保存

第九條 永久ノ例規トナリ又ハ歴史ノ徵考ニ資スヘキモノハ之ヲ第一種文書トス

命令、上申、通牒、回答、調査報告、復命書、會計書類等ニシテ第一種ニ次キ保存スヘキモノハ其ノ必要

ニ應シ之ヲ第二種文書又ハ第三種文書、一時ノ處辨ヲ了リ將來參照ノ必要ナシト認ムルモノハ之ヲ第四種

文書トス

第十條 文書ノ保存期限ハ其ノ完結シタル翌年一月ヨリ之ヲ起算ス但シ會計ニ關スル文書ニ付テハ翌會計年

度ノ始ヨリ之ヲ起算ス

第十一條 保存期限經過ノ文書ハ主務課長ニ合議シ都督ノ決裁ヲ經テ之ヲ廢棄ス

前項ノ廢棄處分濟文書ハ之ヲ物品會計官吏ニ交付スヘシ

第十二條 文書編纂方法ハ左ノ各項ニ依ル

一 編纂ハ完結文書ニ就キ類別表ニ從ヒ編次成冊スルモノトス

二 編纂順序ハ決裁月日ノ順序ニ依ル

三 一事件中ノ順序ハ起端ヲ前トシ終結ヲ後トス但シ第三種及第四種文書ハ此ノ限ニ在ラス

四 附屬文書又ハ圖表ニシテ本書ニ合綴シ難キモノハ特ニ別冊トシテ之ヲ編纂ス

五 編纂上各門類ハ題目ヲ掲ケタル紙ヲ挿入シテ之ヲ區分ス

第三類 公文書及統計、報告

- 六 編纂簿冊ノ厚サハ曲尺一寸五分ヲ程度トス
- 七 裝釘スヘキ第一種及第二種文書ハ之ヲ本綴トシ第三種及第四種文書ハ之ヲ略綴トス
- 第十三條 裝釘シタル編纂簿冊ハ之ヲ文書類纂ト稱ス
- 第十四條 文書類纂ハ卷首毎ニ目錄ヲ付シ毎件ニ見出番號ヲ記入スヘシ
- 第十五條 文書類纂ハ別ニ總目錄ヲ調製スヘシ但シ職員ノ進退ニ關スルモノハ「イロハ」別トス
- 第十六條 文書ヲ借覽セムトスル者ハ文書借覽證ニ其ノ要旨ヲ記入シテ文書課ニ要求スヘシ但シ借受セル假綴文書ハ之ヲ分離スルコトヲ許サス
- 第十七條 機密文書ハ文書課長ノ認可ヲ經ルニ非ツレハ之ヲ貸付セズ
- 第十八條 文書貸付期限ハ七日以内トス

附則  
本令ハ明治四十二年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス  
(記録類別表)

第一門 (書)		第二門 (書文)	
一 勅諭	二 儀典	一 例規	二 統計
三 例規	四 定員	三 雜	四 印刷
五 進退	六 賞	五 官報及新報	五 附人進退
七 給與	八 諸給與	六 雜	六 雜
九 預備	一〇 營業		
一一 警務區域	一二 警務區域		
一三 巡査巡捕	一四 巡査巡捕		
一五 警備	一六 警備		
一七 警備	一八 警備		
一九 警備	二〇 警備		
二一 警備	二二 警備		
二三 警備	二四 警備		
二五 警備	二六 警備		
二七 警備	二八 警備		
二九 警備	三〇 警備		
三一 警備	三二 警備		
三三 警備	三四 警備		
三五 警備	三六 警備		
三七 警備	三八 警備		
三九 警備	四〇 警備		
四一 警備	四二 警備		
四三 警備	四四 警備		
四五 警備	四六 警備		
四七 警備	四八 警備		
四九 警備	五〇 警備		
五一 警備	五二 警備		
五三 警備	五四 警備		
五五 警備	五六 警備		
五七 警備	五八 警備		
五九 警備	六〇 警備		
六一 警備	六二 警備		
六三 警備	六四 警備		
六五 警備	六六 警備		
六七 警備	六八 警備		
六九 警備	七〇 警備		
七一 警備	七二 警備		
七三 警備	七四 警備		
七五 警備	七六 警備		
七七 警備	七八 警備		
七九 警備	八〇 警備		
八一 警備	八二 警備		
八三 警備	八四 警備		
八五 警備	八六 警備		
八七 警備	八八 警備		
八九 警備	九〇 警備		
九一 警備	九二 警備		
九三 警備	九四 警備		
九五 警備	九六 警備		
九七 警備	九八 警備		
九九 警備	一〇〇 警備		

第一門 (務)		第二門 (務)		第三門 (務)		第四門 (務)		第五門 (務)	
一 例規	二 月籍	三 宗社	四 夜寺	五 六商工業	六 七農	八 八續業	九 九植林	一〇 一〇水産	一一 一一司法
一二 一二通	一三 一三信	一四 一四七鐵道	一五 一五八賑恤	一六 一六三賑恤	一七 一七三賑恤	一八 一八三賑恤	一九 一九三賑恤	二〇 二〇三賑恤	二一 二一三賑恤
二二 二二三賑恤	二三 二三三賑恤	二四 二四三賑恤	二五 二五三賑恤	二六 二六三賑恤	二七 二七三賑恤	二八 二八三賑恤	二九 二九三賑恤	三〇 三〇三賑恤	三一 三一三賑恤
三二 三二三賑恤	三三 三三三賑恤	三四 三四三賑恤	三五 三五三賑恤	三六 三六三賑恤	三七 三七三賑恤	三八 三八三賑恤	三九 三九三賑恤	四〇 四〇三賑恤	四一 四一三賑恤
四二 四二三賑恤	四三 四三三賑恤	四四 四四三賑恤	四五 四五三賑恤	四六 四六三賑恤	四七 四七三賑恤	四八 四八三賑恤	四九 四九三賑恤	五〇 五〇三賑恤	五一 五一三賑恤
五二 五二三賑恤	五三 五三三賑恤	五四 五四三賑恤	五五 五五三賑恤	五六 五六三賑恤	五七 五七三賑恤	五八 五八三賑恤	五九 五九三賑恤	六〇 六〇三賑恤	六一 六一三賑恤
六二 六二三賑恤	六三 六三三賑恤	六四 六四三賑恤	六五 六五三賑恤	六六 六六三賑恤	六七 六七三賑恤	六八 六八三賑恤	六九 六九三賑恤	七〇 七〇三賑恤	七一 七一三賑恤
七二 七二三賑恤	七三 七三三賑恤	七四 七四三賑恤	七五 七五三賑恤	七六 七六三賑恤	七七 七七三賑恤	七八 七八三賑恤	七九 七九三賑恤	八〇 八〇三賑恤	八一 八一三賑恤
八二 八二三賑恤	八三 八三三賑恤	八四 八四三賑恤	八五 八五三賑恤	八六 八六三賑恤	八七 八七三賑恤	八八 八八三賑恤	八九 八九三賑恤	九〇 九〇三賑恤	九一 九一三賑恤
九二 九二三賑恤	九三 九三三賑恤	九四 九四三賑恤	九五 九五三賑恤	九六 九六三賑恤	九七 九七三賑恤	九八 九八三賑恤	九九 九九三賑恤	一〇〇 一〇〇三賑恤	

官房並民政部宿直規程 (第三類六章二收ム)

關東都督府官房並民政部圖書規則 (明治四十二年一月十四日)

關東都督府官房並民政部圖書規則

- 第一條 官房並民政部ノ圖書ハ文書課長之ヲ管理ス
- 第二條 新ニ受領シタル圖書ハ都督府圖書印ヲ押捺シ其ノ書名、受領年月日、部數、冊數、著譯者名、出版年月及價格ヲ原簿ニ記載スヘシ
- 第三條 前條ノ手續ヲ了シタル圖書ニハ其ノ要旨ヲ記入シタル圖書箋ヲ貼付シ同時ニ類別目錄簿ニ記載スヘシ

第三類 公文書及統計、報告

- 第四條 逐次刊行物ハ到達ノ都度主務課ニ回付スヘシ但シ閱了ノ上ハ直ニ文書課ニ返付スヘシ
  - 第五條 主務課ヨリ返付ノ逐次刊行物ハ適當ノ厚サニ達シタルトキハ之ヲ合綴シテ第二條及第三條ノ規定ニ依リ整理スヘシ
  - 第六條 各課ニ於テ圖書等ノ購入ヲ要スルトキハ其ノ書名、著譯者名、部數、冊數、發行所名及所要ノ理由ヲ詳記シ文書課長ニ要求スヘシ
  - 第七條 圖書購入ノ要求アリタルトキハ重複ノ有無及要否ヲ調査シ其ノ購入ヲ要スルモノハ之ヲ財務課ニ移牒スヘシ
  - 第八條 圖書ハ執務上ノ必要ニ依リ借覽スルコトヲ得
  - 第九條 圖書貸付期限ハ三十日以内トス但シ日常執務ニ必要ナル圖書ハ此ノ限ニアラス
  - 第十條 圖書ヲ借受ケムトスルモノハ圖書借覽證ニ其ノ書名ヲ記入シ課員ハ當該課長ノ承認ヲ經テ之ヲ文書課ニ要求スヘシ
  - 第十一條 保存ノ必要ナシト認ムル圖書等ハ財務課長ニ合議シ都督ノ決裁ヲ經テ之ヲ廢棄ス
  - 前項ノ廢棄處分濟圖書ハ之ヲ物品會計官吏ニ交付スヘシ
  - 第十二條 毎年一回以上總テノ貸付圖書ヲ回收シ原簿ニ對照スヘシ
  - 第十三條 臨時調査ノ爲貸付圖書ノ返納通知ヲ受ケタルトキハ三日以内ニ返納スヘシ
  - 第十四條 借受セル圖書ヲ亡失シタルトキハ同一ノ圖書又ハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ辨償セシム
- 附則
- 本令ハ明治四十二年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●警察彙報規程 (明治三十九年四月六日) (警務部)

(訓令 第六號)

(支署)

關東州民政署警察彙報規程左ノ通相定ム

關東州民政署警察彙報規程

- 第一條 警察彙報ハ警察ニ關スル法令、例規其ノ他必要ノ事項ヲ輯録シ毎月一回以上警務部ニ於テ發刊スルモノトス
- 第二條 警察彙報ハ警察官署及警察官吏駐在所ニ配付ス
- 第三條 警察官吏及警察事務ニ従事スル職員ハ警察彙報ヲ購讀スルノ義務アルモノトス
- 第四條 警務部及支署ニ警察彙報資料擔任者ヲ置クヘシ
- 第五條 支署ニ於ケル警察彙報資料擔任者ハ毎月蒐集シタル警察彙報資料ヲ翌月三日迄ニ警務部ヘ送付スヘシ
- 第六條 警察彙報ニ登載スル事項ハ左ノ如シ但シ左ノ各號ニ該當スルモノト雖不必要ト認ムルトキハ登載セサルコトアルヘシ
  - 一 法律
  - 二 勅令
  - 三 軍令
  - 四 府令
  - 五 署令
  - 六 訓令
  - 七 告示

- 八 内訓
  - 九 指令
  - 十 通達
  - 十一 警察職員ノ任免賞罰辭令
  - 十二 恩給給助
  - 十三 警察會議
  - 十四 新聞、雜誌、出版物
  - 十五 政談、集會
  - 十六 馬賊ノ情況
  - 十七 捜査及其ノ解除
  - 十八 遺失物埋藏物及漂流物
  - 十九 衛生及檢疫
  - 二十 水火震災
  - 二十一 統計諸表
  - 二十二 前各號ノ外必要ノ事項
- 第七條 警察彙報資料ハ簡明ヲ旨トシ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スヘシ

●願届書進達ニ關スル件 (明治四十年七月十七日 府令第四十號)

關東都督府ニ提出スヘキ願届書等ハ特別ノ規程アル場合ヲ除クノ外所轄民政署又ハ警務署ヲ經由スヘシ

●旅順ニ於ケル漁業許可願書提出方 (第八類三 章ニ收ム)

●大連ニ於ケル漁業許可願書提出方 (同上)

●代書業取締規則 (第六類三 章ニ收ム)

●代書業取締規則取扱手續 (同上)

●統計事務規程 (明治三十九年十月四日 府令第四十三號) (官房、民政部、民政署、法院、郵便電信局)

關東都督府統計事務規程左ノ通相定ム

關東都督府統計事務規程

- 第一條 官房文書課ニ統計主任及統計主査ヲ置キ上官ノ指揮ヲ承ケ統計材料ノ蒐集及統計書ノ編纂其ノ他統計ニ關スル諸般ノ事務整理ノ責ニ任セシム但シ統計主任ハ高等官ヲ以テ之ニ充テ統計主査ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ
- 第二條 官房祕書課、民政部各課、監獄署、民政署、法院、郵便電信局ニ統計主務各一人以上ヲ置キ其ノ主管ニ係ル統計材料調査ノ責ニ任セシム但シ統計主務ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 統計主任ハ關東都督之ヲ命免シ統計主査ハ統計主任之ヲ命免スヘシ
- 第四條 統計主務ハ所屬長官之ヲ命免シ其ノ都度之カ官氏名ヲ統計主任ニ報告スヘシ
- 第五條 統計主務ハ關東都督府報告例中統計ニ係ル報告其ノ他ノ統計材料ヲ調製スヘシ
- 第六條 統計主務ハ統計材料調製ノ爲蒐集セシ原材料ハ其ノ種類ニ依リ區別シ保存スヘシ
- 第七條 官房祕書課、民政部各課、監獄署ニ於テ統計ニ關スル調査事項並其ノ様式ヲ定メントスルトキ又ハ

統計ニ關スル調査ヲ公ニセントスルトキハ統計主任ニ合議スヘシ但シ臨時ノ調査ニ於ケルモ亦同シ

第八條 統計主任ニ於テ前條ノ合議ヲ受ケタルトキハ其ノ調査事項及様式若ハ製表上ノ適否並違算等ノ有無ハ統計主査ヲシテ之ヲ審査セシムヘシ

第九條 官房祕書課、民政部各課、監獄署ニ於ケル統計ニ關スル書類ハ統計主任ニ回覽スヘシ

第十條 統計主任ハ其ノ主管事務ニ付テハ直接其ノ關係官衙長ト文書ノ照復ヲ爲スヲ得ルモノトス但シ新ニ規定スルモノ又ハ定例ニ非サルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 統計主任及統計主査ハ統計事務統一ノ爲臨時ニ統計事務ヲ視察シ統計材料蒐集ノ方法及統計ニ關スル書類ノ整否等ヲ監督査閱スヘシ

第十二條 統計主任ハ關東都督ノ認可ヲ經テ統計主務ヲ關東都督府ニ招集シ臨時ニ統計會議ヲ開設スルヲ得ルモノトス

第十三條 民政署、法院、郵便電信局各長官ニ在リテハ其ノ應ニ於テ統計事務ニ關スル規定又ハ統計材料蒐集上ニ係ル手續並其ノ様式等ヲ定メタルトキ若ハ變更シタルトキハ其ノ一本ヲ統計主任ニ回付スヘシ

●統計材料蒐集上注意方

(明治三十九年十月三十日 告諭 第三三號)

本州ニ於ケル諸般ノ統計ハ未タ何等見ルヘキモノ無キヲ以テ之ヲ遂行スルハ目下ノ急務ナリトス抑統計ハ各般行政ノ基礎ト爲リ又社會公衆ノ規準ト爲リ以テ國務ノ消長ヲ審ニスヘキモノニシテ例之國土ノ廣狹地味ノ肥瘠人口ノ多少及其ノ構成ノ狀態其ノ他殖産興業ノ趨勢交通貿易ノ狀況ヨリ教育衛生宗教救恤等凡ソ社會萬般ノ現象ニ至ル迄都テ之ヲ網羅シ其ノ實況ヲ調査スルモノニシテ以テ文化ノ度ヲ察スヘク以テ實利ノ増殖ヲ圖ルヘキナリ然レトモ統計正確ナルト否トハ一ニ其ノ材料ノ精粗眞偽如何ニ依ル若シ粗末虛偽ノ材料ヲ基礎トセンカ則チ統計ハ却テ事ヲ誤ルニ至ル是誠ニ戒ムヘキコトトス公衆克ク此ノ意ヲ體シ府吏ノ親シク統計材

料ヲ徵スルニ當リテハ須ラケ誠實ノ報告ヲ爲シ苟モ隱匿欺罔ノ所爲アルヘカラス若シ之カ旨趣ニ戾ル者アラハ則チ嚴ニ之ヲ處罰シ敢テ假借セサルヘシ

●戶口調査規程

(第六類三 章ニ收ム)

●報告例

(明治三十九年九月二日 訓令 第三十三號)

(官房、民政部、民政署、警務署、法院、醫院、海務局、觀測所、監獄署、通信官署)

關東都督府報告例別冊ノ通相定ム但シ別冊ハ明治三十九年六月關東州民政署訓令第十九號關東州民政署報告例別冊中改正ノ外之ヲ適用ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (三九、訓六〇、六四七二號四〇、訓三三、六八號四一、訓二六、一一九號四二、訓七號改正) (別冊略ス)

●犯罪特報規則

(第六類第三 章ニ收ム)



第四類學事

## 第四類 學 事

### ●關東州小學校官制 (第一類一)

(章二收六)

### ●小學校名稱位置

(明治四十年三月三十一日  
告示 第十九號)

關東州小學校ノ名稱位置左ノ通相定メ明治四十年四月一日ヨリ授業ヲ開始ス (四二告三三、二四號改正)

大連第一尋常高等小學校	大連東公園通
大連第二尋常高等小學校	大連北大山通
大連第一尋常高等小學校柳樹屯分教場	柳樹屯
旅順第一尋常高等小學校	旅順白金町舊市街
旅順第二尋常高等小學校	旅順對馬町新市街
金州尋常高等小學校	金州
金州尋常高等小學校魏子窩分教場	魏子窩
金州尋常高等小學校魏子窩分教場	魏子窩
金州尋常高等小學校普蘭店分教場	普蘭店

### ●關東州學校職員任用ニ關スル件 (第二類二)

(章二收六)

### ●小學校准訓導及公學堂助教採用規則 (第二類六)

(章二收六)

### ●小學校並公學堂職員服務心得 (同上)

● 小學校規則

(明治四十一年二月二十七日 府令 第五號)

關東州小學校規則左ノ通相定ム

關東州小學校規則

第一章 總則

第一條 小學校ハ内地人ノ兒童ヲ教育スル所トス

小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其ノ生活ニ必須ナル普通ノ智識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條 小學校ハ之ヲ分チテ尋常小學校及高等小學校トス

尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併置スルモノヲ尋常高等小學校トス

第三條 尋常高等小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ尋常小學校ノ規定ヲ準用シ高等小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ高等小學校ノ規定ヲ準用ス

第二章 設置

第四條 小學校ハ關東都督ニ於テ必要ト認ムル地ニ之ヲ設置ス特別ノ事情アルトキハ小學校ノ分教場ヲ設クルコトアルヘシ

第三章 修業年限、教科目、教則、教科用圖書及編制

第五條 小學校ノ修業年限、教科目、教則、教科用圖書及編制ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外小學校令及文部省令ノ定ムル所ニ依ル但シ同令中市町村及管理ノ職權ハ民政署長之ヲ行ヒ府縣知事ノ職權ハ都督之ヲ行フ

第六條 高等小學校修業年限ノ延長及小學校教科目ノ加除ハ關東都督之ヲ定ム

第七條 小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得

補習科ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 學校長ハ夏期休業及冬期休業ノ前後各三十日以内ニ於テ毎週ノ教授時數ヲ減スルコトヲ得

前項ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ學校長ニ於テ便宜各教科目ノ每週教授時數ヲ斟酌スヘシ

第九條 卒業證書、修業證書及學習證書ハ別記書式ニ依ル

第十條 尋常高等小學校ニ於テハ尋常科ノ兒童ト高等科ノ兒童トヲ合シテ學級ヲ編制スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ一學級ノ兒童數ハ高等小學校ノ一學級ノ兒童數ニ依ル

第十一條 學校長ノ擔任スル教授ヲ補助スル爲五學級以上ノ小學校ニ於テハ本科正教員一人四學級以下ノ小學校ニ於テハ准教員一人ヲ置クコトヲ得

第十二條 小學校ノ學級ヲ編制シ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ民政署長ニ於テ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第四章 學年、休業日及式日

第十三條 小學校ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

學年ハ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 學年ノ始ヨリ夏期休業ノ前日迄

第二學期 夏期休業後ノ始業日ヨリ冬期休業ノ前日迄

第三學期 冬期休業後ノ始業日ヨリ學年末休業日ノ前日迄

第十四條 毎日ノ教授終始ノ時刻ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第十五條 小學校ノ休業日ハ左ノ如シ

一 祝日大祭日

二 日曜日

- 三 陸海軍紀念日
  - 四 始政紀念日
  - 五 開校紀念日
  - 六 夏期休業 八月一日ヨリ同月三十一日迄
  - 七 冬期休業 十二月二十六日ヨリ翌年一月七日迄
  - 八 學年末休業 三月二十六日ヨリ同月三十一日迄
- 特別ノ事情ニ依リ前項ノ外臨時休業ヲ要スルトキ及前項第六號第七號ノ期日ヲ變更セムトスルトキハ學校長ニ於テ其ノ事由ヲ具シ民政署長ノ認可ヲ受クヘシ
- 天災事變其ノ他ノ場合ニ際シ前項ノ認可ヲ受タル暇ナキトキハ學校長ニ於テ臨時休業ヲ行フコトヲ得
- 第十六條 紀元節、天長節、一月一日及始政紀念日ニ於テハ職員及兒童ハ小學校ニ參集シテ左ノ順序ニ從ヒ儀式ヲ行フヘシ
- 一 職員及兒童「君ガ代」ヲ合唱ス
  - 二 職員及兒童ハ  
天皇陛下  
皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ
  - 三 學校長ハ教育ニ關スル勸語ヲ奉讀ス
  - 四 學校長ハ教育ニ關スル勸語ニ基キ聖旨ノ在ル所ヲ誨告ス
  - 五 職員及兒童ハ其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス  
御影ヲ拜戴セサル小學校ニ於テハ前項第二號ノ式ヲ闕ク
- 第五章 學齡、入學、在學及退學

- 第十七條 内地人ノ兒童滿六歳ニ達シタル翌日ヨリ滿十四歳ニ至ル迄八箇年ヲ以テ學齡トス
- 第十八條 學年開始迄ニ學齡ニ達セサル兒童ハ其ノ學年中ハ之ヲ小學校ニ入學セシムルコトヲ得ス
- 第十九條 小學校ニ兒童ヲ入學セシムトスルトキハ其ノ兒童ヲ保護スル者ニ於テ左ノ各號ニ掲クル事項ヲ具シ學校長ニ申出ヘシ
- 一 兒童並保護者ノ氏名、出生年月日、本籍地、現住所及族稱
  - 二 兒童入學前ノ經歷
  - 三 保護者ノ職業及兒童トノ關係
- 在學ノ兒童ニ關シ前項第一號及第三號ニ掲クル事項ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ兒童死亡シタルトキハ保護者ニ於テ遲滞ナク之ヲ學校長ニ届出ヘシ
- 第二十條 學校長ハ入學シタル兒童ニ就キ別記第四號書式ニ依リ學籍簿ヲ編製スヘシ
- 前項學籍簿ニ記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ加除訂正スヘシ
- 第二十一條 學校長ハ別記第五號書式ニ依リ在學兒童ノ出席簿ヲ作り其ノ出席ヲ明ニスヘシ
- 第二十二條 在學ノ兒童ヲ退學セシムトスルトキハ其ノ兒童ヲ保護スル者ニ於テ其ノ事由ヲ具シ學校長ニ申出ヘシ
- 第二十三條 學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨ケアリト認メタル兒童ノ出席ヲ停止スルコトヲ得
- 第二十四條 學校長ハ在學兒童ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ退學ヲ命スルコトヲ得
- 一 引續キ六箇月以上出席シタル者
  - 二 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上出席シタル者
- 附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十九年三月關東州民政署令第十三號關東州小學校規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス  
(別記)

第一號書式

番 號

卒業證書

道府縣族稱

校 印

氏 名

生年月日

尋常(高等)小學校ノ教科ヲ卒業セシコトヲ證ス

年 月 日

何尋常(高等又ハ尋常)小學校長氏名印

第二號書式

番 號

修業證書

道府縣族稱

校 印

氏 名

生年月日

尋常(高等)小學校第何學年ノ課程ヲ修業セシコトヲ證ス

年 月 日

何尋常(高等又ハ尋常)小學校

第三號書式

番 號

學習證書

道府縣族稱

校 印

氏 名

生年月日

尋常(高等)小學校第何學年ノ課程ヲ何箇年間學習セシコトヲ證ス

年 月 日

何尋常(高等又ハ尋常)小學校

第四號書式

住 所	本籍地族稱	氏 名	生年月日
入學年月日	入學前ノ經歷	尋常小學校 卒業年月日	退學年月日
		高等小學校 卒業年月日	退學ノ理由
保 護 者			
氏 名	住 所	本籍地族稱	職 業
			兒童トノ關係

學年	常小學校						身修	國算	地理	理科	唱歌	操體	縫裁	手工	英語	行操	修了ノ年月日	出席日數	出席日數	身量	體圍	胸柱	骨格	眼疾	耳疾	齒疾	病疾	
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年																						
學年																												

備考 身體ノ狀況ノ欄ハ醫師ヲシテ検査ヲ行ハシメタルトキ之ヲ記入スヘシ又修業年限三ケ年ノ高等小學校ニ在リテハ第二學年ノ次ニ第三學年ノ欄ヲ設クヘシ

第五號書式

明治 年 月 分

何學校第何學年兒童出席簿

擔任官職 氏 名

號番	氏 名	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
日	氏 名																														
出席	出席																														
缺席	缺席																														
計	計																														

日 數	授 業		出 席 數	缺 席 數	出 席 數	缺 席 數	出 席 數	缺 席 數	出 席 數	缺 席 數	出 席 數	缺 席 數	出 席 數	缺 席 數	出 席 數	缺 席 數	出 席 數	缺 席 數	出 席 數	缺 席 數	出 席 數	缺 席 數	出 席 數	缺 席 數	出 席 數	缺 席 數	出 席 數	缺 席 數	出 席 數	缺 席 數	出 席 數	缺 席 數	出 席 數	缺 席 數			
	兒童數	兒童數																																			
兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數	兒童數

● 小學校補習科規程 (明治四十一年三月二十六日 府令 第十號)

關東州小學校補習科規程左ノ通相定ム

關東州小學校補習科規程

第一條 補習科ハ高等小學校ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲシテ高等小學ノ教科目ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス

第二條 補習科ノ修業年限ハ二箇年トス

第三條 補習科ノ教科目、教科用圖書、每週教授時數及教授ノ程度ハ民政署長之ヲ定メ關東都督ノ認可ヲ受ケルヲ要ス

第四條 補習科ノ學期、教授終始ノ時刻及休業日ハ小學校ニ同シ  
附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 小學校授業料規則 (明治四十一年四月一日 府令第二十號)

關東州小學校授業料規則左ノ通相定ム

關東州小學校授業料規則

第一條 關東州小學校ニ入學シタル兒童ヲ保護スル者ハ其ノ兒童ノ在學中授業料ヲ納ムヘシ

第二條 授業料ハ尋常小學校ニ在リテハ一箇月三十錢高等小學校ニ在リテハ一箇月五十錢トシ毎月二十五日

ニ於テ其ノ月分ヲ徵收ス但シ納期日休日ニ當ルトキハ繰下ケ退學又ハ死亡ノ場合ハ隨時之ヲ徵收ス

第三條 一家内ノ兒童二名以上同一ノ學校へ就學スル場合ニ於テハ上級ノ者一名ヲ全額トシ他ハ總テ半額トス

第四條 夏期又ハ冬期休業若ハ學校ノ都合ニ依リ休業全月ニ涉リタルトキ又ハ兒童ノ病氣其ノ他ノ事由ニ依

リ闕席全月ニ涉リタルトキハ其ノ月分ノ授業料ヲ徵收セス

第五條 關東州内他ノ小學校ニ在學シタル者入學シタル場合ニ於テ既ニ其ノ月分ノ授業料ヲ納メタルトキハ

再之ヲ徵收セス

第六條 貧困ニシテ授業料納付ノ資力ナキ者ニ對シテハ學校長ノ具申ニ依リ民政署長ニ於テ其ノ全部又ハ一

部ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第七條 民政署長又ハ支署長ハ毎年四月左記様式ノ授業料納付證ヲ就學兒童ノ數毎ニ兒童保護者ニ交付スヘ

シ但シ新ニ就學シタル場合ハ其ノ都度之ヲ交付スヘシ

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

表

裏

摘要	第一條	明治何年度
	備考	授業料納付證
本欄ニハ小學校 授業料規則第一 條乃至第五條ヲ 摘載スルモノト ス		何民政署

月九	月八	月七	月六	月五	月四	月三
					何月二十五日	
月	月	月	月	月	月	月
額	額	額	額	額	額	額
日	日	日	日	日	日	日
何所	何所	何所	何所	何所	何所	何所
何者	何者	何者	何者	何者	何者	何者
何學校	何學校	何學校	何學校	何學校	何學校	何學校
何科	何科	何科	何科	何科	何科	何科
何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年
何某	何某	何某	何某	何某	何某	何某

本證ハ袋ニ封製スルモノトス

● 小學校教科目 (明治四十一年三月二十八日 府令第十二號)

明治四十一年二月府令第五號關東州小學校規則第六條ニ依ル小學校ニ加フヘキ教科目左ノ通相定ム  
尋常小學校及高等小學校ノ教科目ニ手工高等小學校ノ教科目ニ英語及商業ヲ加フ  
英語及商業ハ之ヲ隨意科目トナスコトヲ得

● 小學校教科用圖書 (明治四十一年三月五日 告示第二十四號)

明治四十一年二月府令第五號關東州小學校規則ニ依リ明治四十一年四月一日ヨリ小學校ニ於テ使用スヘキ教科用圖書左ノ如シ

尋常小學校

教科目	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		第五學年		第六學年	
	修身	國語	算術	日本歷史	地理	圖畫	修身	國語	算術	日本歷史	地理	圖畫
修身	尋常小學修身掛圖	尋常小學修身掛圖	尋常小學修身掛圖	尋常小學修身掛圖	尋常小學修身掛圖	尋常小學修身掛圖	尋常小學修身掛圖	尋常小學修身掛圖	尋常小學修身掛圖	尋常小學修身掛圖	尋常小學修身掛圖	尋常小學修身掛圖
國語	尋常小學讀本一、二	尋常小學讀本一、二	尋常小學讀本三、四	尋常小學讀本三、四	尋常小學讀本五、六	尋常小學讀本五、六	尋常小學讀本七、八	尋常小學讀本七、八	尋常小學讀本九、十	尋常小學讀本九、十	尋常小學讀本十一、十二	尋常小學讀本十一、十二
算術	尋常小學算術用書	尋常小學算術用書	尋常小學算術用書	尋常小學算術用書	尋常小學算術用書	尋常小學算術用書	尋常小學算術用書	尋常小學算術用書	尋常小學算術用書	尋常小學算術用書	尋常小學算術用書	尋常小學算術用書
日本歷史							高等小學算術用書					
地理							高等小學算術用書					
圖畫	尋常小學毛筆畫手本	尋常小學毛筆畫手本	尋常小學毛筆畫手本	尋常小學毛筆畫手本	尋常小學毛筆畫手本	尋常小學毛筆畫手本	尋常小學毛筆畫手本	尋常小學毛筆畫手本	尋常小學毛筆畫手本	尋常小學毛筆畫手本	尋常小學毛筆畫手本	尋常小學毛筆畫手本

高等小學校

教科目	第一學年		第二學年	
	修身	國語	算術	日本歷史
修身	高等小學修身掛圖	高等小學修身掛圖	高等小學修身掛圖	高等小學修身掛圖
國語	高等小學讀本五、六	高等小學讀本五、六	高等小學讀本七、八	高等小學讀本七、八
算術	高等小學算術用書	高等小學算術用書	高等小學算術用書	高等小學算術用書
日本歷史	小學日本歷史三	小學日本歷史三	小學日本歷史四	小學日本歷史四
地理	小學地理三	小學地理三	小學地理四	小學地理四
圖畫	高等小學毛筆畫手本	高等小學毛筆畫手本	高等小學毛筆畫手本	高等小學毛筆畫手本
英語	井上小學英語讀本一	井上小學英語讀本一	井上小學英語讀本二	井上小學英語讀本二
商業	鹿野清次郎星野太郎共著 高等小學商業書 教師用一	鹿野清次郎星野太郎共著 高等小學商業書 教師用一	鹿野清次郎星野太郎共著 高等小學商業書 兒童用一	鹿野清次郎星野太郎共著 高等小學商業書 兒童用一



●關東州公學堂官制 (第一類一)

●公學堂名稱位置 (明治四十年三月三十一日)

關東州公學堂ノ名稱位置左ノ通り相定メ明治四十年四月一日ヨリ授業ヲ開始ス (四〇、管五五號四二、管二五號改正)

名稱	位置
大連公學堂	大連
旅順公學堂	旅順
三洲堡公學堂	三洲堡
公學堂南金書院	金州
小平島公學堂	小平島
龍子窩公學堂	龍子窩
普蘭店公學堂	普蘭店

●公學堂規則 (明治四十一年三月三十日)

關東州公學堂規則左ノ通相定ム

關東州公學堂規則

第一章 總則

第一條 公學堂ハ支那人ノ子弟ヲ教育スル所トス  
 公學堂ニ於テハ兒童身體ノ發達ニ留意シ日本語ヲ教ヘ德育ヲ施シ並其ノ生活ニ必須ナル普通ノ智識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條 公學堂ハ關東都督ニ於テ必要ト認ムル地ニ之ヲ設置ス

第二章 修業年限、教科目、教科用圖書及編制

第三條 公學堂ノ修業年限ハ六箇年トス但シ土地ノ狀況ニ依リ四箇年ニ短縮スルコトヲ得

第四條 公學堂ノ教科目ハ修身、日本語、漢文、算術、圖畫、唱歌、體操トシ女生徒ニハ裁縫ヲ加フ

土地ノ狀況ニ依リ農業商業手工ノ一科目又ハ數科目ヲ加フルコトヲ得其ノ數科目ヲ加ヘタル場合ニハ農業商業ヲ併セ課スルコトヲ得ス

前項ニ依リ加フル教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第五條 第三條第二項ノ修業年限ヲ短縮シ又ハ前條第二項ノ教科目ヲ加除セムトスルトキハ民政署長ニ於テ其ノ理由及每週教授時數表ヲ具シ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 必要ニ應ジ公學堂ニ補習科又ハ速成科ヲ置クコトヲ得

補習科及速成科ニ關スル規程ハ關東都督之ヲ定ム

第七條 公學堂ノ教科用圖書ハ關東都督之ヲ定ム

第八條 公學堂ノ教科目中生徒身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル教科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セサルコトヲ得

第九條 各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ別表ニ依ルヘシ農業商業手工ノ一科目又ハ數科目ヲ加フルトキハ修身科ヲ除キ他ノ數科目ノ每週教授時數ヨリ各二時以內ヲ削キ之ニ充ツヘシ

第十條 學堂長ニ於テ各學年ノ課程修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルトキハ別ニ試験ヲ用ウルコトナク兒童平素ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

第十一條 學堂長ハ學年末ニ於テ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ第一號書式ノ修業證書ヲ修業年限ノ終ニ於テ全教科ヲ修了セリト認メタル者ニハ第二號書式ノ卒業證書ヲ授與スヘシ

第十二條 公學堂ニ於テ一學級ノ生徒數ハ六十人以下トス

第十三條 公學堂長ノ擔任スル教授ヲ補助スル爲四學級以上ノ公學堂ニ於テハ教諭又ハ助教一人ヲ置クコトヲ得

第十四條 公學堂ニ於テハ男女學級ヲ分ツヘシ

第十五條 公學堂ノ學級ヲ編制シ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ民政署長ニ於テ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第三章 學年及休業日

第十六條 公學堂ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十七條 公學堂ノ學期ハ之ヲ分テテ左ノ二學期トス

第一學期 學年ノ始ヨリ夏期休業ノ前日ニ至ル

第二學期 夏期休業後ノ始業日ヨリ學年末休業日ニ至ル

第十八條 毎日ノ教授終始ノ時刻ハ學堂長之ヲ定ムヘシ

第十九條 公學堂ノ休業日ハ左ノ如シ

一 祝日、大祭日

二 日曜日

三 陸海軍紀念日

四 始政紀念日

五 開校紀念日

六 夏期休業日 八月一日ヨリ同月三十一日ニ至ル

七 冬期休業日 十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

八 學年末休業日 三月二十六日ヨリ同月三十一日ニ至ル

特別ノ事情ニ依リ前項ノ外臨時休業ヲ要スルトキ及前項第六號第七號ノ期日ヲ變更セムトスルトキハ學堂長ニ於テ其ノ事由ヲ具シ民政署長ノ認可ヲ受クヘシ

天災事變其ノ他ノ場合ニ際シ前項ノ認可ヲ受クル暇ナキトキハ學堂長ニ於テ臨時休業ヲ行フコトヲ得

第二十條 學堂長ハ夏期休業及冬期休業ノ前後各二十日以内ニ於テ毎日ノ教授時數ヲ減スルコトヲ得

前項ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ學堂長ニ於テ各教科目ノ每週教授時數ヲ斟酌スヘシ

第四章 年齢、入學、在學及退學

第二十一條 公學堂ニ入學スヘキ生徒ノ年齢ハ八歳以上十五歳以下トシ學年ノ始ニ於テ入學セシムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 學力優等ニシテ年齢ノ長シタル生徒ハ學堂長ニ於テ各教科目ニ就キ試験ノ上相當學年ニ編入スルコトヲ得

第二十三條 公學堂ニ兒童ヲ入學セシムトスルトキハ其ノ兒童ヲ保護スル者ニ於テハ左ノ各號ニ掲ケタル事項ヲ具シ學堂長ニ願出ヘシ

- 一 兒童就保護者ノ氏名、出生年月日、本籍地現住所
- 二 兒童入學前ノ經歷
- 三 保護者ノ職業及兒童トノ關係

在學ノ兒童ニ關シ前項第一號及第三號ニ掲クル事項ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ兒童死亡シタルトキハ保護者ニ於テ遲滞ナク之ヲ學堂長ニ届出ツヘシ

第二十四條 學堂長ハ入學シタル兒童ニ就キ第三號書式ニ依リ學籍簿ヲ編制スヘシ

前項學籍簿ニ異動ヲ生シタル場合ハ其ノ都度遲滞ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第二十五條 在學ノ兒童ヲ退學セシムトスルトキハ其ノ兒童ヲ保護スル者ニ於テ其ノ事由ヲ具シ學堂長ニ

願出ヘシ

- 第二十六條 學堂長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル生徒ノ出席ヲ停止スルコトヲ得
- 第二十七條 學堂長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル生徒アルトキハ之ニ退學ヲ命スルコトヲ得
  - 一 性行不良ニシテ他ノ生徒ノ教育ニ妨害アリト認メタル者
  - 二 正當ノ理由ナクシテ引續キ二箇月以上出席シ再ヒ出席スヘキ見込ナキ者
- 第二十八條 學堂長ハ第四號書式ニ依リ生徒出席簿ヲ調製シ其ノ出席席ヲ明ニスヘシ

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年三月關東州民政署令第十四號關東州公學堂規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(別表)

教授ノ程度及毎週教授時數表

科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年
漢文	七	七	七	七	七	七
日本語	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
修身	二	二	二	二	二	二
教目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年
時數	每週	每週	每週	每週	每週	每週
教授	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年
程度	發音ハ近易ナル事項ノ片假名及近易ナル字及近易ナル語ヲ用テ讀ムル方	同上、平假名及近易ナル字及近易ナル語ヲ用テ讀ムル方	同上、漢字交リ讀ムル方	同上	同上	同上

科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年
算術	五	五	五	五	五	五
圖畫	一	一	一	一	一	一
唱歌	一	一	一	一	一	一
體操	三	三	三	三	三	三
裁縫	二	二	二	二	二	二
手工	二	二	二	二	二	二
農業	二	二	二	二	二	二
商	二	二	二	二	二	二
計	二八	二八	三〇	三〇	三〇	三〇
程度	二十以下ノ數ヲ加ヘテ算スル方及ニ於テケル數ヲ減スル方	百以下ノ數ヲ加ヘテ算スル方及ニ於テケル數ヲ減スル方	通常加減乘除	同上及小數ノ加減乘除	整數、小數諸減算(珠算加)	分數、步合算(珠算加減乘)
圖畫	簡易ナル形體ヲ用テ寫スル方	同上	同上	同上	同上	同上
唱歌	平易ナル單音唱曲	同上	同上	同上	同上	同上
體操	遊戲	遊戲及普通體操	同上	同上	同上	同上
裁縫	運針法及縫方ノ類	同上	同上	同上	同上	同上
手工	細工ナル類	同上	同上	同上	同上	同上
農業				農業、沈論、土、填、作物、耕、作、農具、病害、蟲		
商				商業、算術、商業、要項		
計				商業、算術、商業、要項		

手工ハ第一學年第二學年第三學年ニ於テハ每週一時、第四學年第五學年第六學年ニ於テハ每週二時之ヲ課スルコトヲ得

圖畫、裁縫ハ第一學年第二學年ニ於テ每週一時之ヲ課スルコトヲ得

第一號書式

第 號

修業證書

第四類 學事

第二號書式

第 號

卒業證書

校印

原籍  
氏

名  
年月日生

公學堂第何學年ノ課程ヲ修業セシコトヲ證ス

明治 年 月 日

何々公學堂

校印

原籍  
氏

名  
年月日生

公學堂ノ教科ヲ卒業セシコトヲ證ス

明治 年 月 日

何何公學堂長何某團

第三號書式

氏名						
住所	族籍	入學年月日	入學前ノ經歷	卒業年月日	退學年月日	退學ノ理由
保		者				
氏名	住所	族籍	職業	關係ノ兒童		

學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年	備考
	身修	語本	文漢	術算	書圖	歌唱	
學業成績							備考
	行操	月修了	數日出席	病氣事故	長身	重胸	
身體狀況							備考
	柱骨	格體	疾眼	疾耳	疾齒	疾疾	

備考 身體ノ狀況ノ欄ハ當分ノ間之ヲ闕クコトヲ得

第四號書式



第一條 關東都督府中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲ス所トス

第二條 修業年限ハ五箇年トス但シ學校長ニ於テ卒業者ノ爲ニ關東都督ノ認可ヲ經テ二箇年以内ノ補習科ヲ置クコトヲ得

第三條 生徒ハ之ヲ寄宿舎ニ收容ス但シ特別ノ事情アリテ外宿セムトスル者ハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 生徒服制ハ學校長之ヲ定ム  
第五條 學科目ハ修身、國語及漢文、英語、歴史及地理、數學、博物、物理及化學、圖書體操トス  
清語、法制及經濟ハ隨意科目トシテ之ヲ加フ  
補習科ノ各學科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第六條 教科書及各學年ニ於ケル各學科課程、每週教授時數ハ關東都督ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

第七條 學校長ハ各學年ニ於テ教授スヘキ各學科ノ教授要目ヲ定ムヘシ

第八條 學校長ハ生徒ノ修學旅行ヲナスコトヲ得但シ關東州以外ノ地ニ旅行セムトスルトキハ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十條 休業日ハ左ノ如シ

一 紀元節、天長節、大祭日

二 日曜日

三 陸海軍紀念日

四 始政紀念日

前項ノ外休業ヲ要スルトキハ學校長ニ於テ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 紀元節、天長節、一月一日及始政紀念日ニハ職員及生徒ハ學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第十二條 第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ年齢十二年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ但シ尋常小學校ノ課程ヲ卒ラサル者ニ就キテハ試験ニ依リテ其ノ學力ヲ檢定ス

第一學年入學志願者中尋常小學校ノ課程ヲ卒リタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先テ入學ヲ許ス但シ其ノ數入學ヲ許スヘキ人員ニ超過スルトキハ試験ニ依リテ入學者ヲ選抜スヘシ

前二項ノ試験ハ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リテ之ヲ行フ

第十三條 中學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタルトキヨリ一箇年以内ニ於テ入學ヲ志願シタルトキハ試験ニ依ラスシテ原學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十四條 他ノ中學校ヨリ轉學ヲ志願スル生徒アルトキハ學校長ハ關員アル場合ニ限リ之ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ規程ニ依リ轉學ヲ許可スル生徒ハ試験ヲ行ハスシテ同一學年ニ編入スルコトヲ得

第十五條 學校長ハ入學ヲ許可スヘキ者ノ身體及品行ヲ調査スヘシ

第十六條 他ノ中學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル場合ニ限リ承認ヲ與ヘ其ノ生徒ノ在學證書及成績表ヲ移轉先學校ニ送附スヘシ

第十七條 生徒退學セムトスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

第十九條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第二十條 學校長ハ修業年限ノ終リニ於テ中學校ノ學科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第二十一條 學校長ハ生徒又ハ學級其ノ他生徒團ノ成績ヲ表彰スルコトヲ得

第二十二條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ  
一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者  
二 成業ノ見込ナシト認メタル者  
三 出席常ナラサル者

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ關東都督ニ報告スヘシ

第二十三條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第二十四條 授業料ハ一人一箇月壹圓トス但シ一家内ノ生徒二人以上在學スルトキハ上級ノ者一人ヲ全額トシ他ハ總テ半額トス

寄宿舎費ハ學校長之ヲ定ム

第二十五條 授業料ハ毎月十六日ニ於テ其ノ月分ヲ徵收ス但シ納期日休業日ニ當ルトキハ繰下ケ退學又ハ死亡ノ場合ハ隨時之ヲ徵收ス

休業又ハ關席全月ニ涉リタルトキハ其ノ月分ノ授業料ヲ徵收セス

第二十六條 本令施行ニ關シ必要ナル規程ハ關東都督ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

附則  
本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●旅順工科學堂官制 (第一類一) (章二收ム)

●旅順工科學堂高等官官等俸給令 (第二類一) (章二收ム)

●旅順工科學堂學長特別任用令 (第二類二) (章二收ム)

●旅順工科學堂規則 (明治四十二年九月六日) (府令第十二號)

旅順工科學堂規則左ノ通定ム

旅順工科學堂規則

第一章 總則

第一條 旅順工科學堂ハ工業ニ須要ナル高等ノ學術技藝ヲ教授スルヲ以テ目的トス

第二條 旅順工科學堂ニ左ノ學科ヲ置キ生徒ヲシテ各其ノ一學科ヲ專修セシム

機械工學科

電氣工學科

探鑛冶金學科

第三條 各學科ノ修業年限ヲ四箇年トス

第四條 卒業者ニシテ既修ノ學科ニ就キ更ニ研究セムトスル者アルトキハ二箇年以内在學セシムルコトヲ得

第五條 各學科中ノ一學科若ハ數學科目ヲ選擇シテ學修セムトスル者ハ四箇年以内在學ヲ許スコトヲ得

第二章 學科課程

第六條 各學科ノ學科目並其ノ程度ハ左ノ如シ

學科目	機 械 工 學 科											
	第一學年			第二學年			第三學年			第四學年		
	學期一	學期二	學期三	學期一	學期二	學期三	學期一	學期二	學期三	學期一	學期二	學期三

學科目	第一學年			第二學年			第三學年			第四學年		
	學期一	學期二	學期三	學期一	學期二	學期三	學期一	學期二	學期三	學期一	學期二	學期三
修身	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
數學	五	五	五	三	三	三	三	三	三	三	三	三
物理學	四	四	四									
物理學實驗	二	二	二									
化學	三	三	三									
化學實驗	二	二	二									
英語	三	三	三									
清語	二	二	二									
工業經濟及簿記												
工場建築												
應用力學	三	三	三	四	四	四						
工業材料												
電氣工程大意												
機械學	二	二	二									
原動機	二	二	二									
特別講義												

電氣工學科

學科目	第一學年			第二學年			第三學年			第四學年		
	學期一	學期二	學期三	學期一	學期二	學期三	學期一	學期二	學期三	學期一	學期二	學期三
製圖	四	四	四	一〇	一〇	一〇	一六	一六	一六	一七	一七	二〇
實驗實習	四	四	四	七	七	七	九	九	九	九	九	九
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
修身	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
數學	五	五	五	三	三	三						
物理學	四	四	四									
物理學實驗	三	三	三									
化學	三	三	三									
化學實驗	三	三	三									
英語	三	三	三									
清語	二	二	二									
工業經濟及簿記												
工場建築法												



應用力學	工作法	工業材料	幾何書法及機械製圖	機械工學大意	機械實習	電氣化學	電氣及磁氣學	電氣及電氣測定法	發電機電動機變機	電燈及電力	電信及電話	電氣實驗	電氣設計及製圖	計	內講義
			六											三三	一八
			六											三三	一七
四			六											三六	二二
四	三		五	三	三		三							三九	二一
四	三		五	三	三		三							三九	二一
	三		五	三	三		三							三九	一七
		二	三	二			二	二	二	二				八九	一七
			三	二			二	二	二	二				八〇	一五
			三	二			二	二	二	二				八〇	一五
			三	二			二	二	二	二				八〇	一五
			三	二			二	二	二	二				八〇	一六
			三	二			二	二	二	二				八〇	一六
			三	二			二	二	二	二				八〇	二二

探鐵冶金學科

學科目	學年	探鐵科	冶金科	探鐵科	冶金科	探鐵科	冶金科	探鐵科	冶金科	探鐵科	冶金科	探鐵科	冶金科	探鐵科	冶金科
修身	第一學年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
兵式體操	第一學年	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
數學	第一學年	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
物理學	第一學年	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
物理學實驗	第一學年	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
化學	第一學年	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
英語	第一學年	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
清語	第一學年	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
工業經濟及簿記	第一學年														
衛生建築及法令	第一學年														
應用力學	第一學年			四											
工業材料	第一學年														
機械工學大意	第一學年														
機械工學實習及實驗	第一學年														

製圖及設計	化學分析	試金學及冶金實驗	吹管分析	鑛床學	測量實習	測量	採鑛學	冶金學	鑛物學實習	鑛物學	地質及岩石學	電氣冶金學	製造冶金學	電氣工學實驗	電氣工學大意
五									一	三					
五										二	二				
五											四	四			
六	八	六	四	四	二										
六	八	六	四	四	二										
一	八	〇	六	四	四	二									
七	八	八	四	三	四										
一	七	〇	八	四	三	四									
七	九	八	五	三	四										
九	二		二	三											
八	二		一	〇											
九	四														

合計	三三三	三三三	三三六	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

第三章 學年學期及休業

第七條 各學科ノ修業年限ヲ四學年ニ分チ各學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 學年ヲ分テ三學期トシ第一學期ハ四月一日ニ始リ七月三十一日ニ終リ第二學期ハ八月一日ニ始リ十月三十一日ニ終リ第三學期ハ十一月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第九條 休業日ハ左ノ如シ

- 一 祝日大祭日
- 一 日曜日
- 一 學堂記念日
- 一 冬季休業
- 一 春季休業
- 一 夏季休業

前項ノ外休業ヲ要スルトキハ學長ニ於テ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第四章 入學、在學、休學、退學及懲戒

第十條 入學ノ時期ハ學年ノ始トス

第十一條 入學スルコトヲ得ル者ハ品行方正、志望鞏固、年齢十七年以上ノ男子ニシテ左ノ諸號ノ一ニ該當シ且身體検査ヲ受ケ之ニ合格シタル者タルヘシ

- 一 中學校ヲ卒業シタル者
- 一 工業學校ヲ卒業シタル者

第十二條 入學志願者ノ數募集豫定人員ニ超過スルトキハ其ノ優良ナル者ヲ選抜シ入學ヲ許可ス  
第十三條 入學志願者ハ第二條ニ掲ケタル學科中ニ就キ一學科ヲ選ヒ願出ツヘシ但シ豫備トシテ更ニ一學科ヲ選定スルコトヲ得

第十四條 入學志願者ハ別記第一號書式ノ入學願書ニ第二號書式ノ證明書及第三號書式ノ身體検査書ヲ添ヘ出願スヘシ

第十五條 入學ヲ許可セラレタルモノハ別記第四號書式ノ在學證書ヲ指定ノ期日内ニ差出スヘシ  
第十六條 生徒ハ制服ヲ着用スヘシ

制服ハ學長之ヲ定ム

第十七條 病氣ニ罹リ三箇月以上修業シ能ハスト思料スル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ父兄(父兄ナキトキハ之ニ代ルヘキ最近ノ親族)連署ノ願書ヲ差出シ許可ヲ得テ該學年ノ終リマテ休學スルコトヲ得

第十八條 生徒退學セムトスルトキハ學長ノ許可ヲ受クヘシ  
第十九條 成業ノ見込ナシト認メタル生徒ハ學長ニ於テ之ヲ除籍スルコトヲ得

第二十條 學長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得  
懲戒ヲ罷責、停學、放校ノ三トス

第五章 試験、進級及卒業

第二十一條 試験ハ隨時之ヲ施行ス

實修化學分析及製圖ノ試験ハ之ヲ行ハサルコトヲ得

第二十二條 試験ニ缺席シタルモノハ諮議ノ上追試験ヲ行フコトヲ得

第二十三條 進級ハ該學年間ノ成績ニ就キ之ヲ評定ス  
第二十四條 第四學年ノ試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第六章 補則

第二十五條 生徒ハ之ヲ寄宿舎ニ收容ス但シ特別ノ事情アリテ外宿セントスル者ハ學長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十六條 授業料ハ當分ノ内之ヲ徴收セス

第一號書式 (用紙美濃紙)

入學願

志望學科

豫備志望學科

私儀貴學堂入學前記ノ學科修業致度候條別紙證明書並身體検査書相添ヘ此段相願候也

原籍 道府縣郡市町村番地

族稱戶主(戶主ニ非サレハ離子弟等)

現住所 道府縣郡市町村番地(寄留又ハ同居等)

家業

學歴 何中學校卒業(又ハ第五學年在學中ニ中學校ノ場合)

年月日

何

某印

生年月日

當時何歳何月

旅順工科學堂學長宛

備考

一 本表ハ自筆タルコトヲ要ス

二 志願者氏名ニハ片假名ヲ附スヘシ

第二號書式 (用紙美濃紙)

證明書

道府縣族稱

何

某

生年月日

右者何年何月本校第何學年ニ入學何年何月本校ヲ卒業シ(又ハ目下第五學年在學中ニテハ中學校ノ場合)  
左ノ成績ヲ得タルコトヲ證明ス

年 月 日

何中(工業)學校長 何

某印

學業成績

學年	修了ノ年月日	何學科	.....	.....	操行	備考
第一學年		評點				
第二學年		.....				
.....		.....				

第三號書式 (用紙美濃紙)

身體檢查書

族稱

何

某

生年月日

- 一 體格
  - 一 身長
  - 一 體重
  - 一 胸圍
  - 一 中心視力
  - 一 色盲
  - 一 眼病
  - 一 聽力
  - 一 耳疾
  - 一 呼吸器
  - 一 神經系
  - 一 皮膚
  - 一 言語
  - 一 既往現在ノ疾病又ハ畸形
- 右検査候處相違無之候也
- 年 月 日 検査

住所

何學校醫

學位者ハ

何

某印

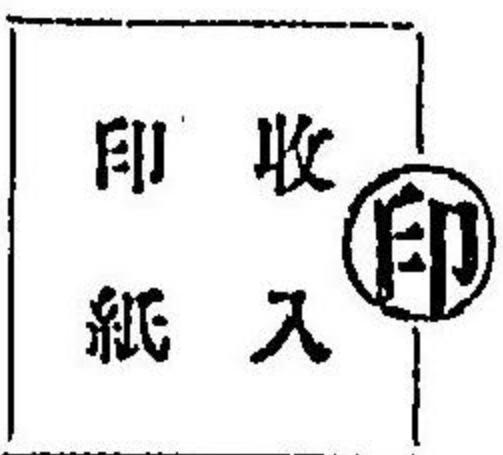
身體檢查書記載方心得

- 一 検査器械ハ「メートル」式ニ從ヒ衡器ハ水準器ヲ具ヘタルモノヲ可トス
- 二 検査ノ表記ニハ衡ハ「キログラム」度ハ「センチメートル」ヲ以テ一位トシ以下四捨五入法ヲ用ヒテ小數一位ヲ作ルヘシ
- 三 體格ハ强健、中等、薄弱ノ三等ニ區別スヘシ
- 四 體格ノ强健ト稱スルモノハ發育營養共ニ佳良ニシテ其ノ身長(糎)ヲ以テ體重(斤)ヲ除シタル商〇、三ニ以上且無病健全ノ者ヲ指ス
- 中等ト稱スルハ發育營養共ニ通常ニシテ其ノ身長(糎)ヲ以テ體重(斤)ヲ除シタル商〇、二六以上且無病ノ者ヲ指ス
- 薄弱ト稱スルハ發育營養共ニ不十分ナルカ或ハ身長(糎)ヲ以テ體重(斤)ヲ除シタル商〇、二六未滿ナルカ或ハ強度ノ脊柱灣曲扁平胸狹小胸若ハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル慢性ノ疾患アル者ヲ指ス
- 五 中心視力ハスチルレン氏ノ試視力表ニ依リテ其ノ記載方ハ「20」ト記スヘシ但シ遠視若ハ近視ニアリテハ二十尺ノ距離ニ於テ二十號ヲ明視シ得ル眼鏡ノ度ヲ記載スヘシ
- 色盲ハ其ノ有無若シ其ノ患アル者ハ何色盲ト記載スヘシ
- 六 呼吸器ハ理學的診斷ノ成績ヲ記載スヘシ
- 七 神經系ハ中樞若ハ末梢神經ニ障害ノ有無ヲ記載スヘシ
- 八 皮膚ハ主トシテ傳染症皮膚病ノ有無ヲ記載スヘシ若シ顔面等ニ現ハレタル皮膚病アルトキハ之ヲモ記載スヘシ
- 九 言語ハ明朗、吃嘎聲等ヲ記載スヘシ
- 十 既往現在ノ疾病又ハ畸形ハ腦病、肺病、肋膜炎、脚氣等ノ會患、肺病、心臟病、胃腸病等ノ現在及顯著ナル

畸形ヲ記載スヘシ

第四號書式 (用紙美濃紙)

在學證書



原籍 族稱

氏

名

生年月日

本人

氏

名印

原籍

現住所

職業

父又ハ族

氏

名印

右今般入學御許可相成候ニ就テハ御規則確守可致候也

年月日

旅順工科學堂長宛

第五類 氣象

## 第五類 氣象

●關東都督府觀測所官制 (第一類一) (章二收ム)

●觀測所及同支所名稱、位置 (第一類二) (章二收ム)

●觀測所事務規程 (第一類三) (章二收ム)

●暴風雨標條例 (明治四十一年二月十三日勅令第十一號)

### 暴風雨標條例

- 第一條 暴風雨ノ位置及進行ノ方向等ヲ船舶ニ周知セシメ航路ノ安全ヲ圖ル爲港務部、海軍望樓、海軍測器庫、要港部、燈臺、築港局及測候所ニ暴風雨標ヲ設置ス
- 第二條 暴風雨標ヲ設置スヘキ地方測候所及其ノ暴風雨標ノ位置ハ文部大臣之ヲ指定ス
- 第三條 前條ノ暴風雨標ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス但シ沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス
- 第四條 暴風雨標式ハ中央氣象臺長之ヲ定ム
- 第五條 暴風雨標ハ中央氣象臺ヨリノ警報ニ依リ之ヲ掲揚スヘシ
- 第六條 郡市區町村又ハ私人ニ於テ暴風雨標ヲ設置セムトスルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 暴風雨標ノ設置、廢止、變更及掲揚中止ハ其ノ所管大臣、臺灣總督、關東都督ニ於テ之ヲ告示スヘシ

### 附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●暴風警報信號標設置規則 (明治四十一年二月二十九日 府令 第六六號)

暴風警報信號標設置規則左ノ通相定ム

第一條 公私ノ團體其ノ他ニ於テ暴風警報信號標ヲ設置セムトスルトキハ豫メ左ノ諸件ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

- 一 位置及地勢(略圖添付)
- 二 信號ノ種類
- 三 信號標ノ高サ
- 四 設置ノ費途
- 五 維持ノ方法
- 六 管理者

第二條 暴風警報信號標ハ關東都督府測候所ヲシテ監督セシム

第三條 暴風警報信號標又ハ管理者ニ異動ヲ生シタルトキハ設置者ハ其ノ事由ヲ具シ直ニ届出ヘシ

第四條 暴風警報信號標設置者ニ於テ濫リニ既設信號標ノ様式ヲ變更シ又ハ取締上不都合ノ所爲アリタルトキハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第五條 暴風信號標ヲ新ニ設置シタルトキ又ハ之ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度告示ス

附 則

本令ハ明治四十一年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

●暴風警報信號標 (明治四十一年二月二十九日 告示 第二十二號)

關東都督府暴風警報信號標左ノ通相定ム

第一條 暴風警報信號標ヲ分チテ赤球、赤圓筒、赤圓錐、白圓錐ノ四種トシ夜間ハ紅燈ヲ以テ球ニ綠燈ヲ以テ圓筒ニ紅綠二燈ヲ以テ圓錐ニ白燈ヲ以テ圓錐ニ代用スルモノトス

第二條 球、圓筒及圓錐ハ其ノ地方警戒中ナルヲ示シ圓錐ハ其ノ地方以外ニ警戒中ノ所アルヲ示ス其ノ詳細ハ左ノ如シ

日間信號

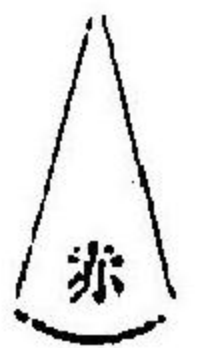
夜間信號



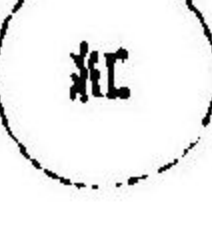
天候不穩ノ虞アリ其ノ地方沿海警戒中ナルヲ示ス



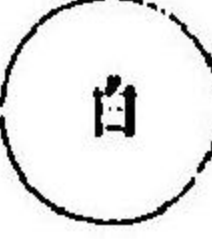
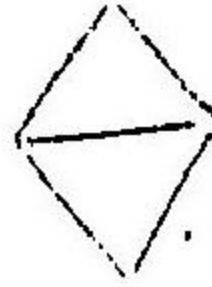
天候不穩ノ虞アリ其ノ地方海陸トモ警戒中ナルヲ示ス



天候特ニ危險ノ虞アリ其ノ地方海陸トモ警戒中ニシテ風向東ヨリ南ニ廻ラムトス



同上風向東ヨリ北ニ廻ラムトス

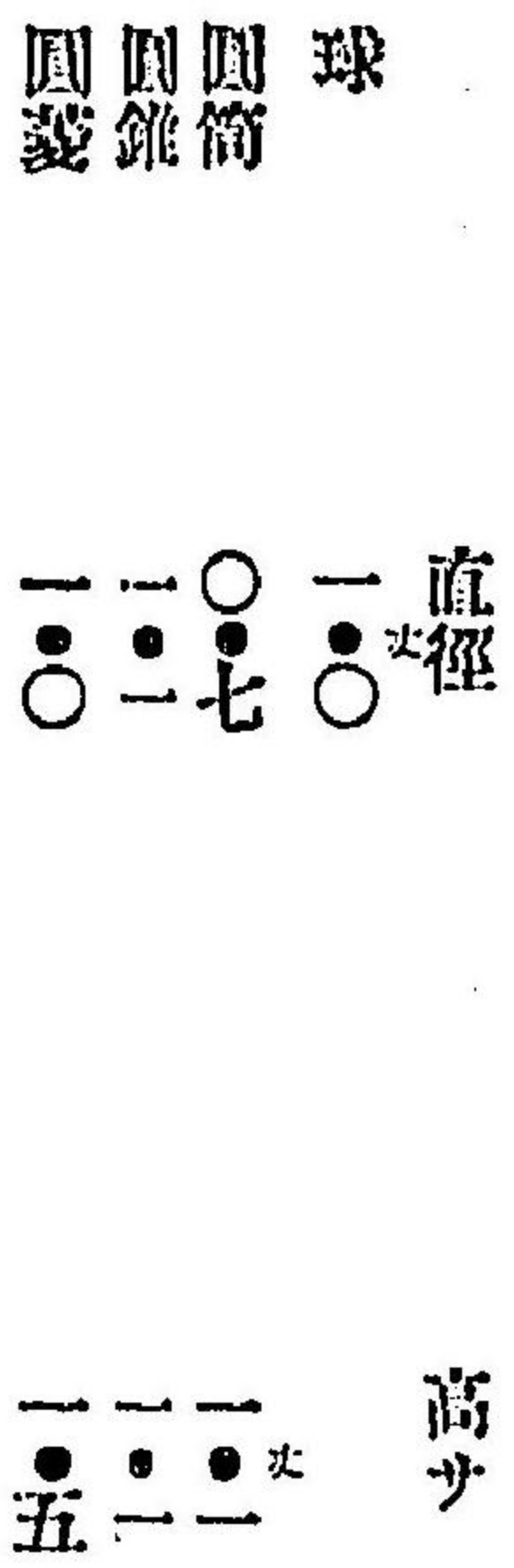


其ノ地以外ニ警戒中ノ所アルヲ示ス

第三條 暴風警報信號標ハ左ノ割合ニ據ルモノトス但シ球ノ直徑ハ三尺以上トス

第五類 氣象





第四條 暴風警報信號標ハ高さ五間以上ニシテ且三尺毎ニ赤白二色ニ塗分ケタル柱頭ニ掲クルモノトス  
 第五條 暴風警報信號標ハ大連測候所ヨリ發シタル暴風警報ニ依リ揚卸シ同時ニ警報ノ全文ヲ附近適宜ノ場  
 所ニ揭示スルモノトス

●大連測候所構内ニ正式暴風警報信號標設置 (明治四十一年三月三十日 告示第三十號)  
 大連測候所構内別記圖面ノ位置ニ正式暴風警報信號標ヲ設置シ明治四十一年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス



▲ 信號柱  
 東經 百二十一度三十六分  
 北緯 三十八度五十六分  
 信號柱高さ 七十八尺

●大連測候所構内暴風警報信號標柱ニ暴風雨標掲揚 (明治四十一年七月九日 告示第六十八號)

明治四十一年八月一日以降大連測候所構内暴風警報信號標柱ニ暴風雨標ヲ掲揚ス

●天氣豫報信號標 (明治四十一年二月二十九日 告示第二十一號)

關東都督府天氣豫報信號標左ノ通相定ム

第一條 天氣豫報信號標ヲ分チテ左ノ三種トス

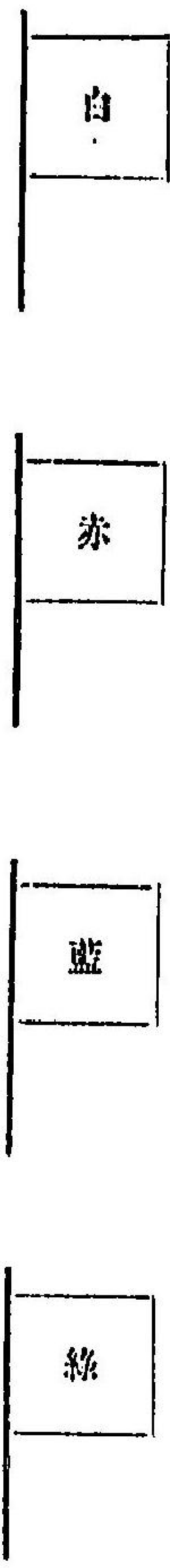
一 風向ハ三角旗ヲ以テ之ヲ示ス其ノ分類左ノ如シ

- 北ノ風
- 東ノ風
- 南ノ風
- 西ノ風



一 天氣ハ方旗ヲ以テ之ヲ示ス其ノ分類左ノ如シ

- 晴
- 曇
- 雨
- 雪



一 氣溫ノ昇降ハ長旒ヲ以テ之ヲ示ス其ノ分類左ノ如シ

第五類 氣象

溫度昇ル

溫度降ル



第二條 風力強烈ノ豫報ヲ發シタルトキハ左ノ信號標ヲ以テ之ヲ示ス



第三條 豫報用語ヲ重用スルトキハ其ノ順序ニ依リ信號標ヲ連掲スルモノトス

第四條 天氣豫報信號標ハ毎日日没迄之ヲ掲揚スルモノトス但シ臨時豫報信號標ハ此ノ限ニアラス

●氣象電報取扱規則 (明治四十一年十一月一日) (通信官署) (訓令 第四百四號) (觀測所)

明治四十一年四月訓令第五十三號關東都督府氣象電報取扱規則左ノ通改正ス

關東都督府氣象電報取扱規則

第一章 總則

第一條 關東都督府氣象電報トハ關東都督府觀測所及同支所間並兩所ト中央氣象臺、韓國仁川觀測所及韓國測候所トノ間ニ氣象ノ報告ニ關シ發スル電報ヲ謂フ

第二條 關東都督府氣象電報ヲ分テ左ノ三種トス

一 定時氣象電報

二 臨時氣象電報

三 豫報氣象電報

第三條 關東都督府氣象電報ハ賴信紙ニ其ノ種類ヲ朱書シ發信所名ヲ記セス

第四條 關東都督府氣象電報ハ至急局報ノ取扱ヲ受ケ無料トス但シ指定事項ヲ記入シタルモノ竝定時觀測時後四十分ヲ經過シテ差出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章 定時氣象電報

第五條 定時氣象電報トハ關東都督府觀測所及同支所間及兩所ヨリ中央氣象臺、韓國仁川觀測所ニ向ケ並韓國仁川觀測所及韓國測候所ヨリ關東都督府觀測所ニ向ケ毎日三回午前五時午後一時午後九時ノ觀測ヲ報スル電報ヲ謂フ其ノ電報式ハ左ノ如シ

午前五時ノ觀測ヲ報スルモノ(數字二十二字)

氣壓	風向	風速	氣温	雨量	雲量	雲形	記事	前日最高氣温	前日最低氣温
○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○

午後一時及午後九時ノ觀測ヲ報スルモノ(數字十六字)

氣壓	風向	風速	氣温	雨量	雲量	雲形	記事
○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○

第六條 前條ノ電報ニ用キル符號及記入方ハ總テ中央氣象臺電報取扱規則ニ依ル

第七條 定時氣象電報ノ發送ヲ遲延シタルトキハ速ニ電報ヲ以テ其ノ旨ヲ報シ併セテ其ノ事由ヲ詳報スヘシ

第三章 臨時氣象電報

第八條 臨時氣象電報トハ左記ノ場合ニ發スル電報ヲ謂フ

甲 關東都督府觀測所及同支所間及兩所ヨリ中央氣象臺、韓國仁川觀測所ニ向ケ並韓國仁川觀測所及韓國

測候所ヨリ關東都督府觀測所へ發スル電報

- 一 最低氣壓 七百四十耗以下トナリタルトキ
- 二 地震アリタルトキ

乙 天候異常ノ際關東都督府觀測所及同支所間ニ發スル警報電報

第九條 前條甲ノ場合ニハ左記電報式ニ依リ中央氣象臺電報取扱規則ニ依リ發送スヘシ

- 一 最低氣壓 同上時刻 最大風速 風速度大 記事(數字十)
- 二 震度 時 分 秒 性質(數字九字)

第十條 警報電報ハ左記電報式ニ依ル

- 警戒 最低氣壓 最低氣壓 進行 警戒 (片假名七字)

第十一條 前條ニ用キル符號ハ別ニ定ムルモノノ外中央氣象臺電報取扱規則ニ依ル

第四章 豫報氣象電報

第十二條 豫報氣象電報ハ豫報區ヲ大連、營口、奉天、長春ノ四區ニ分チ各區ニ多量ナル天氣及午前五時ノ氣壓配置等ヲ左記電報式ニ依リ毎日一回關東都督府觀測所ヨリ同支所ヘ向ケ發スル電報ヲ謂フ

- 大連區 營口區 奉天區 長春區 位置 示度 位置 示度 位置 示度 位置 示度 (片假名十六字)
- 低 壓 部 高 壓 部

第十三條 事故ノ爲某區ノ豫報ヲ發セサルトキ又ハ高低氣壓中報スヘキモノナキトキハ其ノ位置ニ〇ヲ填寫ス

第十四條 各種符號ハ左ノ如シ

第一風向符號	
符號和	符號烈
イ	北ノ風
ロ	北又ハ東ノ風
ハ	東ノ風
ニ	南又ハ東ノ風
ホ	南ノ風
ヘ	南又ハ西ノ風
ト	西ノ風
チ	北又ハ西ノ風
ン	區々ノ風

第二豫報符號	
符號	豫報
イ	概子晴レ

ロ 概子晴レ但シ雨模様アリ  
 ハ 概子晴レ但シ雪模様アリ  
 ニ 概子晴レ但シ雨又ハ雪模様アリ  
 ホ 概子晴レ後曇  
 ヘ 概子晴レ後雨模様アリ  
 ト 概子晴レ後雪模様アリ  
 チ 概子晴レ後雨又ハ雪模様アリ  
 リ 概子曇リ  
 ヌ 概子曇リ但シ雨模様アリ  
 ル 概子曇リ但シ雪模様アリ  
 ヲ 概子曇リ但シ雨又ハ雪模様アリ  
 カ 概子曇リ後雨  
 ヲ 概子曇リ後雪  
 ヲ 概子曇リ後雨又ハ雪  
 ヲ 概子雨  
 ツ 概子雪  
 ツ 概子雨又ハ雪  
 ナ 概子雨後晴レ  
 ナ 概子雪後晴レ

ラ 概子雨又ハ雪後晴レ  
 ム 概子雨後曇リ  
 ウ 概子雪後曇リ  
 キ 概子雨又ハ雪後曇リ  
 ノ 天氣不定  
 オ 豫報ヲ發セス  
 ク 概子晴レ温度下降ノ模様アリ  
 ヤ 概子晴レ温度上昇ノ模様アリ  
 マ 概子曇リ温度下降ノ模様アリ  
 ケ 概子曇リ温度上昇ノ模様アリ

第三警戒符號

符號	警戒用語
イ	天候不穩ノ虞アリ沿海ヲ警戒ス
ロ	天候不穩ノ虞アリ海陸ヲ警戒ス
ハ	天候特ニ危険ノ虞アリ海陸ヲ警戒ス風向東ヨリ南ニ廻ラントス
ニ	天候特ニ危険ノ虞アリ海陸ヲ警戒ス風向東ヨリ北ニ廻ラントス
ミ	沿海ノ警戒ヲ解ク
シ	内陸ノ警戒ヲ解ク

エ 海陸ノ警戒ヲ解ク

第四氣壓符號

イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ	ヌ	ル	符號
七三四	七三五	七三六	七三七	七三八	七三九	七四〇	七四一	七四二	七四三	七四四	示
ワ	カ	ヨ	タ	レ	ソ	ツ	子	ナ	ラ	ム	符號
七四六	七四七	七四八	七四九	七五〇	七五一	七五二	七五三	七五四	七五五	七五六	示
キ	ノ	オ	ク	ヤ	マ	ケ	フ	コ	エ	テ	符號
七五八	七五九	七六〇	七六一	七六二	七六三	七六四	七六五	七六六	七六七	七六八	示
サ	キ	ユ	メ	シ	ヒ	モ	セ	ス	ン	符號	
七七〇	七七二	七七三	七七四	七七五	七七六	七七七	七七八	七七九	七八〇	七八一	示

附則

本令ハ明治四十一年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關東都督府管内標準時 (明治四十年五月十四日 告示第三十五號)

關東都督府管内ノ標準時ハ明治四十年五月十六日ヨリ帝國西部標準時ニ據ル

第六類 警察

# 第六類 警察

## 第一章 通則

### ●警務署職制

(明治三十九年十二月五日) (民政部)  
(訓令第六十五號)

關東都督府警務署職制左ノ通相定ム

關東都督府警務署職制

第一條 各警務署ニ左ノ職員ヲ配置ス

署長	一	人
警部	若	干
翻譯生	若	干
巡查	若	干

前項警部以下ノ定員ハ各警務署ヲ通シテ警部十五人、翻譯生七人、巡查三百人トス各警務署ノ定員ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 警務署長ハ民政長官ノ指揮監督ヲ受ケ管轄區域内ノ行政警察及司法警察ノ事務ヲ掌理ス

第三條 警務署長ハ其ノ管轄區域内ニ於ケル保護取締ニ必要ナル告示又ハ告諭ヲ發スルコトヲ得

第四條 警務署長ハ部下ヲ監督シ其ノ功過ヲ民政長官ニ具狀ス

第五條 警務署長事故アルトキハ上席警部其ノ職務ヲ代理ス

第六條 警務支署長ハ警務署長ノ指揮監督ヲ受ケ管轄區域内ノ行政警察及司法警察ノ事務ヲ掌理ス

第七條 警務支署長事故アルトキハ上席警部、警部在ラサルトキハ上席巡查部長其ノ職務ヲ代理ス

第八條 警部巡查ノ勤務ニ關シテハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依ル

●警務署及同支署設置 (第一類二) (章ニ收ム)

●警務署及同支署名稱、位置、管轄區域 (同上)

●民政署警察官吏駐在所及警務署警察官吏出張所改稱 (同上)

●警察處務細則 (明治三十九年四月十八日) (訓令 第十號) (警務部) (支署)

關東州民政署警察處務細則左ノ通相定ム

關東州民政署警察處務細則

第一章 通則

第一條 民政署警務部出張所、支署及本署出張所ニ於テ管掌スル警察事務ハ別ニ規定アルモノノ外此ノ細則ニ依リ處理スヘシ

第二條 警察事務ハ其ノ必要ニ應シ晝夜ヲ別タス之ヲ處理スヘシ

第三條 凡ソ事務ヲ處理スルニハ專ラ敏活ヲ旨トシ其ノ期限ヲ誤リ又ハ機宜ヲ失スルコトナキヲ要ス

第四條 上官ノ命シタル期限内ニ處理スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ申出テ指揮ヲ受クヘシ

左ニ掲クル事項ハ主任警部親ラ掌理スヘシ但シ警務部長又ハ支署長親ラ處理スヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一 高等警察ニ關スル事項
- 二 職員ノ進退賞罰ニ關スル事項
- 三 警察費及衛生費ノ經理並調度ニ關スル事項

四 其ノ他機密又ハ重要ナル事項

警部ニアラサル者支署長代理タルトキハ支署長ニ於テ特ニ命シタル場合ノ外機密ニ關スル文書ハ封緘ノ儘主任警部ニ交付シ處理セシムヘシ

第五條 前條以外ノ事務ハ左ノ各號ニ依リ主任警部ニ於テ次席警部以下ノ擔任ヲ定メ警務部長又ハ支署長ニ報告スヘシ

第一分掌 警務ニ關スル事項

第二分掌 保安ニ關スル事項

第三分掌 衛生ニ關スル事項

第四分掌 司法警察及違警罪即決ニ關スル事項

第六條 前條ニ依リ分掌ヲ定ムト雖事務ノ緩急ニ因リ互ニ之ヲ共助シ確實ニ其ノ進捗ヲ圖ルコトヲ要ス

第二章 處務

第七條 凡ソ文書及事件ハ主任警部之ヲ接受シ内勤巡查ヲシテ別記第一號様式ノ收發件名簿ニ登録セシメ親ラ處理スヘキモノノ外處分ノ方案ヲ示シ其ノ分掌者ニ配付シ認印ヲ徴スヘシ但シ親展文書ハ別記第二號様式ノ文書送付簿ニ記載シ封緘ノ儘宛名ノ者ニ送付シ受領者ノ認印ヲ受ク

第八條 親展文書ノ送付ヲ受ケタル者ハ別ニ收發件名簿ヲ備ヘ置キ前條本文ノ例ニ準シ之ヲ處理スヘシ

第九條 電報又ハ外國語ヲ以テ記載シタル文書ハ之ニ譯文ヲ附シ前二條ノ例ニ依リ處理スヘシ

第十條 收受文書又ハ事件ニ金員又ハ物品ノ添屬スルモノハ別記第三號様式ノ金品收受簿ニ其ノ種類員數ヲ明記シ受領者ノ認印ヲ受クヘシ

第十一條 人民ヨリ提出シタル諸願届書等ニシテ誤謬又ハ不備ノ廉アリト雖主意ニ相違ナキモノハ之ヲ受理シ若シ訂正ヲ要スルトキハ懇切ニ其ノ廉ヲ指示シ本人自書スルコト能ハサルトキハ代書スル等事ニ害無キ



限リハ成ルヘク便宜ヲ與フヘシ

第十二條 口頭ヲ以テ願届ヲ爲ス者アルトキハ特ニ本人ヨリ書面ヲ徵スル必要アル場合ノ外其ノ供述ヲ錄取シ本人ヲシテ署名捺印セシメタル上前數條ノ例ニ依リ處理スヘシ

第十三條 警務部出張所又ハ支署出張所ニ於テ受理シタル文書又ハ其ノ所限リ處理スヘキモノノ外必要ノ調査ヲ遂ケ速ニ警務部又ハ支署ニ送置スヘシ

第十四條 諸願届ニシテ急ヲ要セサルモノ及本人ヲシテ本署、支署又ハ出張所へ出頭セシムルノ必要ナキモノハ便宜警察官吏派出所又ハ巡回中ノ警察官吏ニ於テ之ヲ接受スルコトヲ得

第十五條 警察官吏派出所ニ於テ前條ノ願届ヲ接授シタルトキハ日誌ニ其ノ件名及差出人ノ住所氏名ヲ登記シ其ノ文書ノ欄外ニ接受年月日ヲ記シ取扱者認印ノ上便宜ノ方法ヲ以テ警務部（大連市内ニ在リテハ警務部出張所）支署又ハ支署出張所ニ送致スヘシ但シ其ノ事件ニ依リ必要ト認ムルトキハ意見書ヲ附シ又ハ實地臨檢ノ上實況書ヲ添付スルコトヲ要ス

第十六條 各分掌ニ於テ文書又ハ事件ノ配付ヲ受ケタルトキハ即時處分案ヲ具シ關係書類ヲ添付シ關係係及分掌ニ合議ノ上主任警部ヲ經テ決裁ヲ受クヘシ但シ急ヲ要スル事件ハ合議ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ處分後關係係又ハ分掌ニ回覽スルコトヲ要ス

第十七條 凡ソ文案ハ原議用紙ニ起草スルヲ例トス但シ輕易又ハ定例アルモノハ成ルヘク其ノ文書ノ餘白又ハ欄外ニ起草スルコトヲ要ス

第十八條 諸願届諸表其ノ他ノ文書ニシテ添申ヲ要セサルモノハ、ノ文書ノ餘白又ハ欄外ニ接受又ハ發送年月日及番號ヲ記入シ支署長又ハ出張所主任警部捺印ノ上進達スヘシ

第十九條 本署、支署及出張所間ニ於ケル照會等ニシテ原書ノ保存ヲ要セサルモノハ其ノ餘白又ハ欄外ニ回答文ヲ記載シ返付スヘシ

第二十條 送達先ノ同一ナル文書ハ成ルヘク合封スヘシ其ノ親展封書ヲ普通文書ニ合封シタルトキハ其ノ封皮ニ親展書在中ト朱書スヘシ

第二十一條 支署ヨリ進達スル文書ハ特ニ民政長官ノ親展ヲ要スルモノノ外警務部長又ハ警務部ニ送付スヘシ

第二十二條 警察事務ニ關スル文書ハ總テ其ノ封皮ニ㊦印ヲ押捺スヘシ其ノ親展文書ニハ㊧印ノ外親展ヲ押捺シ高等警察ニ關スル文書ニハ尙㊨印ヲ押捺スヘシ

第二十三條 文書ヲ發送セントスルトキハ收發件名簿ニ登錄シ原議ト正本ニ契印スヘシ但シ電報ハ原議ト頼信紙ニ契印シ發送ノ後收發件名簿ニ登錄スルモノトス

第二十四條 電話ヲ以テ送達スル照會應答ハ電報ニ倣ヒ文案ヲ作り之ヲ朗讀シ受話者ハ之ヲ石板又ハ木板ニ錄取シ互ニ照合ノ上別記第四號様式ノ受話用紙ニ改寫シ第七條ノ例ニ依リ處理スヘシ

第二十五條 事ノ輕易ナルモノ又ハ特ニ急ヲ要スル電報及電話ハ發送（送話）後ニ於テ文案ヲ作り若ハ之ヲ省略シ單ニ其ノ要領ヲ收發件名簿ニ登錄スルコトヲ得

第二十六條 主任警部ハ隨時收發件名簿ニ就キ事件ノ結末ヲ檢閲シ既決事件ニハ相當欄内ニ檢印スヘシ

第二十七條 警務部出張所、支署、支署出張所及警察官吏派出所ハ別記第五號様式ノ日誌ヲ備ヘ置キ日發生セル事件ノ要領ヲ記載シ執務上ノ参照ニ供スヘシ

第三章 文書整理

第二十八條 文書ハ警務部出張所、支署及支署出張所ニ在リテハ文書擔任者ヲシテ之ヲ整理セシメ警察官吏派出所ニ在リテハ取締之ヲ整理スヘシ

第二十九條 文書ノ種目及保存期限ハ別表ニ依ル但シ登錄スヘキ事項又ハ編綴スヘキ文書ナキモノハ設備ス

ルヲ要セス

法令ノ結果ニ因リ設備又ハ廢止ヲ要スルモノハ別表ニ追加若ハ削除セラレタルモノト見做ス

前項ニ依ルニアラスシテ別表以外ノ種目ヲ設ケントスルトキハ認可ヲ受クヘシ

第三十條 文書ハ其ノ事件結了マテ其ノ取扱者ニ於テ之ヲ保管シ結了ノ上終局ノ文書ヲ初葉トシ關係文書ハ

月日ノ順序ヲ正シテ之ヲ添屬シテ假綴スヘシ

第三十一條 假綴シタル文書ハ翌年二月會計ニ關スル文書ハ金庫開鎖後ニ至リ主任警部又ハ警察官吏派出所取締ニ於テ更ニ之ヲ檢閲シ別記第六號様式ニ依リ本綴トシ一定ノ場所ニ保存スヘシ

第三十二條 第二類ノ文書ハ各種一箇年又ハ一箇年度官報ハ一箇月分ヲ一冊トス但シ執務ノ便宜ニ依リ各分掌別ト

シテ其ノ紙數多キモノハ厚サ約三寸ヲ程度トシ之ヲ數冊ニ分テ其ノ少キモノハ保存期限ノ等シキモノニ合

綴シ若ハ數年費用スルコトヲ

前項ニ依リ一種ヲ數冊ニ分テタルトキハ表紙ニ符號何冊ノ内ヲ朱記シ數種ヲ合綴シタルトキハ種目ノ表紙ニ列記シ其ノ第一類ニアリテハ尙口座ヲ分チ見出シヲ付スヘシ

第三十三條 從タル文書ハ主タル文書ニ合綴スヘシ其ノ主從ノ別ナクシテ事件相關聯スルモノハ各別ニ編綴

スヘシト雖將來參照ヲ要スルモノト認ムルトキハ欄外ニ關係文書ノ所在ヲ朱記スルヲ要ス

第三十四條 文書ノ索引ハ別記第七號様式ニ依リ其ノ編首ニ添付スヘシ索引ニ記載シタル文書ヲ拔取り又ハ

變更シタルトキハ其ノ事由ヲ記入スヘシ

第三十五條 簿冊目錄ハ別記第八號様式ニ依リ之ヲ調製シ編冊又ハ處分ノ都度之ニ記載スヘシ

第三十六條 文書ノ保存期限ハ其ノ事件ノ完結シタル翌年一月ヨリ起算ス

第三十七條 保存期限ノ經過シタル文書ハ其ノ目錄ヲ作り警務部長又ハ支署長ノ決裁ヲ經テ適宜ノ處置ヲ爲

スヘシ

保存期限ノ經過シタル文書ト雖必要ト認ムルトキハ尙保存スルコトヲ得

第三十八條 本章ノ規定ハ高等警察及司法警察事務ニ關スル文書ニ之ヲ適用セス

附則

此ノ細則ニ定ムルモノノ外ハ本署又ハ支署處務細則ニ依ル

(別記様式並文書種目表)

第一號 收發件名簿様式 (用紙美濃紙)

月日	番號	件名	出所又ハ宛名	處理要領	所在
一月一日	收發一號	何地警察官吏派出所新設ノ件稟申	民政長官宛	(一)一月四日警務部長ヨリ何々ノ照會來ル (二)同月五日何々ト回答 (三)同月四日附新設認可ノ旨指令セラレ (四)何月何日新設開始ノ旨報告濟	
一月二日	收發二號	何々ニ付街路使用願	何町第 番 何 某	(一)即日何巡査ニ臨檢ヲ命ス (二)同日何々ニ付故障ナキ旨復命 (三)何々ヨリ三日間使用許可濟	
月	收發號				
日	號				

記載例

- 一 番號ハ毎年一月一日ニ始リ十二月三十一日ニ終ル而シテ一事件完結ニ至ルマテハ同一番號ヲ費用シ第何號ノ一、二、三ヲ以テ整理スヘシ。
- 二 番號符號ハ左ノ例ニ依ル
  - (イ) 警務部出張所 大警收(發)(親)(秘) 第何號
  - (ロ) 旅順支署 旅警收(發)(親)(秘) 第何號
  - (ハ) 金州支署 金警收(發)(親)(秘) 第何號
- 三 番號欄ノ收發ノ文字ハ收受ニ在リテハ發字ヲ塗抹シ發送ニ在リテハ收字ヲ塗抹スルモノトス
- 四 處理要領欄ニハ其ノ事件ノ概要ヲ摘載スヘシ其ノ記事欄内ニ記入シ盡スコト能ハサルトキハ懸紙ヲ爲シ記載スルモノトス
- 五 所在欄ニハ其ノ文書ヲ編綴シタル種目ノ番號ヲ記入スヘシ
- 六 隨時記入ヲ要セサルモノノ外ハ不動文字トス

第二號 文書送付簿様式 (用紙半紙罫紙)

月 日	受領者 認印	宛 名	差 出 人	種 類	員 數	取扱者 認印
何月何日	Ⓢ	民 政 支 署	官 房 主 事	親 展 電 報 一 通		Ⓢ

第三號 金品收受簿様式 (用紙美濃罫紙)

月 日	金 品 收 受 簿	添 屬 文 書 番 號	金 員 物 品 種 類 員 數	發 送 人	受 領 者 印	取 扱 者 印

第四號 受話用紙 (紙質半紙又ハ半紙判洋紙)

宛 名	出 所	送 話 者	受 話 者
旅 順 支 署 長	金 州 支 署 長	巡 査 何 某	巡 査 何 某

明治何年何月何日午前何時受話

何々ノ件

第五號 日誌様式 (用紙半紙罫紙)

日誌	
標目	記事
	何月何日何曜日晴(曇)(小雨)寒暖 日中何度 夜半何度
出張	何警部ハ何々ノ爲何々へ出張㊦
捜査協議	何憲兵隊詰何憲兵曹來署何々事件手當方ニ付何々ノ件協議セリ
人民救助	何町第何番地 何某長男 何 某 年
說諭	午前何時何十分巡查何地警邏中誤テ何川ニ陥リ溺死セントスルヲ認メ何町何番戸何某ト協力シ之ヲ救ヒ上ケ何々ノ手當ヲ爲ス生命別條ナシ 何町第何番地 願人何商 何 某 年 何町何番地 被願人何商 何 某 年

	右ハ何々ニ付說諭願出シタルニ付何々ノ說諭ヲ爲シタルニ被願人ハ之ヲ承服シ何々ノ義務ヲ了シ一件落着セリ㊦
來官	何署官氏名ハ何々視察(打合せ)トシテ午後何時來署何々ノ上何時退署㊦
盜難	何町何番地 何商 何 某 年
	何々ニ於テ何外何點盜ニ罹リタル旨届出ニ付何巡查臨檢何々ノ手配セリ㊦

記載例

- 一 本様式ハ單ニ其ノ一例ヲ示スモノニ付當日間ニ於ケル内外ノ事故ヲ網羅シ記載スルモノトス
- 二 記事ヲ記入シタルトキハ其ノ終末ニ筆者ノ認印ヲ爲スヘシ
- 三 警察官吏派出所駐在所ノ日誌ニハ巡視官ノ巡視シタル記事欄ニ自ラニ何月何日檢了ト記入シ認印スヘシ

第六號 警察 第一章 通則  
文書編綴樣式

分三寸二

明治何年(度)至何月何日分明治何年何月迄保存無期保存

第何號

何々編

何文署

何冊之内(三三三)

何警察官吏派出所駐在所

何年 分 何 編

五 寸

第七號 文書索引樣式

月	日	番	號	出	所	摘	要	丁	數

第八號 簿冊目錄 (用紙美濃罨紙)

編纂番號	種	目	冊數	摘	要	書	函
明治何年(度)分 無期保存(明治何年何月迄保存)							

文書種目表

警務部出張所支署及支署出張所備付第一類

種 警察沿革誌 警察官署ノ設置廢止部内ノ狀況事務ノ概要

第六類 警察 第一章 通則

三〇五

保存期限 無期 有 索引 無

管內地圖	警邏線路圖	監督巡視區域圖	須知	戶口調查簿	日誌	監督日誌	訓令	命令	職員名簿	圖書目錄帳	簿錄	出勤簿	收發件名簿	金品送達簿	文書送達簿	俸給諸給臺帳	巡查巡捕俸給其ノ他支給諸帳	巡査巡捕及備人料支給諸帳
------	-------	---------	----	-------	----	------	----	----	------	-------	----	-----	-------	-------	-------	--------	---------------	--------------

上級官署發令(出張所)發令ノ部ニ分チ本人ニ辭令交付前之ヲ膺シ得  
ヘシ支取(出張所)發令ノ部ハ之ニ決判シテ原職ニ代フルコトヲ得  
出張其ノ他辭令書ヲ用ヒツル命令ヲ登載ス  
抜差簿ヲ用フ

一人毎ニ口座別トス  
同上  
同上

同  
同  
同  
同 同

給助臺帳	被服屬具受拂簿	被服屬具支給臺帳	被服屬具番號簿	會計書類移送簿	備品受拂簿	備品內譯簿	備品保管簿	消耗品受拂簿	銃器出納簿	銃器內譯簿	彈藥出納簿	彈藥貸與簿	藥莢受拂簿	得遺失物出納簿	留置人賄簿	旅行許可人名簿	管外居住營業人名簿	宿屋下宿屋木賃宿營業諸帳	質屋古物商營業臺帳
------	---------	----------	---------	---------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	---------	-------	---------	-----------	--------------	-----------

無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期  
無 五 年 期

貸座敷營業臺帳	同	三〇八	同
料理店飲食店待合引手茶屋營業臺帳	同	同	同
藝妓酌婦雇婦女名簿	同	同	同
娼妓名簿	同	同	同
馬車營業臺帳	同	同	同
人力車營業臺帳	同	同	同
販者及輓子名簿	同	同	同
諸營業臺帳	同	同	同
諸營業雇人名簿	同	同	同
諸營業臨檢簿	同	同	同
監視人名簿	同	同	同
犯罪人名簿	同	同	同
醫師藥劑師產婆看護婦種痘製藥者及輸入商商按接術者營業者名簿	同	同	同
傳染病患者臺帳	同	同	同
埋火罪認許證下附原簿	同	同	同
屠夫名簿	同	同	同
屠獸檢査簿	同	同	同
健康診断受檢名簿	同	同	同

警務部出張所、支署及支署出張所備付第二類

病類毎ニ口座別トス

警察取締ニ屬スル營業ニシテ別ニ種目ヲ掲ケサルモノヲ登錄ス

各受持巡査各自別冊トシ種目口座別ニ登錄ス

官報	無	保存期限	有
本署令達及同指令編	同	無	有
本署内達及同指令編	同	同	有
支署令達及同指令編	同	同	有
支署内達及同指令編	同	同	有
事務引繼書類編	同	同	有
統計諸表編	同	同	有
統計材料編	同	同	有
職員進退書類編	同	同	有
親展書類編	同	同	有
給助書類編	同	同	有
警察職員履歷編	同	同	有
巡査及巡捕身分明細表	同	同	有
諸官衙往復書類編	同	同	有
職員願屆書類編	同	同	有
警察配置書類編	同	同	有
勤務表編	同	同	有
警務票編	同	同	有
會計例規編	同	同	有

令達及同指令其ノ他例規トナルヘキ照會通牒等ヲ收綴ス

同上親展ニ係ルモノヲ收綴ス

同上親展ニ係ルモノヲ收綴ス

別ニ種目ヲ掲ケサル親展文書ヲ收綴ス







九 前各項ノ外必要ト認ムル事項

- 第五條 甲種巡閱官ハ當該部署長以下ニ要求シテ警察ニ關スル諸般ノ調査書ヲ徵スルコトヲ得
- 第六條 巡閱官ハ巡閱ニ際シ實務ノ成績ヲ檢閲スル爲必要ト認ムルトキハ實地ニ就キ查閱スルコトヲ得
- 第七條 警察ノ處分又ハ警察處務ノ便否ニ關シ意見ヲ申告スルモノアルトキハ巡閱官之ヲ受理查閱スヘシ
- 第八條 警察巡閱ハ甲種ニアリテハ毎年一回以上乙種ニアリテハ毎年二回以上(前後中期各一回以上)施行スルモノトス
- 第九條 民政署長又ハ事務官巡閱ヲ行フトキハ豫メ其ノ官署及日程ヲ報告スヘシ
- 第十條 甲種巡閱官巡閱ヲ終リタルトキハ直ニ其ノ概況ヲ復命シ尙書面ヲ以テ詳細復命スヘシ
- 乙種巡閱官巡閱ヲ終リタルトキハ十五日以内ニ第四條各號ノ事項ニ就キ其ノ狀況ヲ詳細報告スヘシ

●警察操典 (明治三十九年八月三日) (警務部) (訓令第二十三號) (支署)

關東州民政署警察操典別冊ノ通相定ム但シ別冊ハ別ニ之ヲ頒ツ此ノ操典ハ之ヲ巡捕ニ準用ス

(別冊略ス)

●巡查訓授規程 (明治三十九年八月三日) (警務部) (訓令第二十五號) (支署)

關東州民政署巡查訓授規程左ノ通相定ム

關東州民政署巡查訓授規程

- 第一條 訓授ハ警察事務ノ進捗及統一ヲ圖リ且巡查ノ心術ヲ涵養スルヲ以テ目的トシ左ノ各號ニ就キ之ヲ行フヘシ

一 服務上ノ心得

二 職務上必要ナル法規ノ要旨

三 事務取扱及職務執行ノ方法

四 當日又ハ最近ニ處分若ハ著手スヘキ事件ノ要旨

五 前各號ノ外必要ト認ムル事項

第二條 訓授ハ専ラ實務ニ資スル爲平易懇切ヲ旨トシ濫ニ理論ニ涉リ若ハ形式ニ流レサルコトニ注意スヘシ

第三條 訓授ハ主任警部又ハ其ノ代理官ニ於テ之ヲ行フ

第四條 訓授ハ警務部出張所、支署又ハ支署出張所所在地ニ在勤スル者ニ對シテハ勤務當日交代時刻前ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ他ノ地ニ在勤スル者ハ毎月其ノ半數ツツ各一回以上召集ノ上訓授ヲ爲スノ外監督巡視ノ際之ヲ行フヘシ

前項ノ外訓授ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ隨時之ヲ行フヘシ

第五條 訓授ハ一定ノ場所ニ於テ椅卓ニ倚ラシメ之ヲ行フヲ例トシ其ノ席次ハ豫メ指定シ置クヘシ應合其ノ

他ノ都合ニ依リ前項ノ規定ニ依ルトコト能ハサルトキハ便宜ニ從フ

第六條 訓授場ニ於テハ姿勢ヲ正シ私語談笑、喫烟其ノ他怠慢非禮ノ所爲アルヘカラス

訓授中止ムヲ得サル事故ノ爲退場セントスルトキハ許可ヲ受クヘシ

第七條 訓授ノ際上官ニ對シ上申セントスルトキハ發言ノ許可ヲ受ケ椅子ニ倚リタルトキハ起立シ整列シタルトキハ適宜前進シテ之ヲ爲シ終テ舊位ニ復スヘシ但シ指名ヲ以テ爲シタル質問ニ對シ答申スルトキハ許可ヲ受クルノ限ニ在ラス

第八條 警務部出張所、支署、支署出張所及警察官吏駐在所ニハ訓授録ヲ備ヘ置キ訓授ノ要領ヲ記載スヘシ

監督員警察官吏駐在所ヲ巡視シタルトキハ訓授ノ形式ニ依ラスシテ單ニ注意シタル事項ト雖總テ之ヲ訓授

錄又ハ日誌ニ記載スヘシ

第九條 訓授録ハ隨時警務部長又ハ支署長ノ檢閲ヲ受クヘシ

警務部長又ハ支署長其ノ檢閲シタル事項ニ付意見アルトキハ之ヲ欄外ニ記入シ下付スヘシ

第十條 訓授シタル事項ニシテ其ノ訓授ヲ受ケタル以外ノ者ニモ之ヲ知ラシムル必要アリト認ムルトキハ訓授録ヲ謄寫シ適宜之ヲ配布スヘシ

前項ノ配付ヲ受ケタルトキハ關係職員ニ周知セシメタル後別ニ之ヲ編綴シ保存スヘシ

附則

此ノ規程ハ之ヲ巡捕ニ準用ス

● 巡查點檢規程 (明治三十九年八月三日) (警務部) (訓令第二十四號)

關東州民政署巡查點檢規程左ノ通相定ム

關東州民政署巡查點檢規程

第一章 總則

第一條 巡查ノ人員、服裝、姿勢、禮式、操練及給與品貸與品並宿舍ハ本規程ニ依リ之ヲ點檢スヘシ

第二條 點檢ヲ別テ甲種點檢及乙種點檢トス

甲種點檢ハ人員、服裝、姿勢、禮式、操練及銃器其ノ他日常ノ携帶品ヲ點檢シ乙種點檢ハ給與品並貸與品ノ保存ノ適否及宿舍ノ狀況ヲ點檢スルモノトス

第三條 點檢ハ警務部出張所支署又ハ支署出張所ニ在リテハ主任警部點檢官ト爲リ次席者ヲ指揮官トス其ノ警視以上又ハ支署長點檢ヲ爲ストキハ主任警部指揮官タルヘシ但シ點檢官又ハ指揮官事故アルトキハ次席者ニ於テ順次之ヲ代理ス

前項以外ノ地ニ在リテハ警部又ハ巡查部長指揮官ヲ兼テ親ラ點檢ヲ行フヘシ

第四條 點檢ハ點檢官ニ於テ指揮官以下ノ警部及受檢ノ列ニ入ラサル巡查部長ヲ隨ヘ各員ニ就キ嚴密ニ之行フヘシ

第五條 受檢者ヲ整列セシメ點檢ヲ行フトキハ特ニ規定スルモノノ外警察操典ニ依ル

第六條 點檢ハ受檢人員ノ多寡又ハ點檢場ノ都合ニ依リ本規程ニ定ムル方式ノ幾部ヲ適宜斟酌シテ之ヲ行フコトヲ得

第七條 點檢ヲ終リタルトキハ點檢官其ノ成績ヲ講評シ且將來注意スヘキ事項ヲ訓示スヘシ

第二章 甲種點檢

第八條 甲種點檢ハ警務部出張所支署及支署出張所所在地ニ在勤スル者ニ對シテハ勤務當日交代時間前ニ於テ之ヲ行フ但シ禮式及操練ノ點檢ハ一週一回マテニ減シ尙其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

前項以外ノ地ニ在勤スル者ニ對シテハ其ノ半數ツツ毎月各一回以上警務部出張所支署又ハ支署出張所ニ召集シ點檢ヲ行フノ外監督巡視ノ際毎月二回以上其ノ全員ニ對シ之ヲ行フヘシ

警務部出張所、支署及支署出張所所在地以外ノ在勤者ヲ召集シ其ノ召集地ニ在勤スル者ト同時ニ點檢ヲ行ハントスルトキハ第一項ノ點檢時刻ヲ適宜變更スルコトヲ得

第九條 甲種點檢ハ警察操典第六十九乃至第七十二ニ依リ受檢者ヲ整列セシメ之ヲ行フヘシ

前項ノ整頓終レハ「休メ」ノ號令ヲ下シ點檢官ノ臨場ヲ待ツヘシ

第十條 點檢官臨場シタルトキハ指揮官ハ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ直ニ點檢官ノ許ニ至リテ受檢人員ヲ報告シタル後順次左ノ號令ヲ下シ銃器ヲ點檢ニ供スヘシ

(一)前列(五)(六)歩前(後列)何步(後)へ進メ

(二)檢メ銃

此ノ號令ニテ列員一齊ニ警察操典第三十九ニ準シ銃ノ遊底ヲ開キテ點檢ニ供シ而シテ點檢終リタル者ハ銃ノ遊底ヲ閉チ「氣ヲ付ケ」ノ姿勢ニ復ス

全員點檢終リタルトキハ左ノ號令ヲ下ス

(三)後列閉メ 進メ

(四)組メ 銃

(五)解レ 進メ

第十一條 手帳、名刺、非常準備金、捕繩及警笛ハ先ツ(一)(二)ノ號令ヲ以テ受檢者ヲ整頓シ次ニ(三)以下ノ號令ヲ下シ之ヲ點檢スヘシ但シ(一)ノ號令ヲ下ストキハ指揮官ハ適當ノ地位ニ立チ右手ヲ舉ケ列員ノ占ムヘキ地點ヲ示スコトヲ要ス

(一)集レ

(二)前列三步前(後列六步後)へ 進メ

(三)手帳

此ノ號令ニテ列員ハ右手ヲ以テ手帳ヲ取出シ左手ヲ添ヘテ印章ノ押捺シタル部分ヲ開キ名刺五枚以上及非常準備金ヲ其ノ對面ノ所ニ置キ之ヲ右手ニ保持シ拇指ヲ以テ其ノ中央ヲ押ヘ肘ヲ體ニ接シ掌ヲ肘ト水平ニ前方ニ出シテ點檢ニ供シ左手ハ刀柄ヲ握ル

(四)收メ

此ノ號令ニテ列員ハ速ニ左手ヲ添テ手帳ヲ閉チ非常準備金ト共ニ右手ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

(五)捕繩

此ノ號令ニテ列員ハ右手ヲ以テ捕繩ヲ取出シ(三)ノ要領ニ準シ解キ口ヲ前方上部ニ向ケ點檢ニ供スヘシ

(六)解ケ

此ノ號令ニテ列員ハ捕繩ノ解キ口ヲ啣ミ幾部ヲ解舒シテ其ノ一端ヲ把リ殘部ヲ前方ニ投出シ點檢ニ供スヘシ

(七)收メ

此ノ號令ニテ列員ハ左手ヲ添ヘ假ニ捕繩ヲ繰リ纏メ之ヲ納ムヘシ

(八)警笛

此ノ號令ニテ列員ハ右手ヲ以テ警笛ヲ取出シ横孔ヲ下向ニ向ケ拇指ト食指ヲ以テ之ヲ保持シ(三)ノ要領ニ準シ點檢ニ供スヘシ

(九)吹ケ

此ノ號令ニテ前列一番ヨリ順次警笛ヲ長ク一聲ツツ吹鳴スヘシ

(十)收メ

此ノ號令ニテ列員ハ速ニ警笛ヲ納ムヘシ

第十二條 刀、服裝及姿勢ノ點檢ハ先ツ(一)(二)ノ號令ヲ下シテ列員ノ間隔ヲ取ラシメ次ニ(三)以下ノ號令ヲ下シ之ヲ行フヘシ

(一)前列六(三)步前(後列)何「步後」へ 進メ

(二)奇(偶)數伍三步前(六步後)へ 進メ

(三)抜ケ 刀

(四)收メ 刀

(五)偶(奇)數伍(閉メ)三步前(六步後)へ 進メ

(六)脱レ 帽

此ノ號令ニテ列員ハ右手ノ拇指ト食指ヲ以テ帽ノ頤紐ヲ脱シ前底ヲ撮ミ動令ニテ帽ヲ脱シ之ヲ垂下シ其ノ